

「高校教育改革に関する調査 2024」 報告書

株式会社リクルート（本社：東京都千代田区 代表取締役社長：北村吉弘）が運営する、リクルート進学総研では、高校の教育改革に関する現状を明らかにするため、全国の全日制高校に対して新学習指導要領、入試改革、ICT活用、キャリア教育、進路指導、学校改革等の取り組みに関する調査を実施いたしました。この度調査結果がまとまりましたので、ご報告いたします。

株式会社リクルート リクルート進学総研

Summary

「新学習指導要領」への対応について

- ・【授業】【教材】【教材】のいずれも「計画通りに進んだ」が8割前後。時系列でも「計画以上・計画通りに進んだ・計」の割合が増加。特に【評価】は8ポイントの増加。
- ・課題感のある教科については、【特になし】が30%。およそ3校につき1校は課題がないと感じている。上がった中では【情報】について課題を感じている学校が41%で最も多い。
- ・回答校の68%が文系・理系コースに「わかれている」と回答。時系列でみると、2022年と変化はない。「文理コース」を選択する時期は「高校1年生10～12月」がおおよ半数を占める。時系列でみると、2022年と大きな変化はない。

「総合的な探究の時間」について

- ・「総合的な探究の時間」への取り組みは「導入・計」が前年同様、9割を超える。
- ・導入校における、取り組みにあたり最も難しいと感じるステップとしては、「課題の設定」が6割強を占める。
- ・「総合的な探究の時間」への取り組みによる生徒の変化として「そう思う」割合が最も高いのは、【主体性・多様性・協働性が向上した】（14%）。一方、「総合的な探究の時間」への取り組みによる教員・学校の変化として「そう思う」割合が最も高いのは、【地域など校外との関係ができた／深まった】（20%）。
- ・また、「総合的な探究の時間」に取り組むにあたっての課題は【教員の負担の大きさ】が82%でトップ。
- ・ほとんどの学校が、「探究活動」が生徒の進路選択へつなげると回答。

ICT活用について

- ・99%が授業、ホームルーム、探究などの教育活動にICTを活用。現在の教育活動における具体的なICT活用方法・活用シーンは【宿題・課題の配信】が92%でトップ。
- ・ICT活用への取り組みによる生徒の変化では、【主体性・多様性・協働性が向上した】（38%）、【学びに向かう姿勢・意欲が向上した】（37%）が上位。一方、ICT活用による教員・学校の変化としては、【授業の質が向上した】が56%でトップ。
- ・今後の教育活動におけるICTの活用方法は「宿題・課題等をオンラインで配布」が56%でトップ。
- ・ICTの活用によって狙いたい効果・変化のトップは、「生徒の興味を喚起し、学習へのモチベーションを上げる」（59%）。以下、「生徒一人ひとりが自分に合った方法や進度で学習できる」と「先生方の負担軽減・校務の効率化」が（各54%）で続く。

AI活用について

- ・学校の業務における「生成AI」の活用状況は、全体では「教員個人で活用している」（50%）と「使い始めている（活用はまだこれから）」（46%）の回答に二分される。
- ・「生成AI」の活用場面のトップは「授業教材やテスト問題の作成」（43%）、以下「挨拶文や保護者向けお知らせ文書の作成」（33%）、「課題の採点や添削」（25%）。

進路検討における「オープンキャンパス」参加について

- ・進路検討における「オープンキャンパス」参加の推奨度は、96%の学校が「参加」を推奨、「強く推奨している」も6割を超える。2022年と比較して大きな変化はなく、依然として高水準。オープンキャンパスを推奨する理由は「入学後のミスマッチの防止・齟齬の解消」がトップ。

入試の早期化について

- ・「入試の早期化」の好ましさは、「あまり好ましくない」が48%で半数近くを占め、「非常に好ましくない」と合わせた「好ましくない・計」は63%で6割以上が「好ましくない」と回答している。

これからの社会について

- ・これからの社会が「好ましい社会だ」とする割合は、2021年の6割の水準には届かなかったものの、2022年より増加。
- ・教員からみて、今後の社会に特に必要とされると思う社会人基礎力は「主体性」「課題発見力」が上位。一方、現在の高校生にこれらが「備わっている」と感じる割合は低い。

進路指導とキャリア教育

- ・進路指導上の課題は、「入学者選抜の多様化」が62%でトップ。以下、「教員が進路指導を行うための時間の不足」が60%、「学習意欲の低下」が55%で続く。時系列でみると、2022年と比較して上位項目に大きな変化はない。
- ・キャリア教育に関しては、96%が取り組んでいると回答。2022年と比較すると、「学校全体」での取り組みが4ポイント増加した一方、「学年や課程・学科・コース単位」が10ポイント大きく減少し「組織的対応・計」では6ポイント減少して85%。キャリア教育の今後の課題は「教員の負担の大きさ」が66%でやや突出。

教員の労働時間について

- ・最も時間のかかる業務のトップは「授業準備」（30%）。以下「部活指導」（19%）、「教材研究」（14%）。2022年と比較して、大きな変化はない。
- ・ICTの活用により最も業務時間が削減されたと思う業務を尋ねたところ、「採点」が27%でトップ。次いで「授業準備」が15%で続き、他は1割未満と低い。「特になし」が24%と高い。

目次

「新学習指導要領」への対応について

- 1. 新学習指導要領への対応の進捗度 6
- 2. 「新学習指導要領」への取り組みにあたり課題感のある教科 10
- 3. 「文理コース選択」の状況 12

「総合的な探究の時間」について

- 1. 「総合的な探究の時間」への取り組み状況 14
- 2. 取り組みにあたり最も難しいと感じるステップ 15
 - ・ <フリーアンサー>取り組みが難しいと感じる理由 16
 - ・ <フリーアンサー>「総合的な探究の時間」の具体的な探究内容 17
- 3. 「総合的な探究の時間」への取り組みによる生徒の変化 19
- 4. 「総合的な探究の時間」への取り組みによる教員・学校の変化 21
- 5. 「総合的な探究の時間」に取り組むにあたっての課題 23
- 6. カリキュラム・マネジメントにおける「総合的な探究の時間」の位置づけ 25
- 7. 「探究活動」の生徒の進路選択へのつながりについての考え 26

「アントレプレナーシップ(起業家精神)教育」の導入について

- 1. 「アントレプレナーシップ(起業家精神)教育」の導入・活用状況 28
- 2. アントレプレナーシップ教育に取り組むにあたっての課題 29

ICT活用について

- 1. 教育活動へのICT活用状況 31
- 2. 具体的な活用方法・活用シーン 32
- 3. ICT活用による生徒の変化 34
- 4. ICT活用による教員・学校の変化 36
- 5. ICT活用による効果や変化 38
- 6. ICT活用にあたっての課題 40
- 7. 今後の教育活動におけるICT活用方法 42
- 8. ICTの活用によって狙いたい効果・変化 44
- 9. GIGAスクール構想の進捗を踏まえたICT活用推進に向けての取り組み 46

AI活用について

- 1. 学校内の業務における「生成AI」の活用状況 48
- 2. 「生成AI」の活用場面 49
 - ・ <フリーアンサー>「AI」の出現への期待 51
 - ・ <フリーアンサー>「AI」の出現による今後の影響や不安 52

高校の募集状況について

- 1. 令和5年度の受験者応募状況 53
- 2. 定員割れに対する対策の検討・実施状況 54
 - ・ <フリーアンサー> 定員割れに対する対策の具体的な内容 55

進路検討における「オープンキャンパス」参加について

- 1. 進路検討における「オープンキャンパス」参加の推奨度 56
- 2. 進路検討における「オープンキャンパス」参加の推奨理由 57
 - ・ <フリーアンサー> 「オープンキャンパス」を推奨する理由 58

入試の早期化について

- 1. 「入試の早期化」の好ましさ 59
 - ・ <フリーアンサー> 入試の早期化に対する考え方の理由 60
 - ・ <フリーアンサー> 入試の早期化が進む中で起こっている進路指導の変化 61

「これからの社会」について

- 1. これからの社会の好ましさ 62
 - ・ <フリーアンサー> 「『これからの社会』の好ましさ」への回答の理由 63
- 2. 社会人基礎力 64

進路指導とキャリア教育

- 1. 進路指導上の課題 69
- 2. キャリア教育の取り組み状況 71
 - ・ <フリーアンサー> 特に力を入れているキャリア教育 72
- 3. キャリア教育の実施時間 73
- 4. キャリア教育の見直し 75
- 5. キャリア教育を進めていく上での今後の課題 76

高校と高等教育機関との連携

- 1. 大学・短期大学に期待すること 78
 - ・ <フリーアンサー> 大学・短期大学との接続・連携、情報提供・公開についての意見や課題 80
- 2. 専門学校に期待すること 81
 - ・ <フリーアンサー> 専門学校との接続・連携、情報提供・公開についての意見や課題 83

教員の労働時間について

- 1. 最も時間のかかる業務 84
- 2. ICT活用により最も業務時間が削減されたと思う業務 86

調査概要

- 調査対象 全国の全日制高等学校4,679校
- 調査方法 郵送調査＋インターネット調査
※校長宛てに調査票を郵送、回答を記入の上郵送にて返送または記載のURLからWeb調査に回答
- 調査期間 2024年9月5日（木）～9月20日（金）投函締め切り
※2024年9月30日（月）到着分までを集計対象とした。
- 有効回答数 671件（回収率14.3％）

回答校のプロフィール

■高校学科（高校タイプ）（全体／単一回答） (%)

	普通科・計		総合学科	専門学科	その他	無回答	普通科・計
	普通科	普通科と 他学科併 設					
2024年 全体 (n= 671)	57.1	19.4	5.7	13.6	1.8	2.5	76.5
2022年 全体 (n= 943)	56.7	23.6	6.4	11.6	1.3	0.4	80.4
2021年 全体 (n=1156)	58.5	20.2	6.5	13.8	0.6	0.5	78.6
2018年 全体 (n=1203)	56.8	20.9	6.6	13.7	*	2.0	77.7
2016年 全体 (n=1105)	56.6	20.2	7.4	11.5	3.4	0.9	76.7
2014年 全体 (n=1140)	54.6	20.1	6.3	11.8	5.4	1.8	74.7
2012年 全体 (n=1179)	54.3	19.1	7.0	11.6	4.7	3.2	73.4
2010年 全体 (n=1208)	53.0	20.4	7.5	13.7	4.2	1.3	73.3
2008年 全体 (n= 910)	53.5	19.8	5.7	15.4	4.5	1.1	73.3
2006年 全体 (n= 813)	52.3	19.2	7.4	17.8	3.4	—	71.5
2004年 全体 (n=1122)	52.9	18.8	4.6	18.2	4.5	1.1	71.7

※総合学科：2018年調査以前は「総合学科単独校（移行中含む）」「総合学科併設校」の合計

※「*」は該当の選択肢なし

■大学・短期大学進学率（全体／単一回答） (%)

	70% 以上	40%～ 70% 未満	40%未 満	無回答
2024年 全体 (n= 671)	47.5	19.7	32.8	—
2022年 全体 (n= 943)	45.1	22.4	32.6	—
2021年 全体 (n=1156)	43.7	20.8	35.0	0.5
2018年 全体 (n=1203)	45.0	19.1	34.3	1.5
2016年 全体 (n=1105)	47.5	19.0	32.4	1.1
2014年 全体 (n=1140)	46.5	18.6	34.1	0.8
2012年 全体 (n=1179)	45.7	19.8	32.9	0.5
2010年 全体 (n=1208)	41.5	21.1	36.7	0.7
2008年 全体 (n= 910)	37.8	23.1	38.8	0.3
2006年 全体 (n= 813)	30.8	22.8	46.5	—
2004年 全体 (n=1122)	31.7	23.4	44.9	—

■高校設置者（全体／単一回答） (%)

	国公立	私立	無回答
2024年 全体 (n= 671)	70.5	29.5	—
2022年 全体 (n= 943)	71.7	28.3	—
2021年 全体 (n=1156)	73.4	26.0	0.5
2018年 全体 (n=1203)	72.6	25.9	1.5
2016年 全体 (n=1105)	71.0	28.0	1.1
2014年 全体 (n=1140)	73.3	25.9	0.8
2012年 全体 (n=1179)	74.6	24.9	0.5
2010年 全体 (n=1208)	74.5	24.8	0.7
2008年 全体 (n= 910)	74.2	25.5	0.3
2006年 全体 (n= 813)	76.9	23.1	—
2004年 全体 (n=1122)	77.5	22.5	—

■高校所在地（全体／単一回答） (%)

	北海道	東北	北関東・ 甲信越		南関東	東海	北陸	関西	中国・四 国	中国		九州・沖 縄	無回答	
			北関東	甲信越						中国	四国			
2024年 全体 (n= 671)	7.9	12.4	9.2	4.2	5.1	18.8	10.0	3.0	11.5	11.6	7.3	4.3	15.6	—
2022年 全体 (n= 943)	8.0	10.6	11.7	6.8	4.9	17.4	13.8	2.4	10.5	11.7	7.6	4.0	14.0	—
2021年 全体 (n=1156)	7.9	12.1	12.1	6.9	5.2	18.0	11.1	2.5	12.4	11.1	8.2	2.9	12.4	0.5
2018年 全体 (n=1203)	8.3	8.6	12.9	7.1	5.8	18.5	12.4	2.8	11.7	11.7	7.3	4.4	11.5	1.5
2016年 全体 (n=1105)	6.2	9.2	13.9	7.9	6.1	18.4	13.4	2.7	13.3	10.0	7.1	2.9	11.8	1.1
2014年 全体 (n=1140)	7.1	11.4	11.8	6.4	5.4	16.8	13.5	2.7	12.0	11.3	7.1	4.2	12.5	0.8
2012年 全体 (n=1179)	7.5	10.3	11.5	6.2	5.3	17.3	12.7	2.4	13.2	11.6	8.1	3.5	12.9	0.5
2010年 全体 (n=1208)	7.9	10.1	11.9	7.2	4.7	17.5	11.6	3.0	12.7	12.4	8.9	3.5	12.2	0.7
2008年 全体 (n= 910)	9.0	9.7	11.6	6.3	5.4	18.9	11.4	3.2	12.1	12.3	8.1	4.2	11.4	0.3
2006年 全体 (n= 813)	7.4	10.6	29.9			18.0			11.8	10.7	*	*	11.7	*
2004年 全体 (n=1122)	7.7	7.8	31.2			14.3			15.8	10.9	*	*	12.4	*

回答者のプロフィール

■校務分掌（全体／複数回答）

（％）

	校長	副校長・ 教頭	主幹教諭	教務主任	教務部	進路指導 主事	進路指導 部	学年主任	学年担当	その他	無回答
2024年 全体 (n= 671)	1.8	4.9	4.8	3.7	1.0	75.0	16.2	1.5	4.6	2.2	2.2
2022年 全体 (n= 943)	0.3	2.7	4.9	2.7	1.0	80.4	16.6	1.3	4.0	2.7	0.2
2021年 全体 (n=1156)	9.4	24.0	5.5	10.9	1.4	47.3	11.9	0.9	2.8	3.1	0.3
2018年 全体 (n=1203)	5.9	15.5	*	9.6	1.1	59.4	10.6	1.2	2.5	2.1	2.0
2016年 全体 (n=1105)	0.1	0.1	*	*	*	85.0	13.1	2.4	9.4	1.4	1.4
2014年 全体 (n=1140)	—	0.5	*	*	*	85.0	12.5	1.9	7.0	2.3	1.8
2012年 全体 (n=1179)	—	0.3	*	*	*	84.4	11.9	1.2	5.9	2.4	2.8
2010年 全体 (n=1208)	—	0.2	*	*	*	84.1	14.5	1.5	7.0	2.4	1.3
2008年 全体 (n= 910)	—	0.3	*	*	*	84.5	12.4	2.9	7.8	2.7	1.6
2006年 全体 (n= 813)	—	0.2	*	*	*	81.8	15.0	2.5	4.6	3.2	2.6
2004年 全体 (n=1122)	—	—	*	*	*	82.4	14.6	0.7	0.3	0.9	1.2

[*]は該当の選択肢なし

■回答者の教員年数（全体／実数回答）

（％）

	5年未満	5年～10 年未満	10年～15 年未満	15年～20 年未満	20年～25 年未満	25年～30 年未満	30年～35 年未満	35年～40 年未満	40年以上	無回答	平均年数 (年)
2024年 全体 (n= 671)	1.3	4.0	13.4	14.3	16.1	15.8	17.6	11.3	2.5	3.6	23.7

「新学習指導要領」への対応について

1. 新学習指導要領への対応の進捗度

1) 新学習指導要領への対応の進捗度の概況

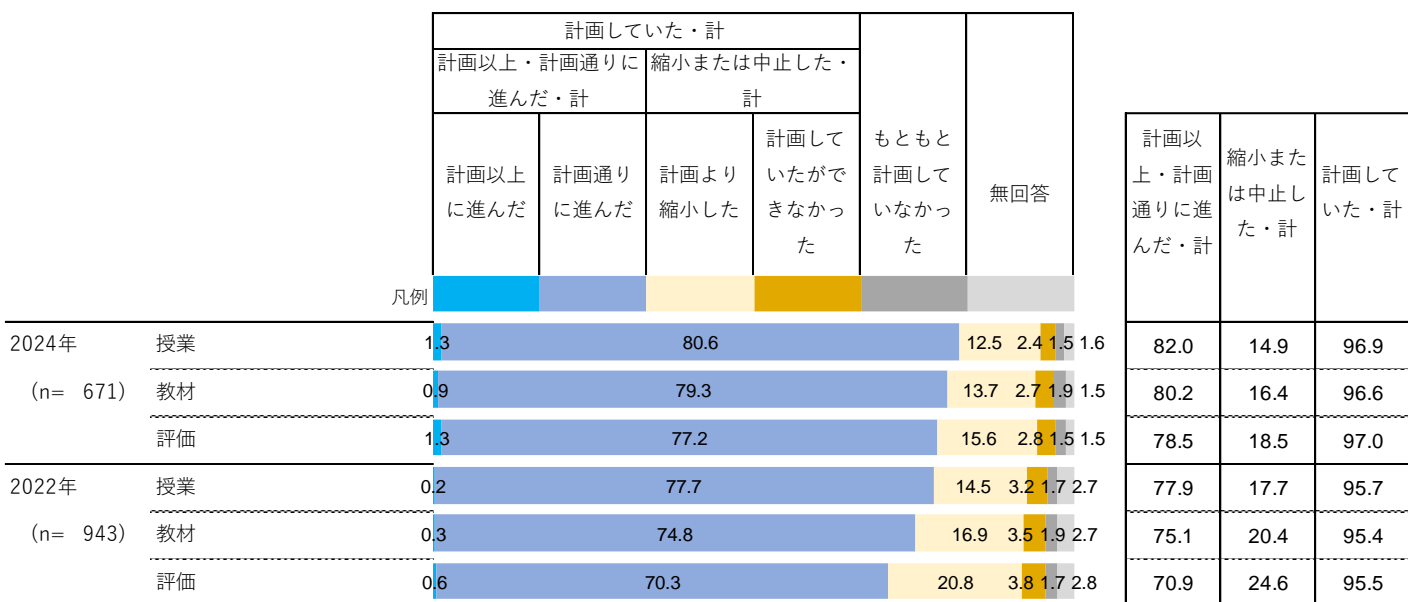
■ いずれも「計画通りに進んだ」が8割前後を占め、【授業】では82%を占める。

- 2022年と比較して、いずれの項目でも「計画以上・計画通りに進んだ・計」の割合が増加。特に【評価】では8ポイント増加した。

■新学習指導要領への対応の進捗度（全体／各単一回答）

(%)

新学習指導要領への対応に関して、進捗度で近いものを教えてください。



Q1M7

1) 新学習指導要領への対応の進捗度の概況 A)授業について

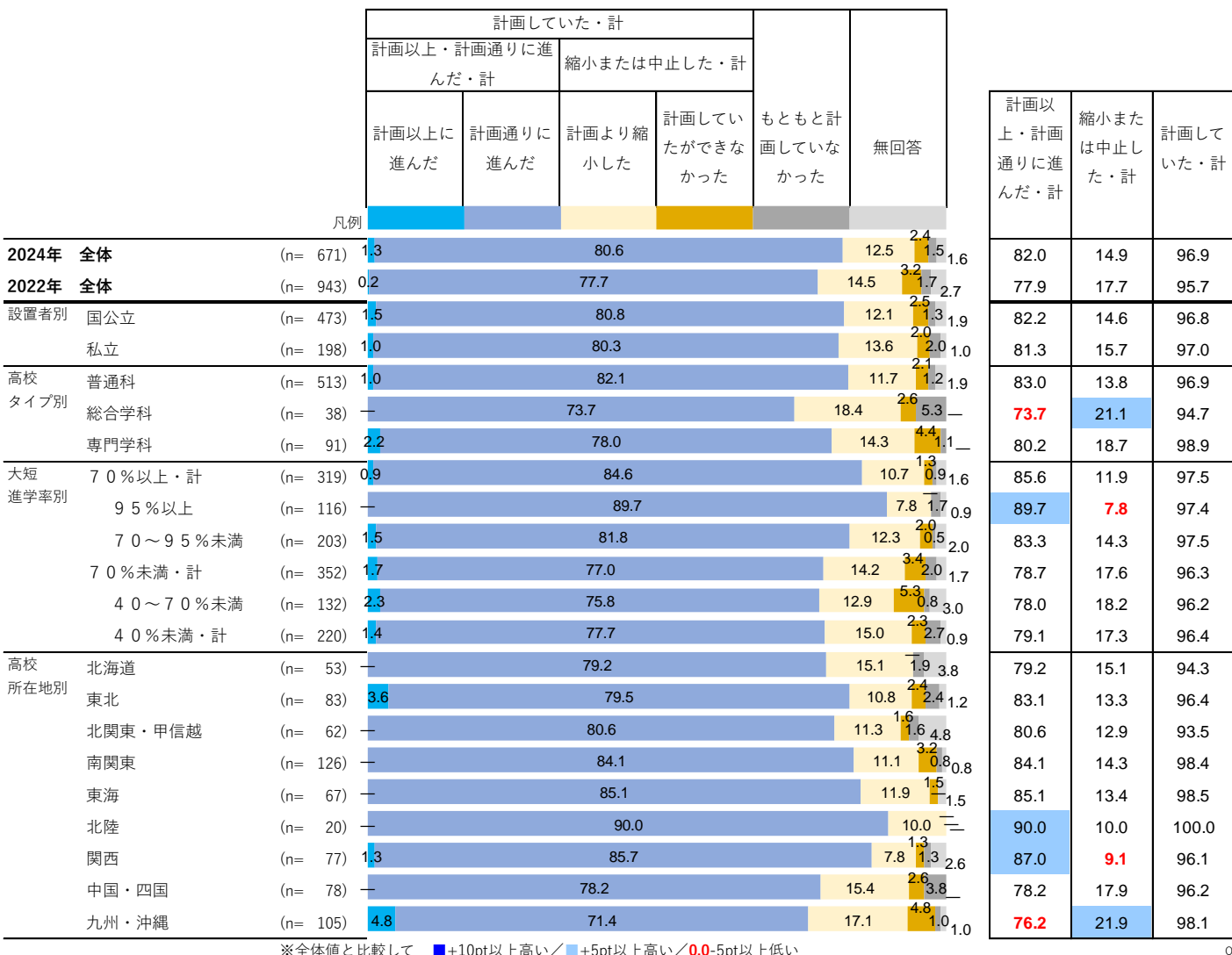
■【授業】については、全体の82%が「計画以上・計画通りに進んだ」と回答。

- 時系列で見ると、2022年と比較して「計画以上・計画通りに進んだ・計」が4ポイント増加。
- 高校タイプ別にみると、総合学科は「計画より縮小した」が全体と比較して高い。
- 大短進学率別にみると、進学率が70%以上の高校で、70%未満の高校と比較して「計画以上・計画通りに進んだ・計」の割合が高い。
- 高校所在地別にみると、北陸、関西で「計画以上・計画通りに進んだ・計」の割合が高い。

■新学習指導要領への対応の進捗度の概況 (全体/単一回答)

(%)

新学習指導要領への対応に関して、進捗度で近いものを教えてください。：A) 授業



Q1A

1) 新学習指導要領への対応の進捗度の概況 B)教材について

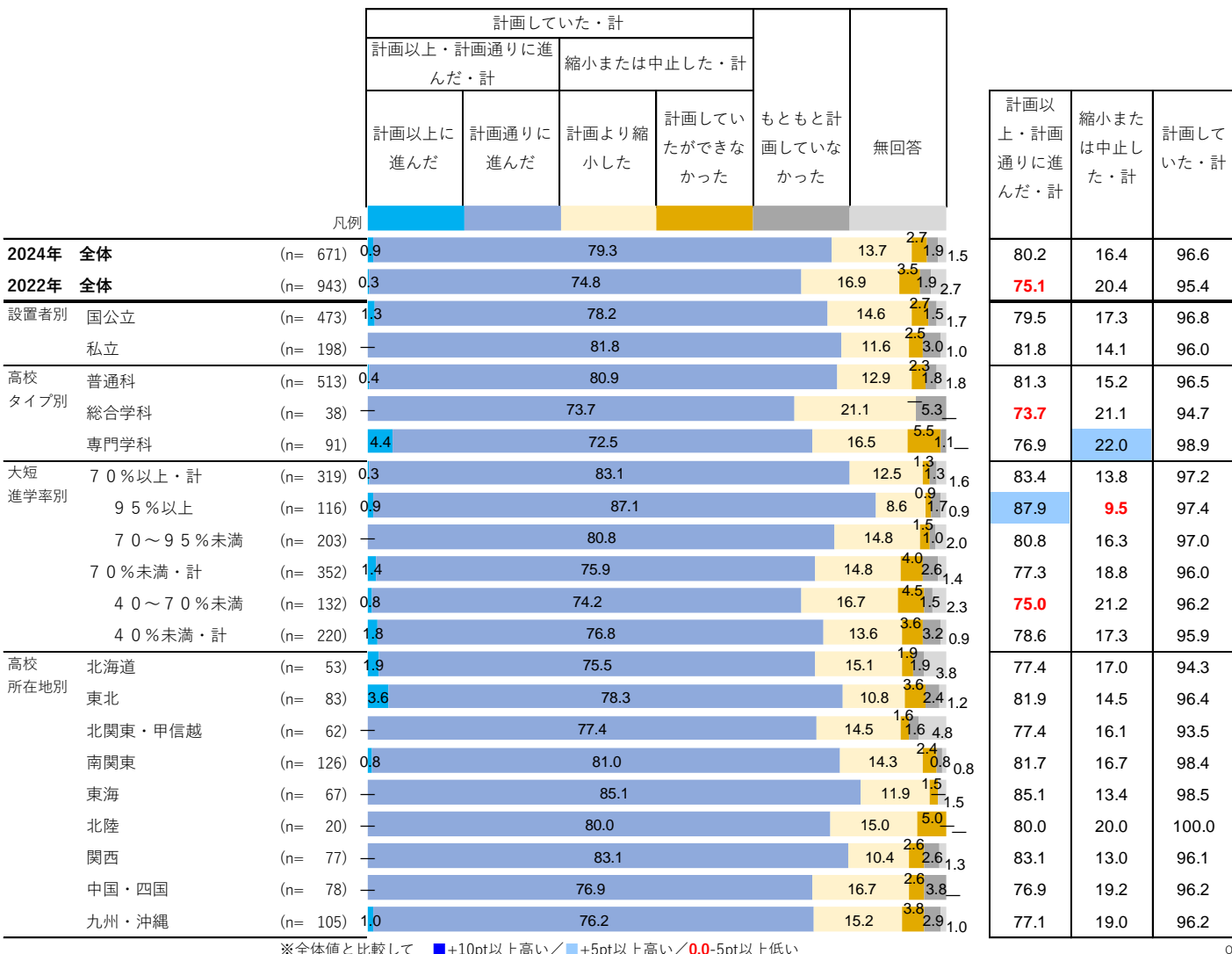
■【教材】については、全体の80%が「計画以上・計画通りに進んだ」と回答。

- 時系列で見ると、2022年と比較して「計画以上・計画通りに進んだ・計」が5ポイント増加。
- 高校タイプ別にみると、総合学科は「計画以上・計画通りに進んだ・計」が全体と比較して低い。
- 大短進学率別にみると、進学率が70%以上の高校で、70%未満の高校と比較して「計画以上・計画通りに進んだ・計」の割合が高い。

■新学習指導要領への対応の進捗度の概況（全体／単一回答）

(%)

新学習指導要領への対応に関して、進捗度で近いものを教えてください。：B)教材



Q18

1) 新学習指導要領への対応の進捗度の概況 C)評価について

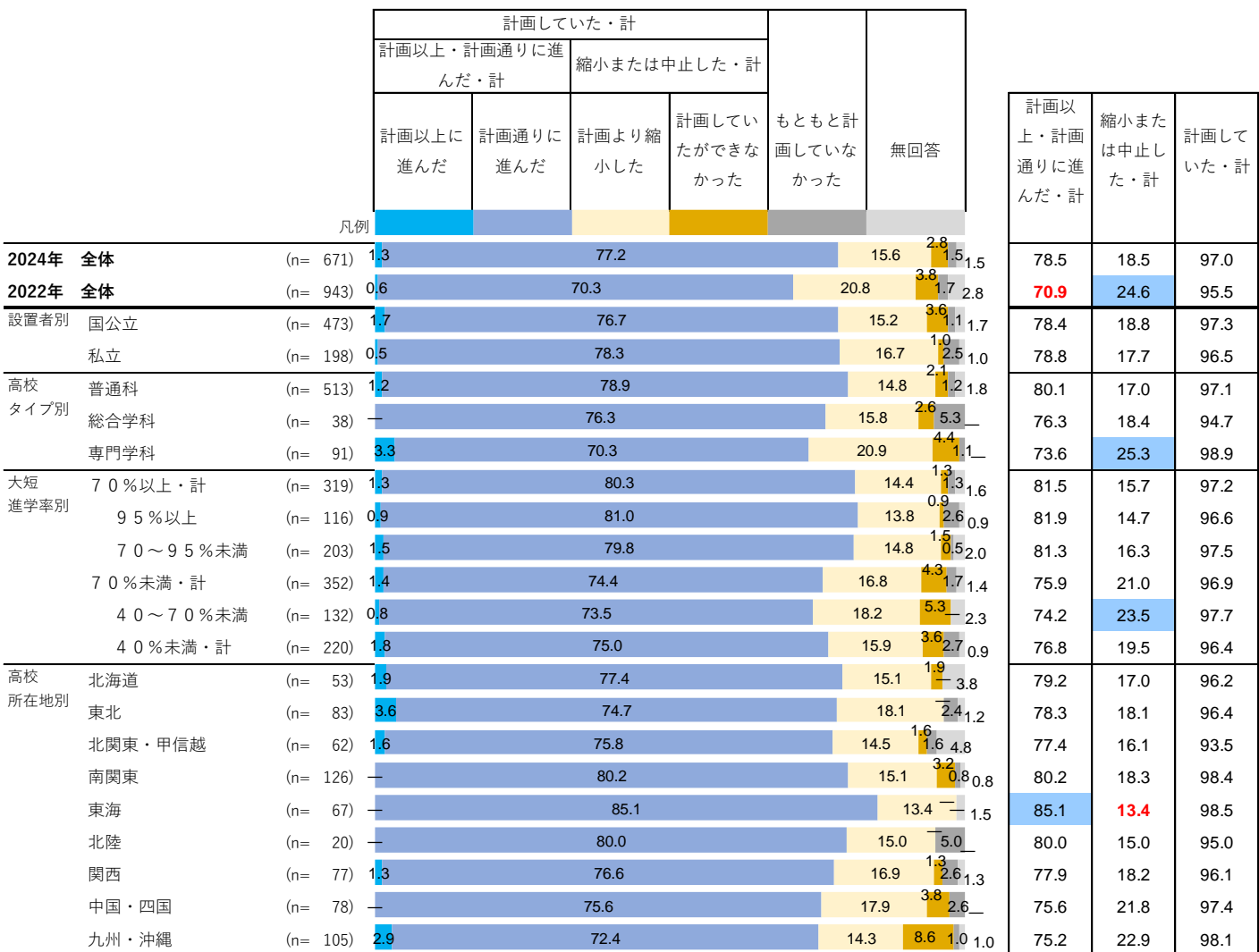
■【評価】については、全体の79%が「計画以上・計画通りに進んだ」と回答。

- 時系列で見ると、2022年と比較して「計画以上・計画通りに進んだ・計」が8ポイント増加。
- 高校タイプ別にみると、専門学科で「計画以上・計画通りに進んだ・計」が全体と比較してやや低い。
- 大短進学率別にみると、進学率が70%以上の高校で、進学率70%未満の高校と比較して「計画以上・計画通りに進んだ・計」の割合が高い。
- 高校所在地別にみると、東海で「計画以上・計画通りに進んだ・計」の割合が高い。

■新学習指導要領への対応の進捗度の概況（全体／単一回答）

(%)

新学習指導要領への対応に関して、進捗度で近いものを教えてください。：C) 評価



※全体値と比較して ■ +10pt以上高い / ■ +5pt以上高い / ■ 0.0-5pt以上低い

Q1C

2. 「新学習指導要領」への取り組みにあたり課題感のある教科

- 課題感のある教科は【特にない】が30%。およそ3校につき1校は課題がないと感じている。
- 上がった中では【情報】について課題を感じている学校が41%で最も多い。
 - 課題感のある教科について1～3番目までの合計では、【情報】【地理歴史】【国語】の順で高く、特に【情報】は25%が1番目として回答している。
 - 時系列でみると、2022年と比較して教科の順位に変動はないが、全体的にポイントが減少している。
 - 設置者別に1～3番目までの合計をみると、国公立は【国語】が私立と比較して高い。私立では【数学】【地理歴史】が国公立と比べて高い。
 - 高校タイプ別にみると、普通科では【情報】が突出して高く、【地理歴史】が10%以上で続くが、それ以外で10%を超えるものはない。総合学科でも【情報】が最も高いが、それ以外にも【地理歴史】【国語】【数学】が10%を超えている。一方、専門学科では【その他】【特にない】が特に高くなっている。
 - 大短進学率別にみると、進学率が70%以上の高校では【数学】【地理歴史】の割合が高い。一方、進学率が40%未満の高校では【特にない】の割合が高い。
 - 高校所在地別にみると、北関東・甲信越で【情報】が全体と比較して特に高い。

■ 「新学習指導要領」の取り組みにあたり課題のある教科（全体/3つまでの複数回答）

(%)

「新学習指導要領」の取り組みにあたり、特に課題感のある教科は何ですか。上位3つまでお答えください。

2024年

(n= 671)	1番目	2番目	3番目	1～3番目合計
情報	25.3	10.0	5.8	41.1
地理歴史	12.2	11.9	8.5	32.6
国語	8.9	8.0	8.3	25.3
数学	7.2	10.0	7.7	24.9
外国語（英語）	5.8	5.1	4.6	15.5
公民	1.8	5.1	4.0	10.9
理科	1.8	3.0	3.7	8.5
保健体育	1.2	1.0	0.4	2.7
芸術	0.6	0.9	0.6	2.1
家庭	—	0.4	0.9	1.3
その他	4.8	0.9	0.6	6.3
特にない	30.4	43.7	54.7	30.4
無回答	—	—	—	—

※「その他」「特にない」「無回答」を除く項目について、「1～3番目合計」の降順ソート

Q2MT

■ 「新学習指導要領」の取り組みにあたり課題のある教科（全体/3つまでの複数回答）

(%)

「新学習指導要領」の取り組みにあたり、特に課題感のある教科は何ですか。上位3つまでお答えください。

2022年

(n= 943)	1番目	2番目	3番目	1～3番目合計
情報	31.1	6.4	8.9	46.3
地理歴史	11.6	16.3	9.3	37.2
国語	12.4	11.0	9.3	32.7
数学	5.0	11.8	8.6	25.3
外国語（英語）	7.3	8.1	7.8	23.2
公民	1.7	6.5	6.6	14.7
理科	0.6	1.8	3.9	6.4
保健体育	1.4	1.7	1.1	4.1
芸術	1.3	1.5	0.5	3.3
家庭	0.4	1.0	1.3	2.7
その他	4.5	1.1	1.6	7.1
特にない	22.8	33.0	41.0	22.8
無回答	—	—	—	—

※「その他」「特にない」「無回答」を除く項目について、「1～3番目合計」の降順ソート

Q2MT

■ 「新学習指導要領」の取り組みにあたり課題感のある教科（全体/3つまでの複数回答）

(%)

「新学習指導要領」の取り組みにあたり、特に課題感のある教科はなんですか。上位3つまでお答えください。：1番目

1番目		国語	数学	語 外 語 (英)	地 理 歴 史	公 民	理 科	保 健 体 育	芸 術	家 庭	情 報	そ の 他	特 に な い	無 回 答
2024年 全体	(n= 671)	8.9	7.2	5.8	12.2	1.8	1.8	1.2	0.6	—	25.3	4.8	30.4	—
設置者別														
国公立	(n= 473)	11.0	5.3	5.3	9.9	1.5	1.9	1.3	0.8	—	24.9	5.7	32.3	—
私立	(n= 198)	4.0	11.6	7.1	17.7	2.5	1.5	1.0	—	—	26.3	2.5	25.8	—
高校 タイプ別														
普通科	(n= 513)	8.0	8.2	5.8	14.2	1.8	1.8	1.2	0.4	—	28.5	2.5	27.7	—
総合学科	(n= 38)	10.5	10.5	5.3	15.8	2.6	—	—	—	—	23.7	—	31.6	—
専門学科	(n= 91)	8.8	2.2	6.6	1.1	2.2	1.1	2.2	1.1	—	9.9	19.8	45.1	—
大短 進学率別														
70%以上・計	(n= 319)	9.1	10.0	5.0	16.6	1.6	1.9	1.3	0.3	—	27.6	1.9	24.8	—
95%以上	(n= 116)	6.0	8.6	3.4	19.0	3.4	2.6	0.9	—	—	29.3	2.6	24.1	—
70~95%未満	(n= 203)	10.8	10.8	5.9	15.3	0.5	1.5	1.5	0.5	—	26.6	1.5	25.1	—
70%未満・計	(n= 352)	8.8	4.5	6.5	8.2	2.0	1.7	1.1	0.9	—	23.3	7.4	35.5	—
40~70%未満	(n= 132)	12.9	5.3	6.8	10.6	3.0	3.0	—	0.8	—	28.8	3.0	25.8	—
40%未満・計	(n= 220)	6.4	4.1	6.4	6.8	1.4	0.9	1.8	0.9	—	20.0	10.0	41.4	—
高校 所在地別														
北海道	(n= 53)	15.1	5.7	7.5	5.7	—	—	1.9	3.8	—	15.1	5.7	39.6	—
東北	(n= 83)	6.0	7.2	7.2	9.6	2.4	2.4	—	—	—	30.1	4.8	30.1	—
北関東・甲信越	(n= 62)	8.1	3.2	6.5	8.1	1.6	1.6	1.6	1.6	—	37.1	4.8	25.8	—
南関東	(n= 126)	6.3	6.3	6.3	19.0	4.8	2.4	0.8	0.8	—	19.8	0.8	32.5	—
東海	(n= 67)	13.4	4.5	9.0	13.4	—	3.0	1.5	—	—	20.9	4.5	29.9	—
北陸	(n= 20)	5.0	15.0	15.0	5.0	—	—	—	—	—	30.0	10.0	20.0	—
関西	(n= 77)	14.3	9.1	3.9	14.3	1.3	1.3	1.3	—	—	20.8	1.3	32.5	—
中国・四国	(n= 78)	6.4	10.3	2.6	14.1	1.3	—	1.3	—	—	33.3	5.1	25.6	—
九州・沖縄	(n= 105)	7.6	7.6	2.9	9.5	1.0	2.9	1.9	—	—	25.7	10.5	30.5	—

※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/0.0-5pt以上低い

Q2TOP

■ 「新学習指導要領」の取り組みにあたり課題感のある教科（全体/3つまでの複数回答）

(%)

「新学習指導要領」の取り組みにあたり、特に課題感のある教科は何ですか。上位3つまでお答えください。：1~3番目合計

1~3番目合計		情 報	地 理 歴 史	国 語	数 学	語 外 語 (英)	公 民	理 科	保 健 体 育	芸 術	家 庭	そ の 他	特 に な い	無 回 答
2024年 全体	(n= 671)	41.1	32.6	25.3	24.9	15.5	10.9	8.5	2.7	2.1	1.3	6.3	30.4	—
設置者別														
国公立	(n= 473)	37.6	29.6	23.9	23.5	15.0	9.1	7.8	3.0	3.0	1.9	7.6	32.3	—
私立	(n= 198)	49.5	39.9	28.8	28.3	16.7	15.2	10.1	2.0	—	—	3.0	25.8	—
高校 タイプ別														
普通科	(n= 513)	44.6	36.5	26.7	27.9	16.8	12.1	9.4	2.7	1.8	1.2	3.3	27.7	—
総合学科	(n= 38)	44.7	39.5	21.1	21.1	10.5	13.2	2.6	—	—	2.6	2.6	31.6	—
専門学科	(n= 91)	20.9	8.8	16.5	9.9	11.0	4.4	5.5	4.4	4.4	1.1	25.3	45.1	—
大短 進学率別														
70%以上・計	(n= 319)	47.6	41.7	28.8	30.7	15.0	13.5	9.1	2.8	0.9	0.9	2.2	24.8	—
95%以上	(n= 116)	50.9	42.2	25.9	28.4	9.5	15.5	10.3	2.6	—	0.9	2.6	24.1	—
70~95%未満	(n= 203)	45.8	41.4	30.5	32.0	18.2	12.3	8.4	3.0	1.5	1.0	2.0	25.1	—
70%未満・計	(n= 352)	35.2	24.4	22.2	19.6	15.9	8.5	8.0	2.6	3.1	1.7	9.9	35.5	—
40~70%未満	(n= 132)	43.9	35.6	28.8	26.5	18.9	10.6	12.1	1.5	1.5	—	4.5	25.8	—
40%未満・計	(n= 220)	30.0	17.7	18.2	15.5	14.1	7.3	5.5	3.2	4.1	2.7	13.2	41.4	—
高校 所在地別														
北海道	(n= 53)	30.2	18.9	22.6	17.0	17.0	11.3	3.8	3.8	3.8	1.9	7.5	39.6	—
東北	(n= 83)	41.0	28.9	21.7	26.5	15.7	10.8	8.4	1.2	1.2	—	10.8	30.1	—
北関東・甲信越	(n= 62)	54.8	32.3	25.8	29.0	12.9	4.8	3.2	1.6	4.8	3.2	4.8	25.8	—
南関東	(n= 126)	38.9	37.3	29.4	23.0	13.5	17.5	6.3	4.0	2.4	0.8	0.8	32.5	—
東海	(n= 67)	34.3	35.8	26.9	20.9	17.9	11.9	13.4	3.0	3.0	3.0	4.5	29.9	—
北陸	(n= 20)	40.0	25.0	35.0	35.0	30.0	5.0	10.0	—	—	—	10.0	20.0	—
関西	(n= 77)	39.0	33.8	28.6	22.1	15.6	11.7	11.7	3.9	2.6	1.3	2.6	32.5	—
中国・四国	(n= 78)	52.6	33.3	20.5	26.9	14.1	10.3	7.7	1.3	1.3	1.3	7.7	25.6	—
九州・沖縄	(n= 105)	39.0	35.2	22.9	28.6	15.2	6.7	11.4	2.9	—	1.0	11.4	30.5	—

※全体の降順ソート

※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/0.0-5pt以上低い

Q2TOTAL

3. 「文理コース選択」の状況

1) 「文理コース選択」の実態

■ 68%が文系・理系コースに「わかれている」と回答。

- 時系列でみると、2022年と変化はない。
- 設置者別にみると、私立では8割以上が「わかれている」と回答し国公立の6割よりも高い。
- 高校タイプ別にみると、普通科で8割以上が「わかれている」と回答している。
- 大短進学率別にみると、進学率が高いほど「わかれている」の割合が高く、進学率70%以上の高校で「わかれている」が9割、一方、70%未満の高校では5割以下にとどまる。
- 高校所在地別にみると、北海道と東北で「わかれている」が4～5割台で他地域と比較して低い。

■ 「文理コース選択」の状況（全体／単一回答）

（%）

貴校において、文系・理系コース選択にわかれていますか。

			わかれている	わかれていない	無回答	
凡例						
2024年	全体	(n= 671)	67.5	32.0		0.4
2022年	全体	(n= 943)	67.3	32.1		0.5
設置者別	国公立	(n= 473)	61.5	38.1		0.4
	私立	(n= 198)	81.8	17.7		0.5
高校タイプ別	普通科	(n= 513)	82.1	17.3		0.6
	総合学科	(n= 38)	34.2	65.8		—
	専門学科	(n= 91)	5.5	94.5		—
大短進学率別	70%以上・計	(n= 319)	90.0	9.1		0.9
	95%以上	(n= 116)	91.4	8.6		—
	70～95%未満	(n= 203)	89.2	9.4		1.5
	70%未満・計	(n= 352)	47.2	52.8		—
	40～70%未満	(n= 132)	78.0	22.0		—
	40%未満・計	(n= 220)	28.6	71.4		—
高校所在地別	北海道	(n= 53)	41.5	58.5		—
	東北	(n= 83)	56.6	42.2		1.2
	北関東・甲信越	(n= 62)	75.8	24.2		—
	南関東	(n= 126)	73.8	25.4		0.8
	東海	(n= 67)	74.6	25.4		—
	北陸	(n= 20)	80.0	20.0		—
	関西	(n= 77)	66.2	32.5		1.3
	中国・四国	(n= 78)	69.2	30.8		—
	九州・沖縄	(n= 105)	69.5	30.5		—

2) 「文理コース」の選択時期

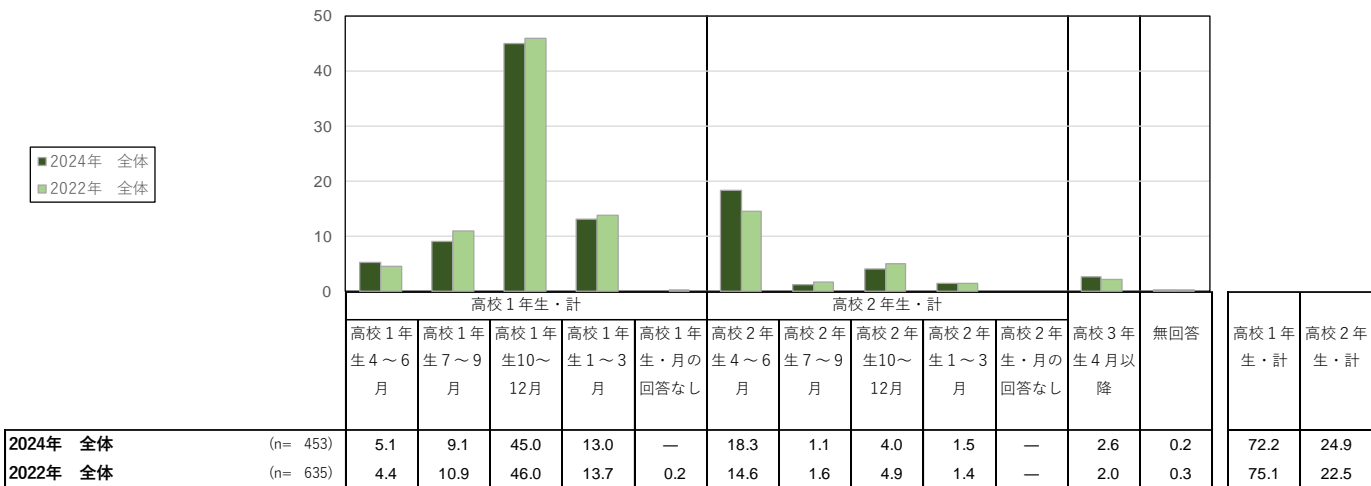
■ 「文理コース」を選択する時期は「高校1年生」が72%を超え、なかでも「高校1年生10～12月」がおよそ半数を占める。時系列でみると、2022年と大きな変化はない。

- 設置者別にみると、国公立、私立のいずれも「高校1年生10～12月」が最も高いが、私立では「高校1年生1～3月」も2割程度と高い。
- 大短進学率別にみると、進学率70%未満の高校で「高校1年生1～3月」がおよそ2割と高い。
- 高校所在地別にみると、北海道と南関東では「高校2年生・計」、関西では「高校1年生・計」が全体と比較して特に高い。

■ 「文理コース」選択時期（コース選択校／単一回答） ※「学年／月」の自由回答を単一回答として集計

(%)

「文系・理系のコースにわかれている」を選択した方にお尋ねします。文系・理系のコースを最終的に選ばせる時期はいつですか？



Q4

■ 「文理コース」選択時期（コース選択校／単一回答） ※「学年／月」の自由回答を単一回答として集計

(%)

「文系・理系のコースにわかれている」を選択した方にお尋ねします。文系・理系のコースを最終的に選ばせる時期はいつですか？

	高校1年生・計					高校2年生・計					高校3年生4月以降	無回答	高校1年生・計	高校2年生・計	
	高校1年生4～6月	高校1年生7～9月	高校1年生10～12月	高校1年生1～3月	高校1年生・月の回答なし	高校2年生4～6月	高校2年生7～9月	高校2年生10～12月	高校2年生1～3月	高校2年生・月の回答なし					
2024年 全体 (n= 453)	5.1	9.1	45.0	13.0	—	18.3	1.1	4.0	1.5	—	2.6	0.2	72.2	24.9	
2022年 全体 (n= 635)	4.4	10.9	46.0	13.7	0.2	14.6	1.6	4.9	1.4	—	2.0	0.3	75.1	22.5	
設置者別															
国公立 (n= 291)	6.9	12.4	47.4	7.9	—	16.5	1.4	4.1	0.7	—	2.7	—	74.6	22.7	
私立 (n= 162)	1.9	3.1	40.7	22.2	—	21.6	0.6	3.7	3.1	—	2.5	0.6	67.9	29.0	
高校タイプ別															
普通科 (n= 421)	4.8	9.0	45.4	13.1	—	17.8	1.2	4.3	1.7	—	2.6	0.2	72.2	24.9	
総合学科 (n= 13)	15.4	15.4	30.8	—	—	38.5	—	—	—	—	—	—	61.5	38.5	
専門学科 (n= 5)	20.0	20.0	20.0	40.0	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	—	
大短進学率別															
70%以上・計 (n= 287)	4.2	9.1	49.1	10.1	—	18.1	1.4	3.8	1.7	—	2.1	0.3	72.5	25.1	
95%以上 (n= 106)	2.8	5.7	49.1	11.3	—	20.8	1.9	4.7	0.9	—	2.8	—	68.9	28.3	
70～95%未満 (n= 181)	5.0	11.0	49.2	9.4	—	16.6	1.1	3.3	2.2	—	1.7	0.6	74.6	23.2	
70%未満・計 (n= 166)	6.6	9.0	38.0	18.1	—	18.7	0.6	4.2	1.2	—	3.6	—	71.7	24.7	
40～70%未満 (n= 103)	3.9	7.8	42.7	18.4	—	19.4	—	3.9	1.0	—	2.9	—	72.8	24.3	
40%未満・計 (n= 63)	11.1	11.1	30.2	17.5	—	17.5	1.6	4.8	1.6	—	4.8	—	69.8	25.4	
高校所在地別															
北海道 (n= 22)	9.1	18.2	22.7	—	—	27.3	—	9.1	9.1	—	4.5	—	50.0	45.5	
東北 (n= 47)	12.8	19.1	36.2	10.6	—	14.9	—	4.3	—	—	2.1	—	78.7	19.1	
北関東・甲信越 (n= 47)	10.6	10.6	38.3	14.9	—	21.3	—	4.3	—	—	—	—	74.5	25.5	
南関東 (n= 93)	6.5	4.3	38.7	9.7	—	29.0	3.2	3.2	—	—	5.4	—	59.1	35.5	
東海 (n= 50)	—	4.0	70.0	8.0	—	12.0	—	4.0	—	—	2.0	—	82.0	16.0	
北陸 (n= 16)	—	6.3	62.5	—	—	25.0	—	6.3	—	—	—	—	68.8	31.3	
関西 (n= 51)	3.9	7.8	64.7	11.8	—	5.9	2.0	2.0	—	—	2.0	—	88.2	9.8	
中国・四国 (n= 54)	—	7.4	38.9	24.1	—	16.7	1.9	3.7	3.7	—	1.9	1.9	70.4	25.9	
九州・沖縄 (n= 73)	2.7	11.0	39.7	20.5	—	15.1	—	4.1	4.1	—	2.7	—	74.0	23.3	

※全体値と比較して

■ +10pt以上高い / ■ +5pt以上高い / ■ 0.0-5pt以上低い

※グレー文字：サンプル数20未満のため参考値

Q4

「総合的な探究の時間」について

1. 「総合的な探究の時間」への取り組み状況

■ 「総合的な探究の時間」への取り組みは「導入・計」が前年同様、9割を超える。

- 時系列で見ると、「導入・計」は2022年と比較して2ポイント増加し、2021年からも増加傾向にある。
- 設置者別にみると、国公立は「組織的対応・計」が私立と比較して高い。
- 高校タイプ別にみると、専門学科は「学校全体で組織的に取り組んだ」「進路指導部等、分掌が主導で取り組んだ」が低い一方、「学年や課程・学科・コース単位で取り組んだ」の割合が高く、普通科や総合学科と異なる回答になる。また専門学科は「導入・計」「組織的対応・計」共に全体と比べて低め。
- 大短進学率別にみると、進学率が高い高校ほど「学校全体で組織的に取り組んだ」「進路指導部等、分掌が主導で取り組んだ」のスコアが高くなっている。
- 高校所在地別にみると、北海道で「学校全体で組織的に取り組んだ」、北関東・甲信越で「学年や課程・学科・コース単位で取り組んだ」がそれぞれ4割を超えて高い。

■ 「総合的な探究の時間」の取り組み（全体／単一回答）

(%)

「総合的な探究の時間」にどのように取り組んでみましたか。

凡例	導入・計				まだ「総合的な探究の時間」に移行できていない	無回答	導入・計	組織的対応・計
	組織的対応・計			プロジェクト等、一部の教員で取り組んだ				
	学校全体で組織的に取り組んだ	進路指導部等、分掌が主導で取り組んだ	学年や課程・学科・コース単位で取り組んだ					
2024年 全体 (n= 671)	34.0	21.2	30.7	11.3	1.9	97.2	85.8	
2022年 全体 (n= 943)	32.7	20.4	32.1	9.8	3.8	94.9	85.2	
2021年 全体 (n=1,156)	36.7	16.3	31.8	8.5	6.1	93.3	84.9	
【2024年属性別】								
設置者別 国公立 (n= 473)	36.2	23.3	29.6	8.0	2.1	97.0	89.0	
私立 (n= 198)	28.8	16.2	33.3	19.2	1.5	97.5	78.3	
高校タイプ別 普通科 (n= 513)	38.0	21.6	27.1	11.3	1.0	98.1	86.7	
総合学科 (n= 38)	36.8	36.8	21.1	5.3	—	100.0	94.7	
専門学科 (n= 91)	12.1	9.9	58.2	9.9	8.8	90.1	80.2	
大短進学率別 70%以上・計 (n= 319)	43.3	24.1	20.1	10.0	1.3	97.5	87.5	
95%以上 (n= 116)	43.1	25.0	18.1	12.1	1.7	98.3	86.2	
70~95%未満 (n= 203)	43.3	23.6	21.2	8.9	1.0	97.0	88.2	
70%未満・計 (n= 352)	25.6	18.5	40.3	12.5	2.6	96.9	84.4	
40~70%未満 (n= 132)	30.3	21.2	34.1	13.6	0.8	99.2	85.6	
40%未満・計 (n= 220)	22.7	16.8	44.1	11.8	3.6	95.5	83.6	
高校所在地別 北海道 (n= 53)	41.5	22.6	20.8	13.2	—	98.1	84.9	
東北 (n= 83)	37.3	18.1	31.3	9.6	1.2	96.4	86.7	
北関東・甲信越 (n= 62)	29.0	19.4	41.9	6.5	3.2	96.8	90.3	
南関東 (n= 126)	32.5	24.6	24.6	15.9	1.6	97.6	81.7	
東海 (n= 67)	37.3	19.4	26.9	11.9	3.0	95.5	83.6	
北陸 (n= 20)	25.0	30.0	40.0	5.0	—	100.0	95.0	
関西 (n= 77)	36.4	15.6	26.0	19.5	2.6	97.4	77.9	
中国・四国 (n= 78)	34.6	21.8	35.9	6.4	—	98.7	92.3	
九州・沖縄 (n= 105)	29.5	22.9	36.2	7.6	3.8	96.2	88.6	

※全体値と比較して ■+10pt以上高い / ■+5pt以上高い / ■0.0-5pt以上低い

Q5

2. 取り組みにあたり最も難しいと感じるステップ

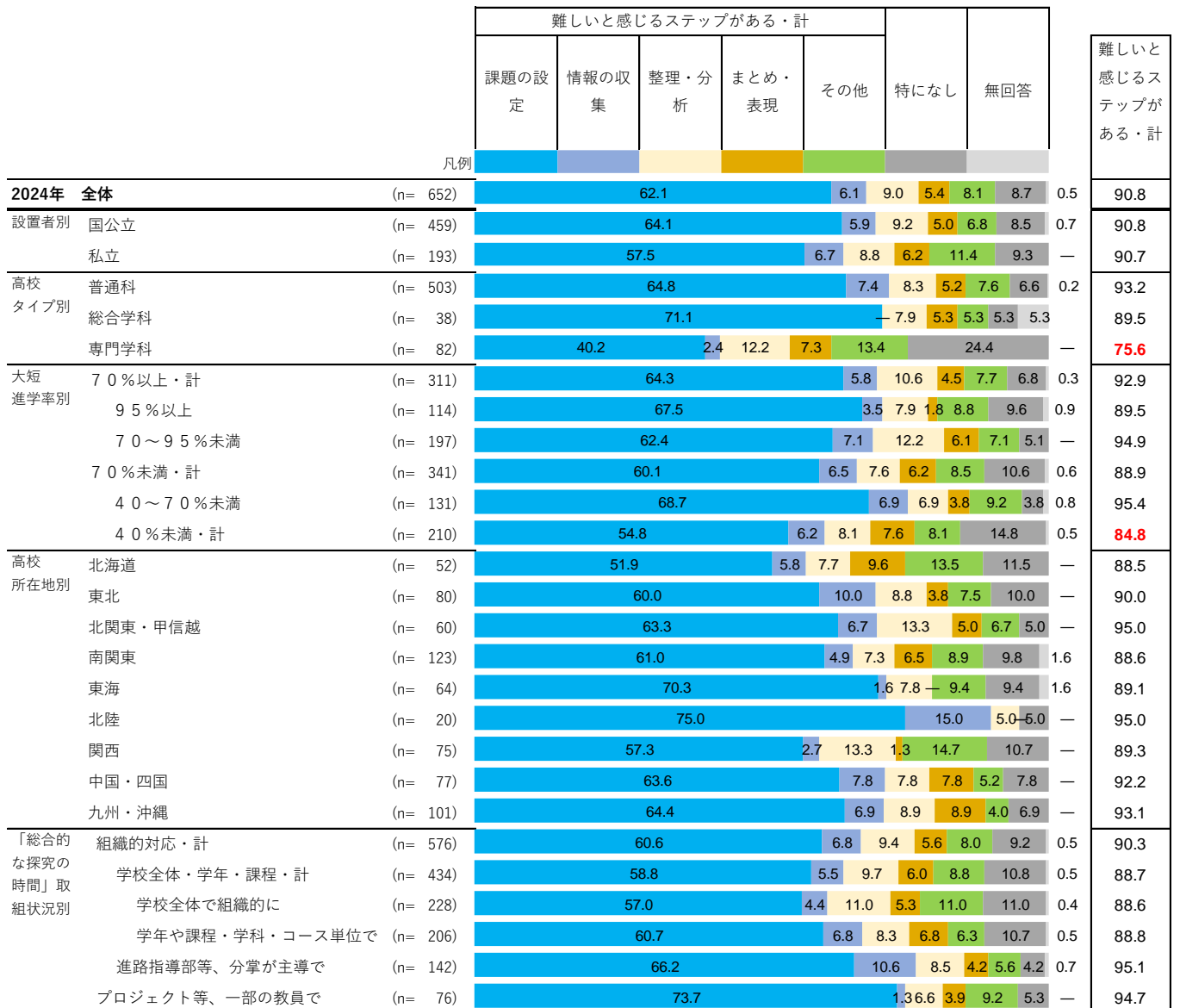
■ 取り組みにあたり最も難しいと感じるステップは「課題の設定」が6割を占める。

- 設置者別にみると、国公立は「課題の設定」が私立と比較して高い。
- 高校タイプ別にみると、普通科と総合学科は「課題の設定」が専門学科と比較して高い。一方、専門学科では「その他」「特になし」の割合が高く、「難しいと感じるステップがある・計」が7割台と低い。
- 大短進学率別にみると、進学率40%未満の高校では「難しいと感じるステップがある・計」の割合がやや低い。
- 高校所在地別にみると、北海道と関西で「課題の設定」が5割台と他の地域と比較して低い。
- 「総合的な探究の時間」取り組み状況別でみると、プロジェクト等、一部の教員は「課題の設定」が7割以上で全体と比較して10ポイント以上高い。

■ 取り組みにあたり最も難しいと感じるステップ（「総合的な探究の時間」導入校／単一回答）

(%)

「総合的な探究の時間」に取り組むにあたり、一番難しいと感じるステップはなんですか。



※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/0.0-5pt以上低い

<フリーアンサー> 取り組みが難しいと感じる理由

<課題の設定>

● カリキュラムとして成立させるための難しさ

- ・3年間通して探究する姿勢を身に付けてほしく、また成果物を推薦入試の材料にしたいと考えている。そのため、結論がすぐ出るような課題や、逆に高校生では理解できない専門的な知識を求められる内容の課題を設定すると、探究の意味を成さず、成果物も中途半端に終わる。[沖縄/私立/普通科]
- ・コマ切れではなく、継続したものにするには年単位での計画が必要だがネタ切れになることがある。[青森/私立/専門学科]
- ・わかりきっている課題を設定しても意味がないが、わからない課題は全く解決することもできず課題設定をどのようにしてよいか生徒が迷っていた。[大分/県立/普通科]
- ・課題（テーマ）設定の仕方によって、後の展開が全く異なってくるから。それはあらかじめなかなか予想がつかない場合もある。[岡山/市立/総合学科]
- ・課題をいかに設定するかは、学校として生徒にどのような力の育成を目指させたいかと密接に関係する、重要かつ検討が必要な項目だと思うから。[東京/私立/普通科]
- ・テーマの設定が生徒個人の興味関心にまかされているため定めにくい[新潟/私立/普通科]
- ・毎年似たようなテーマで深まりのないものになりがちである。かといって、過去の先輩の探究したもののうえに探究を重ねるとなると高レベルになりすぎて活動しにくくなる。そうならない適切なテーマ設定は難しい。[愛媛/県立/普通科と他学科併設]

● 生徒の力量やモチベーションとのバランスのよい課題設定

- ・基本的にグループワークをしているが、何に課題感をもって、何に取り組んでいくかを、意見を出すことから難しく、なかなか話し合いにならない。誰かの考えに簡単にのってしまって、自分事として取り組む意識がたりないものが多い気がする。[岐阜/私立/普通科と他学科併設]
- ・個人研究をしているコースは単なる調べ学習の域を出ていない。全体で取り組むコースではこちらが設定したテーマに対して当事者意識が低い[山形/私立/普通科と他学科併設]
- ・高校生の段階では、知識の幅が狭く、どの生徒も同じような課題設定になってしまうことが多い。また、自分の趣味の範囲をなかなか越えることができず、社会的な課題、問題解決につながるようなテーマを設定する生徒が少ない。[兵庫/私立/普通科]
- ・生徒自身が本当にやりたいことを見つけるには時間がかかる。[宮城/県立/普通科]

● 教員の力量や考え方による難しさ

- ・教師の経験不足、意識および力量の差、全体的な計画やマネジメントを行う組織がうまく機能していない。併せて生徒の基礎学力及び学習意欲の低下も否めない。[熊本/県立/普通科と他学科併設]
- ・教員は「自由な発想」に慣れていない。また、1年間で完結させようにも、学年全体を俯瞰して計画を立てる立場に立つことがとても難しい。また、本来ならば3年間で完結させたいところ、人事異動や配置転換を予想し、こちらもまた全体を俯瞰して計画を立てることがなお、難しい。[埼玉/県立/普通科]

<情報の収集>

- ・インターネットのみの収集ではなく、現場の声などを聴きに外に出ていきたいが、まとまった時間の確保に苦慮しているから。[大分/私立/普通科と他学科併設]
- ・時間や予算の制約、学校図書館に学校司書が配置されていないため、インターネット経由で入手できる論文、データが中心になってしまう。[秋田/県立/普通科]
- ・時数が足りない上に、高校生の調べる限界はたかがしれている。調べ学習の域を出ない自由研究レベルである。だったらやらなくても。。。という思いは拭えない。[北海道/道立/普通科と他学科併設]
- ・生徒主体で「ものづくり」を進めていくには時間が足りない。各種大会等への参加も考えた「ものづくり」の班は特に難しい。[香川/県立/専門学科]
- ・専門家の方から話をいただくのが容易ではない[佐賀/県立/普通科]
- ・地域等の外部人材を活用に自由度が少ないため。[北海道/町立/普通科]
- ・都会と地方との違い、情報伝達のタイムラグなど[鳥取/県立/普通科]

<整理・分析>

- ・データ分析がなかなかできない。論文を読ませるのが、難しい。[千葉/私立/普通科]
- ・生徒の学力や資質が厳しい[大分/県立/専門学科]
- ・生徒自身の捉え方と教員側の捉え方があるため。[大阪/私立/普通科]
- ・担任主導でやっているので指導力により差が生じてしまう[東京/私立/普通科と他学科併設]
- ・テーマに対して専門知識を持つ教員が少なく、的確な指導が難しい。[鹿児島/県立/普通科と他学科併設]

<まとめ・表現>

- ・研究発表レベルに留まってしまうように、探究レベルを意識させる継続的指導が困難。[東京/私立/普通科]
- ・生徒1人1人表現やまとめ方が異なるため。[鹿児島/私立/専門学科]
- ・調べ学習で終わることが多く、考察・検証まで行かないことが多かった。[山口/私立/普通科と他学科併設]
- ・本校は進路指導に関するテーマで総合的探究の授業を行っています。生徒が得た情報や知識等は個人に帰するものが多く、それをどう表現するのか、また表現して他人に伝えるべきことなのか判断が難しいと感じています。[埼玉/県立/普通科]

<フリーアンサー>「総合的な探究の時間」の具体的な探究内容

<地域課題の解決や活性化>

● 地域課題の解決に向けた探究活動

- ・地域を題材に、地域課題を見つけ、その解決策を大学生と協働で模索し、町民に発表する活動。[北海道/道立/普通科]
- ・本校は総合学科なので「産業社会と人間」とあわせて3年間5単位で、地域研究を主に探究させています。[岡山/市立/総合学科]
- ・総合学科（地域創生科）の系統別に分かれ、公共マネジメント系統、生活福祉系統、経営情報系統、映像デザイン系統、国際交流系統、環境サイエンス系統で、系統を主体に課題を設定して、独自の取り組みを行っている。[京都/府立/総合学科]
- ・テーマは地域課題。市役所やまちづくりコーディネーターと連携しながら取り組んでいる。[熊本/県立/普通科と他学科併設]
- ・①地域の産業や地方政治の取り組みを調査し、地域課題の発見や評価、改善策の考察を行い、高校生議会の機会を利用して地域住民に提案や問題提起をする。②職業探究、学校探究などを行い、自らが感じた疑問を調査する[北海道/道立/普通科]

● 地域活性化を目指した活動

- ・講演会やワークショップ。各自の興味関心をベースにテーマ設定を行い、地域をメインフィールドに活動。[長野/県立/普通科と他学科併設]
- ・地域と連携して、地域を知り、体験し、提案する、を柱に、最終的には地域の振興策を考えるなどの探究を行っている。[北海道/道立/普通科]
- ・地域の活性化、スポーツにおける様々な技能の向上のためになすべきこと、地域の特産品を用いた商品の開発など、多岐にわたっている。[秋田/県立/普通科と他学科併設]
- ・市と連携し活動を行い、市を活性化するためのテーマを設定し、探究活動を行っている。[兵庫/県立/普通科]

● 地域の伝統文化に関する探究

- ・地域の伝統芸能を通じた地域学習や海外研修を通じた国際理解探究を行っている。[北海道/町立/普通科]
- ・伝統文化、日常生活に活かせる特技[兵庫/県立/普通科]

<企業との連携>

● 地域企業との協力による探究

- ・1年次で企業に仮想インターンとして、企業から出された課題に取り組む、業者のプログラムに参加。2年次、3年次前期まで、地域の企業の方たちと連携して、課題解決にとりくむ。[岐阜/私立/普通科と他学科併設]
- ・地域連携企業のミッション卒業探究[千葉/私立/普通科]
- ・生徒個々に内在する「好き」なことを追求できるテーマを設定させ、外部（連携大学や地元企業）の協力を得ながらアクションとブラッシュアップを繰り返す探究活動をしている。[宮崎/県立/普通科]

● 企業との連携による課題解決

- ・企業タイアップ、自由選択講座。現在は、外の企画に積極的に参加を促している。[埼玉/私立/普通科]
- ・ビジネス実践として企業と連携し商品を企画開発・販売する「AKISHOP」を行っている。[秋田/市立/専門学科]
- ・大手エアライン、空港運営企業との連携した課題解決学習[北海道/私立/専門学科]
- ・企業が提示する問題を解決するための方法を探究[東京/私立/普通科]
- ・企業のプログラムを基本的にはいれている[福岡/私立/普通科]

<社会に関するテーマ>

● 社会課題の発見と解決

- ・社会問題を一つ取り上げ、その解決策を提唱する。[京都/私立/普通科]
- ・社会的な問題のなかでも、経済、教育、医療・福祉など、興味関心がある分野をもとに取り組んでいる。[兵庫/県立/普通科と他学科併設]
- ・地域や社会でどのように他者を助けることができるか[広島/県立/普通科]

● SDGsに関連したテーマの探究

- ・SDGsに関連する環境や社会問題へのアプローチをテーマにした課題研究。また、ビジネスプランの考案とその発表会などの実施[静岡/私立/普通科と他学科併設]
- ・上級学校調べ、SDGs、地域課題、ライフプラン、ジオパーク学習などをテーマとし、PBL学習を行っている。[静岡/県立/その他]
- ・なぜ学ぶのかやSDGsについて話し合いや調べ学習や発表[千葉/私立/普通科]
- ・各自の進路希望とSDGsを関連付けて課題を設定し、チームを作り協同して課題解決への手立てを考察していく「課題研究」を行っている。[山梨/県立/総合学科]

● 国際理解を深める探究活動

- ・世界の諸問題に関する調査研究および課題解決策の提案と発表。[広島/私立/普通科]
- ・日越の友好関係のために私たちができること[神奈川/県立/普通科]
- ・国際、理数等に生徒が所属してテーマ別に探究[鳥取/県立/普通科]
- ・外国語を用いてのコミュニケーションについて。[愛媛/私立/普通科]

<フリーアンサー>「総合的な探究の時間」の具体的な探究内容

<キャリア教育・進路探索・自己分析>

● キャリア教育に関する探究

- ・ ソーシャルスキルトレーニングや進路指導全般に関する内容[福岡/県立/専門学科]
- ・ 外部上級学校と連携した様々な体験を通じたキャリア教育を軸に、自身の興味関心の深掘りを行っている[大阪/私立/普通科]
- ・ エナジードの利用エナジードサミット、キャリア甲子園参加など[大阪/私立/普通科]
- ・ 自分に適した進路を選び、それを実現する力を身につけることを目的としたキャリア教育。[東京/私立/普通科]

● 進路に関する探究活動

- ・ 1年…主に進路探究。2年…主に研修旅行探究。3年…主に個人探究活動。[愛知/市立/普通科]
- ・ 未来をよりよく生きるために「幸せ」を探り「好き」を究める進路探究プロジェクト[神奈川/県立/普通科]
- ・ 進路探求と課題研究[鹿児島/県立/その他]
- ・ 専門科目にかかわることや将来の進路についての研究[栃木/県立/専門学科]
- ・ 進路や高大連携講座など[岩手/私立/普通科]
- ・ 進路に関すること、各個人が興味を持ったこと。[新潟/県立/専門学科]

● 進路選択に役立つ探究活動

- ・ 進路を考えるきっかけとなるガイダンスや人権学習に関する講演会の実施など、事前・事後学習を行っている。[大阪/府立/普通科と他学科併設]
- ・ 生徒の進路に関係した内容や、(他の人にもためになる形で)自己探求、何か実際に体験して探究する。[広島/県立/普通科]
- ・ 課題の設定から、情報収集、分析やまとめを経て、発表まで行う。テーマは、1年次は5つの分野から選択。3年次は自分の進路選択に近い分野を選択。[山形/県立/総合学科]
- ・ 学年の職員と協力しながら、生徒の進路に資する授業を行っている。[千葉/県立/普通科]

● 個人の興味に基づく探究活動

- ・ 生徒の興味のある分野で講座を展開し、ゼミ形式で月に1回行っています。そのゼミの授業の中でそれぞれの生徒の興味に合わせて課題設定させ取り組ませています。[長野/私立/普通科]
- ・ 一人一人テーマを設定して個人探究を行っている。[愛知/県立/普通科]
- ・ 自分の興味関心を、社会課題(身の回りでもよい)を組み合わせる探究課題を作り、それを探究する[東京/県立/普通科]
- ・ 生徒個人に研究テーマを決めさせ情報収集等を行い最終的にはプレゼンを行う。[愛知/私立/普通科と他学科併設]
- ・ 1年次はEnageedの教材を用いて探究とは何か、2年次に自分の興味関心があるテーマを見つけ課題研究に取り組ませている[千葉/私立/普通科]

<手法に関するもの>

● グループでのテーマ設定と探究

- ・ 「自分たちが興味・関心があること、解決してみたい課題」と「地域や社会が解決してほしい課題」の2つの共通点を探し、テーマを設定し、外部とも連携を図りながら探究活動を進めている。[北海道/道立/総合学科]
- ・ 全校生徒を縦割りにし、各班ごとに立てたテーマに取り組む。[兵庫/県立/普通科]
- ・ グループ活動、ポスター制作がゴール[福岡/県立/普通科]

● データ分析を活用した探究

- ・ データを活用した探究活動を心がけており、カリキュラムにも反映させている。[宮城/県立/普通科と他学科併設]
- ・ 1年次個人でのデータ分析を活用した探究 2年次大学との連携を含んだ発展的な探究 3年次個人論文[新潟/県立/普通科]
- ・ 実験やアンケートを取り、データ分析している。[北海道/道立/普通科と他学科併設]

● 探究手法を学ぶ基礎活動

- ・ 探究活動の基本となるテーマ設定や探究方法の学習→上級生の探究内容の発表を参考に自分のテーマを設定→周囲からの助言を得ながら調査・実験等を交えながら探究活動を行う→探究活動の中間発表→さらに探究を深める→校内・校外の参加者を対象に探究の成果をポスター発表→探究の成果をレポートにまとめる[福井/県立/普通科と他学科併設]
- ・ 生徒一人ひとりに、自分自身の興味に基づき探究テーマを設定させている。そのうえで、探究の様々な手法を紹介し、簡単な例を挙げて説明する。その後、定めたテーマについて論文を執筆している。[兵庫/私立/普通科]
- ・ まず、ゼミで探究の手法を学び、その後個人の関心に沿って探究活動を実施している[福島/県立/普通科]
- ・ 1年：探究活動の型を学ぶ期間(テーマは学年が設定)2年：沖縄修学旅行へ向けての平和学習 班に分かれて自分が気になるテーマを選択し探究活動を行う。3年：平和学習(沖縄修学旅行)の事後学習(テーマは学年が設定)[京都/私立/普通科]

3. 「総合的な探究の時間」への取り組みによる生徒の変化

■ 「総合的な探究の時間」への取り組みによる生徒の変化として「そう思う」割合が最も高いのは、【主体性・多様性・協働性が向上した】（14%）。「ややそう思う」まで含めると合計67%が変化を感じている。

- 2022年と比較すると、【学びに向かう姿勢・意欲が向上した】を除き、「そう思う・計」の割合が増加している。すべての項目で「どちらともいえない」の回答が減少している。
- 「そう思う・計」を設置者別にみると、すべての項目で国公立が私立と比較して高い。
- 高校タイプ別にみると、【基礎的な学力（知識および技能）が向上した】はタイプによって差が大きく、専門科では31%と特に高い。
- 大短進学率別にみると、進学率95%以上の高校は【思考力・判断力・表現力が向上した】【学びに向かう姿勢・意欲が向上した】で全体と比較して5ポイント以上高い。
- 高校所在地別にみると、北関東・甲信越で【思考力・判断力・表現力が向上した】が全体を10ポイント以上上回って高い。
- 「総合的な探究の時間」取り組み状況別でみると、学校全体で組織的に取り組んでいる高校は、すべての項目が全体と比較して高い。逆にプロジェクト等、一部の教員で取り組んでいる高校は、すべての項目でスコアが低い。

■「総合的な探究の時間」への取り組みによる生徒の変化（「総合的な探究の時間」導入校/各単一回答）

(%)

「総合的な探究の時間」に取り組んだことで、どのような生徒の変化を感じていますか。

	そう思う・計		どちらとも いえない	そう思わない・計		無回答		そう思 う・計	そう思わ ない・計
	そう思 う	ややそう 思 う		あまりそう 思 わ ない	そう思わ ない				
(n= 652)	凡例								
2024年	4.3	20.7	51.4	17.0	6.3	0.3	25.0	23.3	
基礎的な学力（知識および技能）が向上した	4.3	20.7	51.4	17.0	6.3	0.3	25.0	23.3	
思考力・判断力・表現力が向上した	10.4	47.2	33.0	6.9	2.1	0.3	57.7	9.0	
主体性・多様性・協働性が向上した	14.4	52.5	25.5	5.4	2.0	0.3	66.9	7.4	
学びに向かう姿勢・意欲が向上した	6.4	37.6	42.3	10.0	3.4	0.3	44.0	13.3	
(n= 895)									
2022年	2.8	19.8	54.6	17.8	4.7	0.3	22.6	22.5	
基礎的な学力（知識および技能）が向上した	2.8	19.8	54.6	17.8	4.7	0.3	22.6	22.5	
思考力・判断力・表現力が向上した	8.7	44.4	37.4	7.7	1.5	0.3	53.1	9.2	
主体性・多様性・協働性が向上した	12.4	48.9	31.2	5.5	1.7	0.3	61.3	7.2	
学びに向かう姿勢・意欲が向上した	6.7	37.3	44.6	9.3	1.8	0.3	44.0	11.1	
(n=1,079)									
2021年	4.1	24.7	54.0	11.0	4.6	1.6	28.7	15.7	
基礎的な学力（知識および技能）が向上した	4.1	24.7	54.0	11.0	4.6	1.6	28.7	15.7	
思考力・判断力・表現力が向上した	13.3	48.7	31.0	4.4	1.7	0.9	62.0	6.0	
主体性・多様性・協働性が向上した	17.4	52.4	24.8	3.2	1.3	0.9	69.8	4.4	
学びに向かう姿勢・意欲が向上した	11.3	46.2	34.1	5.2	1.9	1.3	57.6	7.0	

● 2024年

■「総合的な探究の時間」への取り組みによる生徒の変化（「総合的な探究の時間」導入校／各単一回答） (%)
 ※そう思う・計（「そう思う」「ややそう思う」の合計）

「総合的な探究の時間」に取り組んだことで、どのような生徒の変化を感じていますか。

		基礎的な学力（知識および技能）が向上した	思考力・判断力・表現力が向上した	主体性・多様性・協働性が向上した	学びに向かう姿勢・意欲が向上した
2024年 全体	(n= 652)	25.0	57.7	66.9	44.0
設置者別					
国公立	(n= 459)	26.6	59.3	68.4	45.8
私立	(n= 193)	21.2	53.9	63.2	39.9
高校タイプ					
普通科	(n= 503)	25.0	58.6	68.0	44.3
総合学科	(n= 38)	13.2	60.5	65.8	42.1
専門学科	(n= 82)	30.5	56.1	63.4	46.3
大短					
進学率別					
70%以上・計	(n= 311)	24.8	59.5	69.5	44.7
95%以上	(n= 114)	28.9	64.9	70.2	51.8
70～95%未満	(n= 197)	22.3	56.3	69.0	40.6
70%未満・計	(n= 341)	25.2	56.0	64.5	43.4
40～70%未満	(n= 131)	26.0	58.8	65.6	42.7
40%未満・計	(n= 210)	24.8	54.3	63.8	43.8
高校所在地別					
北海道	(n= 52)	28.8	53.8	65.4	42.3
東北	(n= 80)	23.8	58.8	73.8	45.0
北関東・甲信越	(n= 60)	26.7	68.3	71.7	51.7
南関東	(n= 123)	26.0	61.8	64.2	42.3
東海	(n= 64)	25.0	48.4	62.5	42.2
北陸	(n= 20)	25.0	65.0	65.0	45.0
関西	(n= 75)	18.7	56.0	65.3	37.3
中国・四国	(n= 77)	26.0	57.1	71.4	50.6
九州・沖縄	(n= 101)	25.7	53.5	63.4	42.6
「総合的な探究の時間」取組状況					
取り組みあり・計	(n= 652)	25.0	57.7	66.9	44.0
組織的対応・計	(n= 576)	27.1	59.2	69.4	46.4
学校全体・学年・課程・計	(n= 434)	30.2	61.1	71.7	48.6
学校全体で組織的に	(n= 228)	36.8	71.9	78.9	57.0
学年や課程・学科・コース単位で	(n= 206)	22.8	49.0	63.6	39.3
進路指導部等、分掌が主導で	(n= 142)	17.6	53.5	62.7	39.4
プロジェクト等、一部の教員で	(n= 76)	9.2	46.1	47.4	26.3

※全体値と比較して ■+10pt以上高い／■+5pt以上高い／0.0-5pt以上低い

Q9T02

● 参考：2022年

■「総合的な探究の時間」への取り組みによる生徒の変化（「総合的な探究の時間」導入校／各単一回答） (%)
 ※そう思う・計（「そう思う」「ややそう思う」の合計）

「総合的な探究の時間」に取り組んだことで、どのような生徒の変化を感じていますか。

		A)基礎的な学力（知識および技能）が向上した	B)思考力・判断力・表現力が向上した	C)主体性・多様性・協働性が向上した	D)学びに向かう姿勢・意欲が向上した
2022年 全体	(n= 895)	22.6	53.1	61.3	44.0
設置者別					
国公立	(n= 644)	23.3	55.7	63.7	46.9
私立	(n= 251)	20.7	46.2	55.4	36.7
高校タイプ					
普通科・計	(n= 736)	21.3	52.6	62.0	43.2
総合学科	(n= 58)	25.9	67.2	62.1	53.4
専門学科	(n= 85)	34.1	49.4	54.1	43.5
大短					
進学率別					
95%以上	(n= 409)	22.2	54.3	64.1	44.0
70～95%未満	(n= 156)	26.9	59.0	67.9	53.8
70%未満・計	(n= 253)	19.4	51.4	61.7	37.9
40～70%未満	(n= 486)	22.8	52.1	59.1	44.0
40%未満・計	(n= 205)	19.5	56.1	63.4	47.3
40%未満・計	(n= 281)	25.3	49.1	55.9	41.6
高校所在地別					
北海道	(n= 70)	21.4	55.7	62.9	42.9
東北	(n= 98)	24.5	65.3	70.4	54.1
北関東・甲信越	(n= 106)	23.6	59.4	67.0	50.9
南関東	(n= 152)	21.1	50.0	59.9	42.8
東海	(n= 117)	19.7	45.3	50.4	41.0
北陸	(n= 23)	21.7	56.5	52.2	43.5
関西	(n= 99)	27.3	60.6	61.6	46.5
中国・四国	(n= 104)	24.0	50.0	66.3	39.4
九州・沖縄	(n= 126)	20.6	43.7	57.9	37.3
「総合的な探究の時間」取組状況					
取り組みあり・計	(n= 895)	22.6	53.1	61.3	44.0
組織的対応・計	(n= 803)	23.8	54.3	62.4	46.1
学校全体・学年・課程・計	(n= 611)	23.9	55.3	62.8	47.1
学校全体で組織的に	(n= 308)	31.2	68.2	76.0	57.5
学年や課程・学科・コース単位で	(n= 303)	16.5	42.2	49.5	36.6
進路指導部等、分掌が主導で取り組んだ	(n= 192)	23.4	51.0	60.9	42.7
プロジェクト等、一部の教員で	(n= 92)	12.0	42.4	52.2	26.1

※全体値と比較して ■+10pt以上高い／■+5pt以上高い／0.0-5pt以上低い

Q9T02

4. 「総合的な探究の時間」への取り組みによる教員・学校の変化

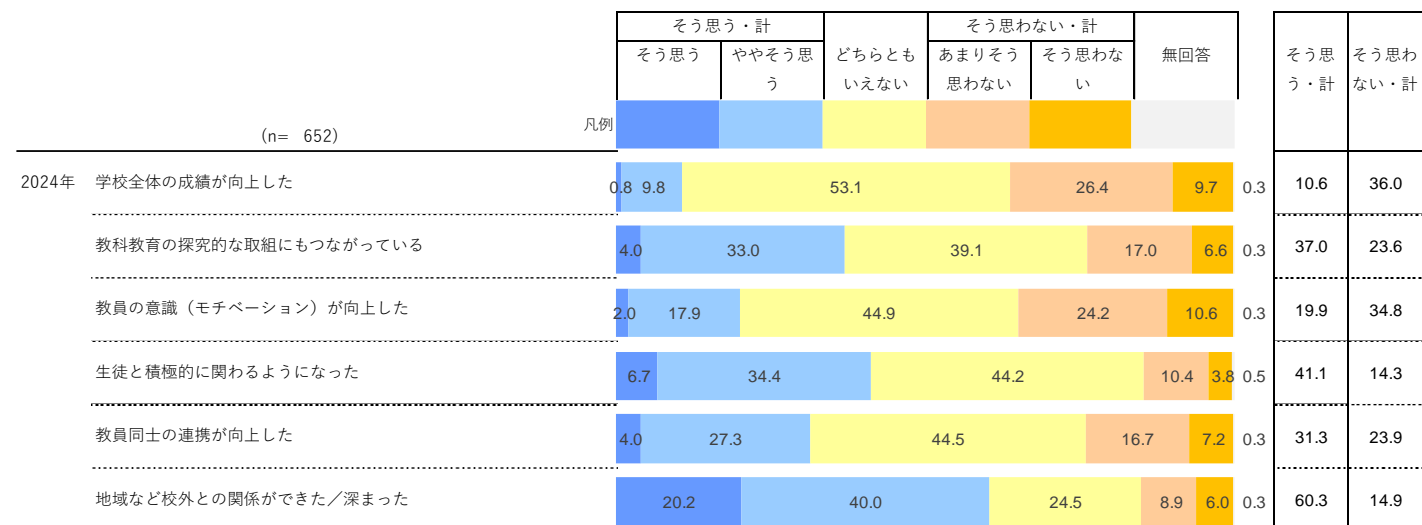
■ 「総合的な探究の時間」への取り組みによる教員・学校の変化として「そう思う」割合が最も高いのは、【地域など校外との関係ができた／深まった】（20%）。「ややそう思う」まで含めると合計60%が変化を感じている。

- 「そう思う・計」の割合をみると、次いで【生徒と積極的に関わるようになった】【教材教育の探究的な取り組みにもつながっている】が4割前後で高い。
- 一方、【学校全体の成績が向上した】【教員の意識（モチベーション）が向上した】は「そう思う・計」が低く、いずれも「そう思わない・計」が35%前後を占めて高い。

■「総合的な探究の時間」への取り組みによる教員・学校の変化（「総合的な探究の時間」導入校／各単一回答）

(%)

「総合的な探究の時間」に取り組んだことで、どのような教員・学校の変化を感じていますか。



Q10

- 「そう思う・計」の割合を設置者別にみると、「地域など校外との関係ができた／深まった」は国公立の方が**16ポイント**高く、差がみられる。
- 高校タイプ別にみると、は総合学科は全体と比べて低い項目が多いが、「地域など校外との関係ができた／深まった」は全体と比べて高い。専門学科は「生徒と積極的に関わるようになった」が全体と比較して特に高い。
- 大学進学率別にみると、「学校全体の成績が向上した」「教科教育の探究的な取り組みにもつながっている」は進学率の高い高校で、「生徒と積極的に関わるようになった」は進学率の低い高校でスコアが高い傾向がみられる。
- 「総合的な探究の時間」取り組み状況別にみると、学校全体で組織的に取り組んでいる高校で総じてスコアが高い。

■「総合的な探究の時間」への取組による教員・学校の変化（「総合的な探究の時間」導入校／各単一回答）

（%）

※そう思う・計（「そう思う」「ややそう思う」の合計）

「総合的な探究の時間」に取り組んだことで、どのような教員・学校の変化を感じていますか。

		学校全体の成績が向上した	教科教育の探究的な取り組みにもつながっている	教員の意識（モチベーション）が向上した	生徒と積極的に関わるようになった	教員同士の連携が向上した	地域など校外との関係ができた／深まった
2024年 全体	(n= 652)	10.6	37.0	19.9	41.1	31.3	60.3
設置者別							
国公立	(n= 459)	11.8	36.8	20.7	40.7	32.2	65.1
私立	(n= 193)	7.8	37.3	18.1	42.0	29.0	48.7
高校タイプ							
普通科	(n= 503)	10.3	38.6	19.9	39.6	32.4	59.6
総合学科	(n= 38)	5.3	23.7	13.2	44.7	15.8	68.4
専門学科	(n= 82)	12.2	35.4	22.0	51.2	31.7	59.8
大短							
70%以上・計	(n= 311)	12.9	40.8	19.6	38.6	31.2	58.2
進学率別							
95%以上	(n= 114)	14.9	44.7	21.1	39.5	31.6	56.1
70～95%未満	(n= 197)	11.7	38.6	18.8	38.1	31.0	59.4
70%未満・計	(n= 341)	8.5	33.4	20.2	43.4	31.4	62.2
40～70%未満	(n= 131)	6.9	39.7	14.5	45.8	32.1	55.0
40%未満・計	(n= 210)	9.5	29.5	23.8	41.9	31.0	66.7
高校							
所在地別							
北海道	(n= 52)	13.5	30.8	15.4	32.7	32.7	65.4
東北	(n= 80)	11.3	30.0	21.3	43.8	23.8	68.8
北関東・甲信越	(n= 60)	13.3	45.0	20.0	43.3	36.7	63.3
南関東	(n= 123)	11.4	35.8	19.5	35.8	33.3	50.4
東海	(n= 64)	4.7	32.8	17.2	35.9	23.4	59.4
北陸	(n= 20)	—	55.0	25.0	35.0	35.0	55.0
関西	(n= 75)	8.0	42.7	14.7	40.0	32.0	50.7
中国・四国	(n= 77)	13.0	36.4	23.4	55.8	37.7	70.1
九州・沖縄	(n= 101)	11.9	37.6	23.8	42.6	29.7	62.4
「総合的な探究の時間」取組状況							
取り組みあり・計	(n= 652)	10.6	37.0	19.9	41.1	31.3	60.3
組織的対応・計	(n= 576)	11.3	39.4	21.4	42.9	32.6	63.2
学校全体・学年・課程・計	(n= 434)	13.1	41.9	25.3	45.6	36.6	63.6
学校全体で組織的に	(n= 228)	17.5	50.9	29.4	52.6	45.6	74.1
学年や課程・学科・コース単位で	(n= 206)	8.3	32.0	20.9	37.9	26.7	51.9
進路指導部等、分掌が主導で	(n= 142)	5.6	31.7	9.2	34.5	20.4	62.0
プロジェクト等、一部の教員で	(n= 76)	5.3	18.4	9.2	27.6	21.1	38.2

※全体値と比較して ■+10pt以上高い／■+5pt以上高い／0.0-5pt以上低い

Q10TOP2

5. 「総合的な探究の時間」に取り組むにあたっての課題

■ 「総合的な探究の時間」に取り組むにあたっての課題は【教員の負担の大きさ】が82%でトップ。以下、【教員間の共通認識不足】【教員の知識・理解不足】が続く。

- 2022年と比較すると、上位の順位に変動はない。スコアの増加が高い項目は【生徒の意欲や学力の低下・不足】が10ポイント、【教員の指導力不足】が7ポイント、【教員の知識・理解不足】【実施時間の不足】がそれぞれ5ポイントずつ増加している。一方、【教員間の共通認識不足】【評価軸がない、評価の方法が不明確】はスコアが減少している。

■ 「総合的な探究の時間」に取り組むにあたっての課題

（「総合的な探究の時間」導入校／複数回答）

「総合的な探究の時間」に取り組むにあたって、どのような課題がありますか。 (%)

	2024年 全体 (n= 652)	2022年 全体 (n= 895)
教員の負担の大きさ	82.4	78.8
実施時間の不足	40.8	35.6
教員の知識・理解不足	49.4	43.9
教員の指導力不足	43.3	36.1
教員間の共通認識不足	50.5	53.6
生徒の意欲や学力の低下・不足 (*1)	28.2	18.2
定義があいまい	29.3	25.4
評価軸がない、評価の方法が不明確	34.4	37.5
その他	2.3	4.1
特になし	3.1	2.3
無回答	0.3	0.1

※*1：2022年までの選択肢は「生徒の意欲や学力の低下・欠如」

Q11

- 設置者別にみると、全般的に国公立と比較して私立のスコアが高く、特に「教員の知識・理解不足」「教員の指導力不足」では10ポイント以上の差がある。一方、「生徒の意欲や学力の低下・不足」は国公立で高い。
- 高校タイプ別にみると、いずれも上位の項目は同じだが、専門学科は教員に関する項目や「実施時間の不足」「生徒の意欲や学力の低下・不足」に関する項目で全体を大きく下回る。一方、総合学科では「教員の知識・理解不足」「生徒の意欲や学力の低下・不足」が全体を20ポイント程度上回っている。
- 大短進学率別にみると、70～95%未満の高校で「教員の負担の大きさ」「実施時間の不足」「教員間の共通認識不足」、40～70%未満の高校で「教員の知識・理解不足」「教員の指導力不足」「定義があいまい」「評価軸がない、評価の方法が不明瞭」が全体と比較して高い。
- 高校所在地別にみると、北海道で「定義があいまい」が全体と比較して特に高い。
- 「総合的な探究の時間」取り組み状況別にみると、プロジェクト等、一部の教員で取り組んでいる高校はすべての項目でスコアが高く、特に「教員間の共通認識不足」は7割を超え、全体と比較して20ポイント以上高い。

■ 「総合的な探究の時間」に取り組むにあたっての課題（「総合的な探究の時間」導入校／複数回答）

(%)

「総合的な探究の時間」に取り組むにあたって、どのような課題がありますか。

		大 教 員 の 負 担 の 大 き さ	足 実 施 時 間 の 不 足	理 教 員 の 知 識 ・ 理 解 不 足	不 教 員 の 指 導 力	認 教 員 間 の 共 通 認 識 不 足	不 学 生 の 意 欲 や 学 力 の 低 下	い 定 義 が あ い ま ま	法 が 不 明 確	評 価 軸 が な い	そ の 他	特 に な い	無 回 答
2024年 全体	(n= 652)	82.4	40.8	49.4	43.3	50.5	28.2	29.3	34.4	2.3	3.1	0.3	
設置者別													
国公立	(n= 459)	81.3	38.1	46.2	39.7	47.7	29.6	27.0	34.6	3.3	3.9	0.4	
私立	(n= 193)	85.0	47.2	57.0	51.8	57.0	24.9	34.7	33.7	—	1.0	—	
高校タイプ別													
普通科	(n= 503)	85.5	44.3	51.5	45.5	53.3	27.8	29.2	35.2	2.4	1.4	—	
総合学科	(n= 38)	86.8	28.9	68.4	50.0	52.6	47.4	28.9	31.6	2.6	—	—	
専門学科	(n= 82)	58.5	20.7	25.6	23.2	35.4	19.5	29.3	32.9	2.4	15.9	2.4	
大短進学率別													
70%以上・計	(n= 311)	85.2	45.7	51.1	44.7	55.3	25.4	26.7	32.2	2.3	1.3	—	
95%以上	(n= 114)	80.7	43.9	47.4	40.4	54.4	21.1	24.6	30.7	3.5	2.6	—	
70～95%未満	(n= 197)	87.8	46.7	53.3	47.2	55.8	27.9	27.9	33.0	1.5	0.5	—	
70%未満・計	(n= 341)	79.8	36.4	47.8	41.9	46.0	30.8	31.7	36.4	2.3	4.7	0.6	
40～70%未満	(n= 131)	86.3	35.9	56.5	50.4	53.4	29.8	34.4	42.0	—	0.8	—	
40%未満・計	(n= 210)	75.7	36.7	42.4	36.7	41.4	31.4	30.0	32.9	3.8	7.1	1.0	
高校所在地別													
北海道	(n= 52)	75.0	36.5	38.5	38.5	51.9	32.7	42.3	34.6	1.9	3.8	—	
東北	(n= 80)	72.5	41.3	40.0	38.8	46.3	27.5	22.5	32.5	3.8	5.0	—	
北関東・甲信越	(n= 60)	81.7	50.0	48.3	36.7	45.0	30.0	26.7	40.0	—	3.3	—	
南関東	(n= 123)	84.6	45.5	53.7	47.2	57.7	22.8	35.0	39.0	2.4	1.6	—	
東海	(n= 64)	89.1	31.3	54.7	43.8	57.8	25.0	32.8	20.3	4.7	3.1	—	
北陸	(n= 20)	90.0	50.0	40.0	50.0	45.0	20.0	30.0	60.0	—	—	5.0	
関西	(n= 75)	84.0	34.7	49.3	48.0	53.3	25.3	30.7	33.3	1.3	2.7	—	
中国・四国	(n= 77)	85.7	39.0	55.8	42.9	48.1	37.7	26.0	31.2	2.6	1.3	—	
九州・沖縄	(n= 101)	82.2	41.6	51.5	43.6	43.6	30.7	21.8	33.7	2.0	5.0	1.0	
「総合的な探究の時間」取り組み状況													
取り組みあり・計	(n= 652)	82.4	40.8	49.4	43.3	50.5	28.2	29.3	34.4	2.3	3.1	0.3	
組織的対応・計	(n= 576)	81.3	39.9	47.6	41.5	47.0	26.4	27.1	33.5	2.3	3.1	0.3	
学校全体・学年・課程・計	(n= 434)	80.2	38.7	45.4	38.7	43.3	25.3	25.6	32.5	2.1	3.9	0.5	
学校全体で組織的に	(n= 228)	80.3	40.4	42.5	37.3	46.1	24.6	20.6	27.2	3.1	3.1	—	
学年や課程・学科・コース単位で	(n= 206)	80.1	36.9	48.5	40.3	40.3	26.2	31.1	38.3	1.0	4.9	1.0	
進路指導部等、分掌が主導で	(n= 142)	84.5	43.7	54.2	50.0	58.5	29.6	31.7	36.6	2.8	0.7	—	
プロジェクト等、一部の教員で	(n= 76)	90.8	47.4	63.2	56.6	76.3	42.1	46.1	40.8	2.6	2.6	—	

※全体値と比較して ■+10pt以上高い／■+5pt以上高い／0.0-5pt以上低い

Q11

6. カリキュラム・マネジメントにおける「総合的な探究の時間」の位置づけ

■ 「総合的な探究の時間」を、カリキュラム・マネジメントの中核に「位置づけている」「位置づけようと考えている」学校が合計で45%。「位置づけたいがどうしてもわからない」までまとめると、64%が意向あり。

■ 2022年と比較して「位置づけている」は6ポイント増加、経年比較でも増加傾向にあり、総合的な探究の時間の中核位置づけが浸透してきている。

- 設置者別にみると、国公立では「位置づけている」が42%と私立の27%と比較して高い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科では「位置づけている」が58%と突出して高い。
- 大短進学率別では、進学率が高い高校ほど「位置づけている」の割合が高く進学率70%以上では4割を超えている。一方、進学率70%未満の高校では、「わからない」「考えていない」を合わせて4割程度みられる。
- 高校所在地別にみると、北海道、東海、関西で「位置づけている」が3割前後で低い。
- 「総合的な探究の時間」取り組み状況別にみると、学校全体で組織的に取り組んでいる高校では、約半数が「位置づけている」と回答しており、対応が進んでいる。

■「総合的な探究の時間」のカリキュラム・マネジメントへの位置づけ（「総合的な探究の時間」導入校/単一回答）

(%)

新しい学習指導要領では、「総合的な探究の時間」をカリキュラム・マネジメントの中核に位置づけることが求められています。

それに対し、貴校の状況やお考えを教えてください。

凡例	位置づけている/位置づけたい・計					位置づけている/位置づけたい・計	位置づけている/位置づけたい・計		
	位置づけている・位置づけようと考えている計	「総合的な探究の時間」を、既にカリキュラムの中核に位置づけている	次年度以降、カリキュラムの中核に位置づけようと考えている	中核に位置づけたいがどうしてもわからない	「総合的な探究の時間」を中核に位置づけたカリキュラム・マネジメントは考えていない			わからない	無回答
2024年 全体 (n= 652)	37.6	7.1	18.9	20.4	16.0	0.2	63.5	44.6	
2022年 全体 (n= 895)	31.2	10.5	20.3	20.8	16.8	0.4	62.0	41.7	
2021年 全体 (n=1,079)	32.4	27.0	16.2	12.8	11.2	0.4	75.6	59.4	
2018年 全体 (n= 728)	26.6	17.0	15.7	17.2	21.4	2.1	59.3	43.7	
【2024年属性別】									
設置者別									
国公立 (n= 459)	42.0	5.9	16.3	17.9	17.6	0.2	64.3	47.9	
私立 (n= 193)	26.9	9.8	24.9	26.4	11.9	—	61.7	36.8	
高校タイプ別									
普通科 (n= 503)	37.6	7.8	21.3	19.7	13.7	—	66.6	45.3	
総合学科 (n= 38)	57.9	—	10.5	10.5	13.2	—	78.9	68.4	
専門学科 (n= 82)	29.3	2.4	9.8	28.0	29.3	1.2	41.5	31.7	
大短進学率別									
70%以上・計 (n= 311)	44.4	8.7	15.4	20.6	10.9	—	68.5	53.1	
95%以上 (n= 114)	48.2	8.8	9.6	21.1	12.3	—	66.7	57.0	
70~95%未満 (n= 197)	42.1	8.6	18.8	20.3	10.2	—	69.5	50.8	
70%未満・計 (n= 341)	31.4	5.6	22.0	20.2	20.5	0.3	58.9	37.0	
40~70%未満 (n= 131)	26.7	5.3	26.0	20.6	21.4	—	58.0	32.1	
40%未満・計 (n= 210)	34.3	5.7	19.5	20.0	20.0	0.5	59.5	40.0	
高校所在地別									
北海道 (n= 52)	28.8	9.6	15.4	25.0	21.2	—	53.8	38.5	
東北 (n= 80)	43.8	3.8	21.3	16.3	15.0	—	68.8	47.5	
北関東・甲信越 (n= 60)	43.3	13.3	15.0	16.7	11.7	—	71.7	56.7	
南関東 (n= 123)	37.4	6.5	19.5	25.2	11.4	—	63.4	43.9	
東海 (n= 64)	31.3	9.4	20.3	18.8	20.3	—	60.9	40.6	
北陸 (n= 20)	50.0	5.0	10.0	10.0	20.0	5.0	65.0	55.0	
関西 (n= 75)	29.3	8.0	16.0	22.7	24.0	—	53.3	37.3	
中国・四国 (n= 77)	42.9	1.3	18.2	20.8	16.9	—	62.3	44.2	
九州・沖縄 (n= 101)	37.6	7.9	23.8	18.8	11.9	—	69.3	45.5	
「総合的な探究の時間」取り組み状況									
取り組みあり・計 (n= 652)	37.6	7.1	18.9	20.4	16.0	0.2	63.5	44.6	
組織的対応・計 (n= 576)	39.4	7.1	17.7	19.6	16.0	0.2	64.2	46.5	
学校全体・学年・課程・計 (n= 434)	41.5	7.6	15.7	18.7	16.4	0.2	64.7	49.1	
学校全体で組織的に (n= 228)	56.1	6.6	12.3	12.3	12.7	—	75.0	62.7	
学年や課程・学科・コース単位で (n= 206)	25.2	8.7	19.4	25.7	20.4	0.5	53.4	34.0	
進路指導部等、分掌が主導で (n= 142)	33.1	5.6	23.9	22.5	14.8	—	62.7	38.7	
プロジェクト等、一部の教員で (n= 76)	23.7	6.6	27.6	26.3	15.8	—	57.9	30.3	

※2018年：「総合的な学習の時間」の目標として、「探究的な学習の狙いを踏まえている」と回答した高校ベース

※全体値と比較して ■ +10pt以上高い / ■ +5pt以上高い / ■ 0.0-5pt以上低い

7. 「探究活動」の生徒の進路選択へのつながりについての考え

- ほとんどの学校が、「探究活動」が生徒の進路選択へつながると回答。「総合型選抜等、入学者選抜に活用できる」がトップ。
- 2022年と比較すると、全体の傾向は変わらないものの、「総合型選抜等、入学者選抜に活用できる」が9ポイント増加してトップになり、2021年からの推移をみても増加傾向にある。「自己の生き方・在り方につながる」は7ポイント減少している。
- 経年比較でみると「志望校や志望分野選びにつながる」が増加傾向、「前向きな進路選択の態度の醸成につながる」は減少傾向となっている。

■ 「探究活動」の生徒の進路選択へのつながりについての考え（全体／複数回答）

（%）

探究活動は、生徒の進路選択にどのようにつながるとお考えですか。

	2024年 全体 (n= 671)	2022年 全体 (n= 943)	2021年 全体 (n=1,156)
志望校や志望分野選びにつながる	55.9	51.3	48.6
総合型選抜等、入学者選抜に活用できる	61.4	52.4	50.7
前向きな進路選択の態度の醸成につながる	41.7	46.9	61.2
地域や社会への興味・関心が高まる	56.8	57.4	60.1
自己の生き方・在り方につながる	41.6	48.7	*
その他	1.5	1.4	2.6
進路実現につながると思わない	5.1	3.9	1.8
無回答	0.6	0.8	0.3

※ *：該当の選択肢なし

Q13

- 設置者別にみると、国公立は「地域や社会への興味・関心が高まる」、「私立は「志望校や志望分野選びにつながる」「総合型選抜等、入学者選抜に活用できる」「前向きな進路選択の態度の醸成につながる」がそれぞれ高い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科では「地域や社会への興味・関心が高まる」「自己の生き方・在り方につながる」が全体と比較して比べて10ポイント以上高い。一方、専門学科は全体を下回る項目が多い。
- 大短進学率別でみると、進学率が70%以上の高校で「志望校や志望分野選びにつながる」「総合型選抜等、入学者選抜に活用できる」「前向きな進路選択の態度の醸成につながる」など進学・進路に関する項目が高い一方、進学率が70%未満の高校は「地域や社会への興味・関心が高まる」が高い。
- 高校所在地別にみると、北関東・甲信越で「志望校や志望分野選びにつながる」、中国・四国では「総合型選抜等、入学者選抜に活用できる」が全体よりも特に高い。
- 「カリキュラム・マネジメント」における位置づけ別にみると、位置づけている高校で全体と比較して高い項目が多い。

■「探究活動」の生徒の進路選択へのつながりについての考え（全体/複数回答）

(%)

探究活動は、生徒の進路選択にどのようにつながるとお考えですか。

		る野志 選望 び校 にや つ志 な望 が分	用入総 で学合 き者型 る選選 抜抜に に等 活、	に択前 つの向 な態 が度な るの進 醸路 成選	ま興地 る味域 ・や 関社 心会 がへ 高の	る在自 り己 方の に生 つき な方 が・	そ の 他	が進 る路 と実 思現 わに なつ いな	無 回 答
2024年 全体	(n= 671)	55.9	61.4	41.7	56.8	41.6	1.5	5.1	0.6
設置者別									
国公立	(n= 473)	53.7	57.9	39.1	60.7	42.3	1.7	5.1	0.6
私立	(n= 198)	61.1	69.7	48.0	47.5	39.9	1.0	5.1	0.5
高校 タイプ別									
普通科	(n= 513)	60.0	65.9	43.5	56.5	41.9	0.8	4.5	0.6
総合学科	(n= 38)	57.9	65.8	39.5	76.3	52.6	—	—	—
専門学科	(n= 91)	35.2	38.5	36.3	52.7	36.3	4.4	7.7	1.1
大短 進学率別									
70%以上・計	(n= 319)	66.8	67.7	47.3	51.1	42.6	1.3	5.0	0.9
95%以上	(n= 116)	63.8	63.8	55.2	50.0	48.3	—	5.2	—
70~95%未満	(n= 203)	68.5	70.0	42.9	51.7	39.4	2.0	4.9	1.5
70%未満・計	(n= 352)	46.0	55.7	36.6	61.9	40.6	1.7	5.1	0.3
40~70%未満	(n= 132)	56.8	77.3	39.4	61.4	40.9	—	3.0	—
40%未満・計	(n= 220)	39.5	42.7	35.0	62.3	40.5	2.7	6.4	0.5
高校 所在地別									
北海道	(n= 53)	47.2	50.9	49.1	64.2	39.6	—	5.7	—
東北	(n= 83)	56.6	56.6	33.7	63.9	41.0	3.6	1.2	2.4
北関東・甲信越	(n= 62)	66.1	71.0	51.6	61.3	45.2	—	3.2	—
南関東	(n= 126)	56.3	62.7	45.2	41.3	44.4	1.6	9.5	0.8
東海	(n= 67)	56.7	52.2	50.7	61.2	41.8	3.0	7.5	1.5
北陸	(n= 20)	55.0	70.0	25.0	70.0	30.0	—	10.0	—
関西	(n= 77)	51.9	55.8	41.6	44.2	46.8	3.9	3.9	—
中国・四国	(n= 78)	51.3	71.8	26.9	62.8	34.6	—	5.1	—
九州・沖縄	(n= 105)	59.0	63.8	42.9	62.9	41.0	—	1.9	—
「総合的 な探究の 時間」取 組状況									
取り組みあり・計	(n= 652)	56.0	62.1	41.7	57.4	41.4	1.4	5.2	—
組織的対応・計	(n= 576)	57.5	62.2	42.2	59.4	41.8	1.4	4.3	—
学校全体・学年・課程・計	(n= 434)	56.5	61.8	41.7	59.2	40.6	1.2	3.7	—
学校全体で組織的に	(n= 228)	64.0	68.4	43.4	61.4	49.6	0.9	1.8	—
学年や課程・学科・コース単位で	(n= 206)	48.1	54.4	39.8	56.8	30.6	1.5	5.8	—
進路指導部等、分掌が主導で	(n= 142)	60.6	63.4	43.7	59.9	45.8	2.1	6.3	—
プロジェクト等、一部の教員で	(n= 76)	44.7	61.8	38.2	42.1	38.2	1.3	11.8	—
未取り組み	(n= 13)	61.5	38.5	53.8	46.2	61.5	7.7	—	—
「カリキュラム・ マネジメント」 における 位置づけ									
位置づけている/位置づけたい・計	(n= 414)	59.7	66.4	44.4	62.1	44.2	0.7	2.7	—
位置づけている・計	(n= 291)	61.5	65.3	47.4	65.3	47.1	0.3	2.1	—
既に中核に位置づけている	(n= 245)	61.2	65.7	46.1	67.8	46.9	0.4	2.4	—
次年度以降、中核に位置づけようと考えている	(n= 46)	63.0	63.0	54.3	52.2	47.8	—	—	—
中核に位置づけたいがどうしてよいかわからない	(n= 123)	55.3	69.1	37.4	54.5	37.4	1.6	4.1	—
中核に位置づけたカリキュラム・マネジメントは考えていない	(n= 133)	53.4	56.4	38.3	48.1	33.1	2.3	9.8	—
わからない	(n= 104)	45.2	52.9	35.6	50.0	41.3	2.9	9.6	—

※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/0.0-5pt以上低い

※グレー文字：サンプル数20未満のため参考値

Q13

「アントレプレナーシップ（起業家精神）教育」の導入について

1. 「アントレプレナーシップ（起業家精神）教育」の導入・活用状況

- 「アントレプレナーシップ教育」について、「導入・活用している」「導入・活用を検討している」を合わせると28%。「導入・活用をしていないし、する予定もない」が過半数を占める。
- 2022年と比較すると、「導入・活用している」「導入・活用を検討している」それぞれで増加し、合わせた「導入／検討中・計」は10ポイント増加している。
 - 設置者別にみると、私立は「導入・活用している」が23%と高く、「導入・活用を検討している」まで含めると37%に及ぶ。
 - 高校タイプ別にみると、専門学科は「導入・活用している」が19%で普通科、総合学科と比べてやや高く、「導入・活用を検討している」まで含めると31%。
 - 高校所在地別にみると、北海道で「導入／検討中・計」が38%と全体と比較して特に高い。

■ 「アントレプレナーシップ（起業家精神）教育」の導入・活用状況（全体／単一回答）

（%）

貴校において、現時点で「アントレプレナーシップ（起業家精神）教育」を導入・活用していますか。

	凡例	導入／検討中・計		導入・活用をしていないし、する予定もない	わからない	無回答	導入／検討中・計	
		学校全体、もしくは一部で導入・活用している	導入・活用していないが、導入・活用を検討している					
2024年 全体	(n= 671)	15.2	12.5	53.9		17.7	0.6	27.7
2022年 全体	(n= 943)	9.5	8.6	58.7		22.8	0.3	18.1
設置者別								
国公立	(n= 473)	11.8	12.1	59.2		16.3	0.6	23.9
私立	(n= 198)	23.2	13.6	41.4		21.2	0.5	36.9
高校タイプ別								
普通科	(n= 513)	14.6	12.7	54.8		17.2	0.8	27.3
総合学科	(n= 38)	13.2	10.5	57.9		18.4	—	23.7
専門学科	(n= 91)	18.7	12.1	46.2		23.1	—	30.8
大短進学率別								
70%以上・計	(n= 319)	16.0	13.5	52.4		17.2	0.9	29.5
95%以上	(n= 116)	19.0	12.1	51.7		16.4	0.9	31.0
70~95%未満	(n= 203)	14.3	14.3	52.7		17.7	1.0	28.6
70%未満・計	(n= 352)	14.5	11.6	55.4		18.2	0.3	26.1
40~70%未満	(n= 132)	12.9	12.9	57.6		15.9	0.8	25.8
40%未満・計	(n= 220)	15.5	10.9	54.1		19.5	—	26.4
高校所在地別								
北海道	(n= 53)	20.8	17.0	49.1		13.2	—	37.7
東北	(n= 83)	9.6	14.5	56.6		18.1	1.2	24.1
北関東・甲信越	(n= 62)	11.3	17.7	48.4		22.6	—	29.0
南関東	(n= 126)	18.3	13.5	53.2		14.3	0.8	31.7
東海	(n= 67)	10.4	7.5	65.7		16.4	—	17.9
北陸	(n= 20)	10.0	10.0	50.0		25.0	5.0	20.0
関西	(n= 77)	18.2	10.4	53.2		18.2	—	28.6
中国・四国	(n= 78)	17.9	6.4	57.7		16.7	1.3	24.4
九州・沖縄	(n= 105)	15.2	14.3	49.5		21.0	—	29.5

※全体値と比較して ■+10pt以上高い／■+5pt以上高い／0.0-5pt以上低い

Q14

2. アントレプレナーシップ教育に取り組むにあたっての課題

- 「アントレプレナーシップ教育」に取り組むにあたっての課題は【教員の知識・理解不足】が55%でトップ。以下、【教員の負担の大きさ】が53%、【実施時間の不足】が42%で続く。
- 課題項目を足し上げた【課題あり・計】は85%と高く、全体の8割以上が課題があると認識している。

■ 「アントレプレナーシップ教育」への取り組みにあたっての課題（全体／複数回答） (%)

「アントレプレナーシップ（起業家精神）教育」に取り組むにあたって、どのような課題がありますか。

		2024年 全体 (n= 671)
課題あり・計	教員の知識・理解不足	54.5
	教員の負担の大きさ	53.4
	実施時間の不足	41.9
	教員の指導力不足	40.4
	高校生が取り組む必要性を感じない	19.2
	生徒の意欲や学力の低下・不足	16.7
	その他	3.7
	特にない	13.7
無回答	1.3	
課題あり・計		84.9

※「その他」「無回答」を除く項目で、全体の降順ソート

Q15

- 設置者別にみると、私立で「教員の負担の大きさが」国公立と比較して高い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科と専門学科で全体よりもスコアが低い項目が散見される。特に総合学科では「特になし」の割合が高く「課題あり・計」が7割と低い。
- 大短進学率別にみると、進学率95%以上の高校で「実施時間の不足」が全体と比較して特に高い。一方、進学率40%未満の高校では「教員の負担の大きさ」「実施時間の不足」「教員の指導力不足」が全体と比べて低い。
- 高校所在地別にみると、北関東・甲信越で「教員の知識・理解不足」「教員の指導力不足」が特に高い。
- 「ICT」活用状況別にみると、学年や家庭・学科・コース・教科単位や、教員個人で取り組んでいる高校では、「高校生が取り組む必要性を感じない」とする割合が高い。

■「アントレプレナーシップ（起業家精神）教育」への取り組みにあたっての課題（全体／複数回答）

(%)

「アントレプレナーシップ（起業家精神）教育」に取り組むにあたって、どのような課題がありますか。

		課題あり・計							特になし	無回答	課題あり・計
		教員の知識・理解不足	教員の負担の大きさ	実施時間の不足	教員の指導力不足	高校生の感受性を感じにくい	生徒の意欲や学力の低下	その他			
2024年	全体 (n= 671)	54.5	53.4	41.9	40.4	19.2	16.7	3.7	13.7	1.3	84.9
設置者別	国公立 (n= 473)	54.8	51.2	40.8	40.6	19.9	16.9	4.0	13.1	1.3	85.6
	私立 (n= 198)	54.0	58.6	44.4	39.9	17.7	16.2	3.0	15.2	1.5	83.3
高校タイプ別	普通科 (n= 513)	56.5	55.8	44.4	42.5	20.5	16.0	3.3	12.3	1.4	86.4
	総合学科 (n= 38)	57.9	42.1	31.6	44.7	10.5	26.3	2.6	28.9	—	71.1
	専門学科 (n= 91)	42.9	45.1	27.5	27.5	15.4	14.3	3.3	18.7	2.2	79.1
大短進学率別	70%以上・計 (n= 319)	53.3	55.8	46.7	43.3	20.1	12.9	3.1	12.9	1.9	85.3
	95%以上 (n= 116)	53.4	57.8	52.6	43.1	23.3	9.5	3.4	6.9	1.7	91.4
	70~95%未満 (n= 203)	53.2	54.7	43.3	43.3	18.2	14.8	3.0	16.3	2.0	81.8
	70%未満・計 (n= 352)	55.7	51.1	37.5	37.8	18.5	20.2	4.3	14.5	0.9	84.7
	40~70%未満 (n= 132)	63.6	58.3	43.2	43.2	18.2	19.7	3.8	13.6	0.8	85.6
	40%未満・計 (n= 220)	50.9	46.8	34.1	34.5	18.6	20.5	4.5	15.0	0.9	84.1
高校所在地別	北海道 (n= 53)	50.9	54.7	43.4	28.3	28.3	17.0	3.8	13.2	—	86.8
	東北 (n= 83)	51.8	54.2	37.3	38.6	16.9	12.0	3.6	16.9	2.4	80.7
	北関東・甲信越 (n= 62)	71.0	54.8	45.2	51.6	17.7	17.7	6.5	8.1	1.6	90.3
	南関東 (n= 126)	55.6	57.9	48.4	46.0	19.0	19.0	4.0	11.9	0.8	87.3
	東海 (n= 67)	55.2	55.2	31.3	41.8	20.9	14.9	6.0	11.9	1.5	86.6
	北陸 (n= 20)	55.0	55.0	35.0	35.0	25.0	15.0	—	10.0	5.0	85.0
	関西 (n= 77)	53.2	53.2	41.6	39.0	20.8	15.6	1.3	19.5	—	80.5
	中国・四国 (n= 78)	50.0	46.2	46.2	38.5	20.5	23.1	—	19.2	1.3	79.5
	九州・沖縄 (n= 105)	51.4	49.5	40.0	37.1	13.3	14.3	5.7	10.5	1.9	87.6
「ICT」活用状況	活用 (n= 665)	54.6	53.5	42.1	40.5	19.4	16.5	3.8	13.7	1.1	85.3
	学校全体・学年・課程・計 (n= 559)	54.4	54.0	42.4	40.3	18.4	15.9	4.3	12.7	1.1	86.2
	学校全体で組織的に (n= 478)	54.4	54.2	42.7	40.4	16.9	15.9	4.4	11.9	1.0	87.0
	学年や課程・学科・コース・教科単位で (n= 81)	54.3	53.1	40.7	39.5	27.2	16.0	3.7	17.3	1.2	81.5
	教員個人で (n= 106)	55.7	50.9	40.6	41.5	24.5	19.8	0.9	18.9	0.9	80.2
	未活用 (n= 4)	75.0	50.0	25.0	50.0	—	50.0	—	25.0	—	75.0

※「その他」「無回答」を除く項目で、全体の降順ソート

※全体値と比較して ■+10pt以上高い / ■+5pt以上高い / ■0.0-5pt以上低い

※グレー文字：サンプル数20未満のため参考値

Q15

1. 教育活動へのICT活用状況

- 99%が授業、ホームルーム、探究などの教育活動にICTを活用。
- 2022年と比較すると、「学校全体で」「学年や課程・学科・コース・教科単位で」を合わせた「組織的対応・計」は83%で3ポイント増加、2021年からも増加傾向にある。
 - 設置者別にみると、私立は「組織的対応・計」が90%で国公立と比較して高い。
 - 高校タイプ別にみると、総合学科は「組織的対応・計」が66%と普通科、専門学科と比べて低い。
 - 大短進学率別にみると、進学率が高いほど「学校全体で」の割合が高く、進学率70%以上の高校では「組織的対応・計」がおおよそ9割となり、進学率70%未満の高校と比べて高い。
 - 高校所在地別にみると、東海で「組織的対応・計」が90%と他の地域と比較して高い。

■教育活動へのICT活用状況（全体／単一回答）

（%）

授業、ホームルーム、探究等の教育活動にICTを活用していますか。

		導入・計					
		組織的対応・計		使い始めていない（活用はまだこれから）	無回答	導入・計	組織的対応・計
		学校全体で組織的に活用している*1	学年や課程・学科・コース・教科単位で活用している				
凡例							
2024年	全体 (n= 671)	71.2	12.1	15.8	0.6	99.1	83.3
2022年	全体 (n= 943)	60.2	20.0	17.5	2.0	97.8	80.3
2021年	全体 (n=1,156)	51.2	14.5	31.0	3.0	96.7	65.7
【2022年属性別】							
設置者別	国公立 (n= 473)	68.3	12.1	18.6	0.6	98.9	80.3
	私立 (n= 198)	78.3	12.1	9.1	0.5	99.5	90.4
高校タイプ別	普通科 (n= 513)	74.9	10.3	13.8	0.6	99.0	85.2
	総合学科 (n= 38)	50.0	15.8	31.6	2.6	97.4	65.8
	専門学科 (n= 91)	58.2	22.0	19.8	—	100.0	80.2
大短進学率別	70%以上・計 (n= 319)	78.1	9.1	11.9	0.3	99.1	87.1
	95%以上 (n= 116)	76.7	11.2	12.1	—	100.0	87.9
	70~95%未満 (n= 203)	78.8	7.9	11.8	0.5	98.5	86.7
	70%未満・計 (n= 352)	65.1	14.8	19.3	0.9	99.1	79.8
	40~70%未満 (n= 132)	69.7	10.6	19.7	—	100.0	80.3
	40%未満・計 (n= 220)	62.3	17.3	19.1	1.4	98.6	79.5
高校所在地別	北海道 (n= 53)	71.7	11.3	17.0	—	100.0	83.0
	東北 (n= 83)	67.5	20.5	9.6	1.2	97.6	88.0
	北関東・甲信越 (n= 62)	71.0	11.3	16.1	1.6	98.4	82.3
	南関東 (n= 126)	70.6	7.9	21.4	—	100.0	78.6
	東海 (n= 67)	77.6	11.9	10.4	—	100.0	89.6
	北陸 (n= 20)	60.0	5.0	30.0	5.0	95.0	65.0
	関西 (n= 77)	68.8	14.3	15.6	1.3	98.7	83.1
	中国・四国 (n= 78)	70.5	10.3	17.9	1.3	98.7	80.8
	九州・沖縄 (n= 105)	75.2	12.4	12.4	—	100.0	87.6

※全体値と比較して ■+10pt以上高い / ■+5pt以上高い / ■0.0-5pt以上低い

※*1：2021年の選択肢は「学校全体で組織的に活用を推進している」

2. 具体的な活用方法・活用シーン

- 現在の教育活動における具体的なICT活用方法・活用シーンは【宿題・課題の配信】が92%でトップ。以下、【授業での活用・計】が61%、【コミュニケーション活用・計】が58%で続く。
- 【授業での活用・計】の中では【オンラインによる双方向型授業・学習支援】が45%、【コミュニケーション活用・計】の中では【学校と家庭とのコミュニケーション】が49%で最も高い。

■現在の教育活動における具体的なICT活用方法（「ICT活用」実施校／複数回答） (%)

具体的にどのようにICTを活用していますか。

		2024年 全体 (n= 665)	
授業での活用・計	オンラインによる双方向型授業・学習支援		45.4
	動画配信によるオンデマンド型授業		29.8
	対面とオンラインのハイブリッド型授業		26.5
宿題・課題等をオンラインで配布			92.0
コミュニケーション活用・計	ビデオ会議システムを活用したホームルームの実施		17.9
	学校と家庭とのコミュニケーション		49.3
外部との連携力強化・計	地域社会や海外との連携、協力の強化		20.3
	他の高校との連携、協力の強化		12.8
その他			3.2
まだ活用していない			—
無回答			—

授業での活用・計		61.4
宿題・課題の配信		92.0
コミュニケーション活用・計		57.6
外部との連携力強化・計		25.6

Q17

- 設置者別にみると、私立で「コミュニケーション活用・計」が国公立と比較して高く、特に「学校と家庭とのコミュニケーション」で高くなっている。
- 高校タイプ別にみると、総合学科と専門学科で全体と比較してスコアの低い項目が多い。総合学科では「ビデオ会議システムを活用したホームルームの実施」「他の高校との連携、協力の強化」は1割未満と低い。
- 大短進学率別にみると、進学率95%以上の高校で全体よりもスコアの高い項目が多く、中でも「対面とオンラインのハイブリッド型授業」は全体を10ポイント以上上回っている。進学率が高い高校ほど活用している割合が高い。
- 高校所在地別にみると、北関東・甲信越で授業での活用に関する3項目すべてで全体を10ポイント以上上回っており、「授業での活用・計」では80%と他の地域と比較してやや突出して高い。
- 「ICT」活用状況別にみると、教員個人で活用している高校はすべての項目でスコアが低い。

■現在の教育活動における具体的なICT活用方法（「ICT活用」実施校／複数回答）

(%)

具体的にどのようにICTを活用していますか。

	習支援型授業による	双方向型授業による	オンライン授業による	動画配信による	授業内容の対面型授業による	宿題・課題のオンライン配信による	コミュニケーション活用・計			外部との連携強化・計			その他	いまだ活用していない	無回答	授業での活用・計	宿題・課題の配信	オンライン活用・計	コミュニケーション	外部との連携強化
							活用・計	活用・計	活用・計	活用・計	活用・計	活用・計								
2024年 全体 (n= 665)	45.4	29.8	26.5	92.0	17.9	49.3	20.3	12.8	3.2	—	—	61.4	92.0	57.6	25.6					
設置者別 国公立 (n= 468)	44.4	27.6	24.4	91.0	17.1	45.7	20.7	13.7	2.6	—	—	59.4	91.0	53.2	26.7					
私立 (n= 197)	47.7	35.0	31.5	94.4	19.8	57.9	19.3	10.7	4.6	—	—	66.0	94.4	68.0	22.8					
高校 普通科 (n= 508)	46.7	32.5	29.3	94.1	18.5	52.0	21.1	13.8	3.1	—	—	63.8	94.1	59.8	27.2					
タイプ別 総合学科 (n= 37)	43.2	18.9	16.2	89.2	5.4	48.6	16.2	—	2.7	—	—	51.4	89.2	48.6	16.2					
専門学科 (n= 91)	42.9	20.9	18.7	83.5	20.9	36.3	18.7	12.1	3.3	—	—	56.0	83.5	49.5	20.9					
大短 70%以上・計 (n= 316)	48.7	36.1	33.5	94.6	22.2	52.8	23.4	16.5	1.6	—	—	65.2	94.6	61.7	30.1					
進学率別 95%以上 (n= 116)	50.9	38.8	37.9	91.4	23.3	56.0	24.1	20.7	0.9	—	—	68.1	91.4	62.9	32.8					
70~95%未満 (n= 200)	47.5	34.5	31.0	96.5	21.5	51.0	23.0	14.0	2.0	—	—	63.5	96.5	61.0	28.5					
70%未満・計 (n= 349)	42.4	24.1	20.1	89.7	14.0	46.1	17.5	9.5	4.6	—	—	57.9	89.7	53.9	21.5					
40~70%未満 (n= 132)	44.7	27.3	18.9	93.2	12.1	48.5	15.9	11.4	3.8	—	—	58.3	93.2	55.3	22.0					
40%未満・計 (n= 217)	41.0	22.1	20.7	87.6	15.2	44.7	18.4	8.3	5.1	—	—	57.6	87.6	53.0	21.2					
高校 北海道 (n= 53)	60.4	24.5	35.8	92.5	15.1	50.9	30.2	9.4	3.8	—	—	67.9	92.5	56.6	30.2					
所在地別 東北 (n= 81)	33.3	24.7	17.3	88.9	13.6	46.9	18.5	7.4	2.5	—	—	56.8	88.9	54.3	19.8					
北関東・甲信越 (n= 61)	62.3	42.6	42.6	90.2	23.0	45.9	16.4	19.7	1.6	—	—	80.3	90.2	59.0	29.5					
南関東 (n= 126)	48.4	33.3	27.8	95.2	21.4	50.8	19.8	9.5	3.2	—	—	62.7	95.2	57.1	23.8					
東海 (n= 67)	44.8	25.4	29.9	88.1	14.9	47.8	20.9	9.0	4.5	—	—	58.2	88.1	53.7	20.9					
北陸 (n= 19)	47.4	26.3	36.8	94.7	15.8	31.6	5.3	10.5	5.3	—	—	68.4	94.7	47.4	15.8					
関西 (n= 76)	40.8	30.3	25.0	98.7	13.2	51.3	27.6	14.5	2.6	—	—	59.2	98.7	57.9	28.9					
中国・四国 (n= 77)	48.1	31.2	23.4	89.6	20.8	50.6	23.4	19.5	3.9	—	—	59.7	89.6	62.3	35.1					
九州・沖縄 (n= 105)	35.2	26.7	17.1	90.5	19.0	52.4	14.3	15.2	2.9	—	—	52.4	90.5	61.0	22.9					
「ICT」活用 活用 (n= 665)	45.4	29.8	26.5	92.0	17.9	49.3	20.3	12.8	3.2	—	—	61.4	92.0	57.6	25.6					
活用状況 学校全体・学年・課程・計 (n= 559)	47.8	31.3	29.2	93.0	20.4	51.7	22.4	13.8	3.2	—	—	63.0	93.0	61.0	27.5					
学校全体で組織的に (n= 478)	50.4	33.1	30.8	93.1	22.4	51.3	23.2	14.6	3.3	—	—	66.1	93.1	61.3	29.1					
学年や課程・学科・コース・教科単位で (n= 81)	32.1	21.0	19.8	92.6	8.6	54.3	17.3	8.6	2.5	—	—	44.4	92.6	59.3	18.5					
教員個人で (n= 106)	33.0	21.7	12.3	86.8	4.7	36.8	9.4	7.5	2.8	—	—	52.8	86.8	39.6	15.1					

※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/0.0-5pt以上低い

※グレー文字：サンプル数20未満のため参考値

Q17

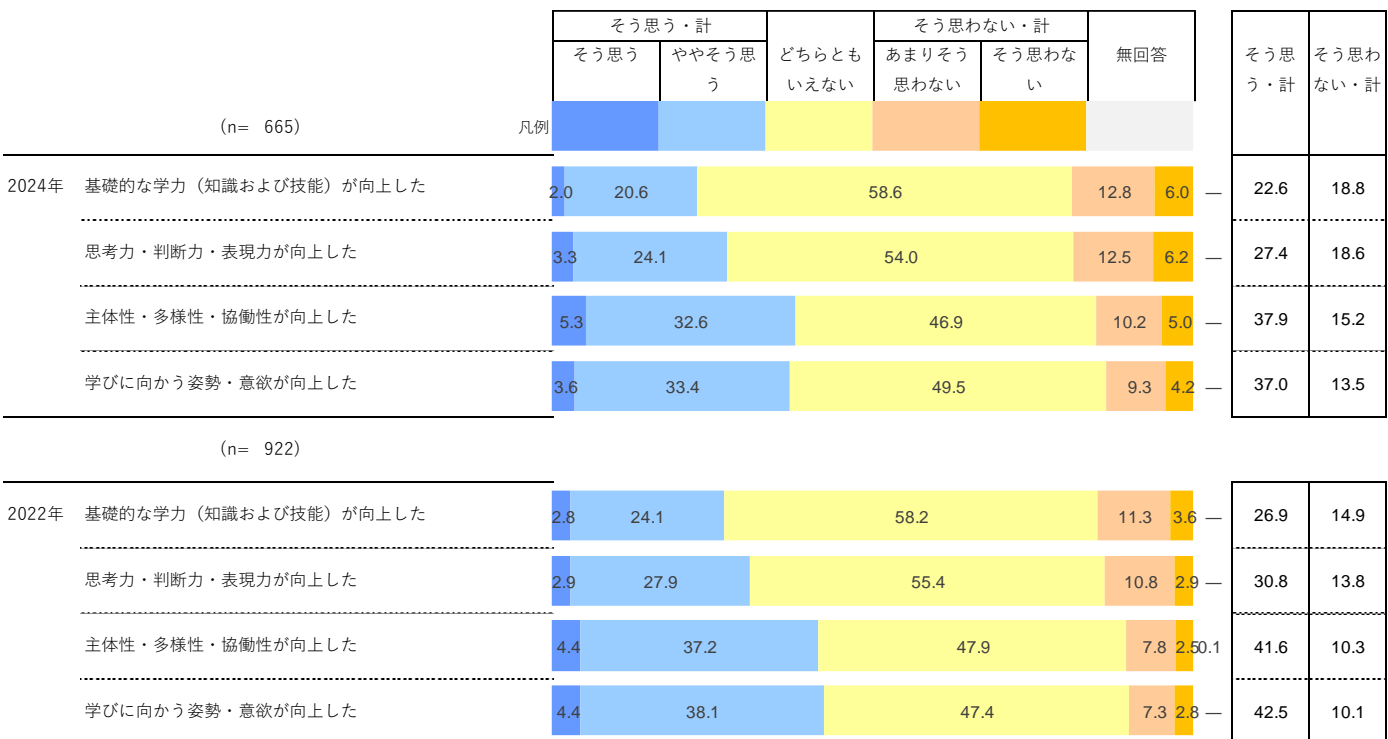
3. ICT活用による生徒の変化

- ICT活用への取り組みによる生徒の変化として「**そう思う・計**」の割合が高いのは、【**主体性・多様性・協働性が向上した**】（38%）、【**学びに向かう姿勢・意欲が向上した**】（37%）。
- 2022年と比較すると、大きな変動はないものの「**そう思う・計**」の割合がすべての項目で低下している。
 - 高校タイプ別にみると、専門学科はすべての項目で全体よりも高く、特に「主体性・多様性・協働性が向上した」は10ポイント上回っている。
 - 大短進学率別にみると、進学率70～95%未満の高校で「学びに向かう姿勢・意欲が向上した」が全体と比較して低い。
 - 高校所在地別にみると、北関東・甲信越ですべての項目が全体と比較してスコアが高い。
 - 「ICT」活用状況別にみると、教員個人で実施している高校はすべての項目で全体を7～16ポイント下回っている。

■ ICT活用への取り組みによる生徒の変化（「ICT活用」実施校／各単一回答）

（%）

ICT活用に取り組んだことで、どのような生徒の変化を感じていますか。



Q18

● 2024年

■ ICT活用への取り組みによる生徒の変化（「ICT活用」実施校/各単一回答） ※「そう思う・計」（「そう思う」「ややそう思う」の合計）

ICT活用に取り組んだことで、どのような生徒の変化を感じていますか。 (%)

		基礎的な学力（知識 および技能）が向上 した	思考力・判断力・表 現力が向上した	主体性・多様性・協 働性が向上した	学びに向かう姿勢・ 意欲が向上した
2024年 全体	(n= 665)	22.6	27.4	37.9	37.0
設置者別					
国公立	(n= 468)	22.2	27.8	36.5	38.0
私立	(n= 197)	23.4	26.4	41.1	34.5
高校					
タイプ別					
普通科	(n= 508)	22.8	26.6	38.6	37.2
総合学科	(n= 37)	16.2	21.6	29.7	27.0
専門学科	(n= 91)	26.4	37.4	40.7	41.8
大短					
進学率別					
70%以上・計	(n= 316)	20.9	24.4	36.1	32.9
95%以上	(n= 116)	21.6	26.7	36.2	35.3
70～95%未満	(n= 200)	20.5	23.0	36.0	31.5
70%未満・計	(n= 349)	24.1	30.1	39.5	40.7
40～70%未満	(n= 132)	23.5	29.5	40.2	39.4
40%未満・計	(n= 217)	24.4	30.4	39.2	41.5
高校					
所在地別					
北海道	(n= 53)	17.0	24.5	35.8	35.8
東北	(n= 81)	21.0	27.2	40.7	39.5
北関東・甲信越	(n= 61)	24.6	36.1	45.9	44.3
南関東	(n= 126)	24.6	26.2	32.5	34.9
東海	(n= 67)	16.4	28.4	34.3	31.3
北陸	(n= 19)	31.6	15.8	21.1	36.8
関西	(n= 76)	21.1	26.3	38.2	31.6
中国・四国	(n= 77)	23.4	28.6	44.2	39.0
九州・沖縄	(n= 105)	25.7	26.7	39.0	40.0
「ICT」					
活用状況					
活用	(n= 665)	22.6	27.4	37.9	37.0
学校全体・学年・課程・計	(n= 559)	24.0	29.7	41.0	39.2
学校全体で組織的に	(n= 478)	26.2	30.3	42.3	40.4
学年や課程・学科・コース・教科単位で	(n= 81)	11.1	25.9	33.3	32.1
教員個人で	(n= 106)	15.1	15.1	21.7	25.5

※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/0.0-5pt以上低い

※グレー文字：サンプル数20未満のため参考値

Q18TOP2

● 参考：2022年

■ ICT活用への取り組みによる生徒の変化（「ICT活用」実施校/各単一回答） ※「そう思う・計」（「そう思う」「ややそう思う」の合計）

ICT活用に取り組んだことで、どのような生徒の変化を感じていますか。 (%)

		基礎的な学力（知識 および技能）が向上 した	思考力・判断力・表 現力が向上した	主体性・多様性・協 働性が向上した	学びに向かう姿勢・ 意欲が向上した
2022年 全体	(n= 922)	26.9	30.8	41.6	42.5
設置者別					
国公立	(n= 665)	26.9	30.2	42.1	43.8
私立	(n= 257)	26.8	32.3	40.5	39.3
高校					
タイプ別					
普通科	(n= 743)	26.9	30.3	41.3	41.6
総合学科	(n= 60)	16.7	31.7	41.7	36.7
専門学科	(n= 104)	35.6	35.6	44.2	51.9
大短					
進学率別					
70%以上・計	(n= 423)	24.6	28.8	37.1	35.7
95%以上	(n= 159)	20.8	27.7	37.1	35.8
70～95%未満	(n= 264)	26.9	29.5	37.1	35.6
70%未満・計	(n= 499)	28.9	32.5	45.5	48.3
40～70%未満	(n= 205)	32.7	35.1	48.3	47.8
40%未満・計	(n= 294)	26.2	30.6	43.5	48.6
高校					
所在地別					
北海道	(n= 72)	26.4	29.2	40.3	36.1
東北	(n= 98)	24.5	31.6	46.9	55.1
北関東・甲信越	(n= 109)	19.3	22.0	46.8	38.5
南関東	(n= 161)	31.1	36.6	34.8	46.0
東海	(n= 125)	24.8	28.8	37.6	38.4
北陸	(n= 23)	26.1	26.1	43.5	47.8
関西	(n= 96)	33.3	33.3	41.7	43.8
中国・四国	(n= 108)	25.0	29.6	43.5	37.0
九州・沖縄	(n= 130)	29.2	33.1	44.6	42.3
「ICT」					
活用・計	(n= 922)	26.9	30.8	41.6	42.5
活用状況					
学校全体・学年・課程・計	(n= 757)	29.2	34.3	45.6	45.3
学校全体で組織的に	(n= 568)	32.0	37.5	48.6	47.0
学年や課程・学科・コース・教科単位で	(n= 189)	20.6	24.9	36.5	40.2
教員個人で	(n= 165)	16.4	14.5	23.6	29.7

※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/0.0-5pt以上低い

Q18TOP2

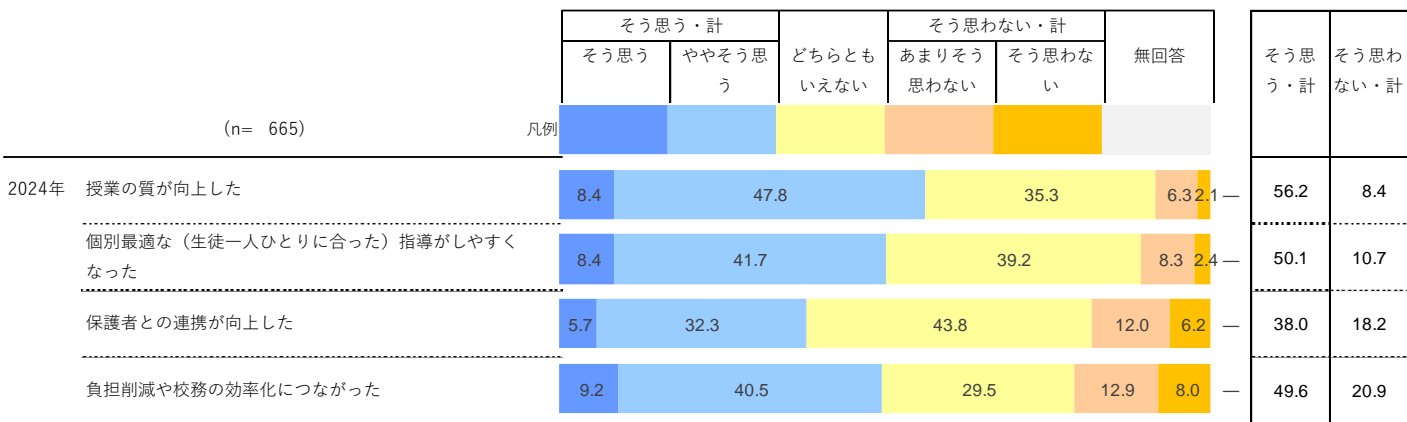
4. ICT活用による教員・学校の変化

- ICT活用による教員・学校の変化として「**そう思う・計**」の割合が高いのは、【**授業の質が向上した**】が**56%**でトップ、以下【**個別最適な（生徒一人ひとりに合った）指導がしやすくなった**】【**負担削減や校務の効率化につながった**】（各**50%**）が続く。

■ICT活用への取り組みによる教員・学校の変化（「ICT活用」実施校/各単一回答）

(%)

ICT活用に取り組んだことで、どのような教員・学校の変化を感じていますか。



Q19

- 設置者別で見ると、私立で「保護者との連携が向上した」「負担削減や校務の効率化につながった」が国公立を10ポイント以上上回っている。
- 高校タイプ別にみると、総合学科で「保護者との連携が向上した」「負担削減や校務の効率化につながった」が全体と比べて15ポイント前後低い。また、専門学科では「個別最適な（生徒一人ひとりに合った）指導がしやすくなった」が全体よりも6ポイント低い。
- 大短進学率別にみると、進学率が低い高校ほど「授業の質が向上した」のスコアが高い。
- 高校所在地別にみると、北関東・甲信越で「授業の質が向上した」（67%）が全体と比べて特に高いが、「保護者との連携が向上した」（25%）は全体を13ポイント下回って低い。
- 「ICT」活用状況別にみると、学校全体で組織的に活用している高校はすべての項目でスコアが高く、一方で学年や課程・学科・コース・教科単位で活用している高校や教員個人で活用している高校はすべての項目で全体よりも低くなっている。

■ICT活用への取り組みによる教員・学校の変化（「ICT活用」実施校/各単一回答） ※「そう思う・計」（「そう思う」「ややそう思う」の合計）

ICT活用に取り組んだことで、どのような教員・学校の変化を感じていますか。

(%)

		授業の質が向上した	個別最適な（生徒一人ひとりに合った）指導がしやすくなった	保護者との連携が向上した	負担削減や校務の効率化につながった
2024年 全体	(n= 665)	56.2	50.1	38.0	49.6
設置者別					
国公立	(n= 468)	56.4	48.5	34.6	45.5
私立	(n= 197)	55.8	53.8	46.2	59.4
高校タイプ別					
普通科	(n= 508)	55.9	52.0	40.6	51.0
総合学科	(n= 37)	54.1	51.4	24.3	35.1
専門学科	(n= 91)	57.1	44.0	34.1	52.7
大短進学率別					
70%以上・計	(n= 316)	53.2	48.7	40.2	51.6
95%以上	(n= 116)	51.7	46.6	40.5	46.6
70～95%未満	(n= 200)	54.0	50.0	40.0	54.5
70%未満・計	(n= 349)	59.0	51.3	36.1	47.9
40～70%未満	(n= 132)	60.6	50.8	38.6	44.7
40%未満・計	(n= 217)	58.1	51.6	34.6	49.8
高校所在地別					
北海道	(n= 53)	45.3	49.1	41.5	47.2
東北	(n= 81)	50.6	46.9	38.3	42.0
北関東・甲信越	(n= 61)	67.2	49.2	24.6	42.6
南関東	(n= 126)	56.3	52.4	38.1	50.8
東海	(n= 67)	55.2	50.7	32.8	50.7
北陸	(n= 19)	57.9	47.4	15.8	52.6
関西	(n= 76)	55.3	50.0	44.7	55.3
中国・四国	(n= 77)	58.4	53.2	41.6	50.6
九州・沖縄	(n= 105)	59.0	48.6	43.8	53.3
「ICT」活用状況					
活用	(n= 665)	56.2	50.1	38.0	49.6
学校全体・学年・課程・計	(n= 559)	58.7	53.1	41.7	53.1
学校全体で組織的に	(n= 478)	61.7	56.7	43.5	55.4
学年や課程・学科・コース・教科単位で	(n= 81)	40.7	32.1	30.9	39.5
教員個人で	(n= 106)	43.4	34.0	18.9	31.1

※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/○0-5pt以上低い

※グレー文字：サンプル数20未満のため参考値

Q19TOP2

5. ICT活用による効果や変化

- ICT活用による効果や変化は、【多様なリソースにアクセスできることによる生徒の学びの深まり】が49%でトップ。以下、【生徒の興味を喚起し、学習へのモチベーションを上げる】が46%、【先生方の負担軽減・校務の効率化】が43%で続く。

■ICTの活用による効果・変化（「ICT活用」実施校／複数回答）

（%）

ICTの活用によって、現状どのような効果や変化を感じていますか。

	2024年 全体 (n= 665)	
多様なリソースにアクセスできることによる生徒の学びの深まり		48.9
生徒の興味を喚起し、学習へのモチベーションを上げる		45.6
先生方の負担軽減・校務の効率化		43.0
生徒一人ひとりが自分に合った方法や進度で学習できる		41.5
オンラインを活用し、効果的なアクティブ・ラーニングや協働学習を実施		33.2
生徒自身が自分に最適な学習を探りながら自学自習できるようになる		25.9
授業外の家庭学習（課題）等も含め、生徒の学習時間の伸長		22.4
オンラインを活用した保護者との連携強化		18.0
学習ログ、ポートフォリオ等を活用した、先生の授業や各種指導の質向上		17.0
その他		3.5
無回答		0.3

※「その他」「無回答」を除く項目で、全体の降順ソート

Q20

- 設置者別でみると、私立でスコアの高い項目が多く、特に「先生方の負担削減・校務の効率化」「オンラインを活用した保護者との連携強化」は国立を10ポイント以上上回っている。一方、「生徒の興味を喚起し、学習へのモチベーションを上げる」は国立が私立を7ポイント上回る。
- 高校タイプ別にみると、専門学科では「生徒の興味を喚起し、学習へのモチベーションを上げる」は全体を5ポイント以上上回っている。一方、総合学科で「多様なリソースにアクセスできることによる生徒の学びの深まり」「先生方の負担削減・校務の効率化」、専門学科で「生徒一人ひとりが自分に合った方法や速度で学習できる」「オンラインを活用し、効果的なアクティブ・ラーニングや協働学習を実施」が全体と比べて10ポイント以上低い。
- 大短進学率別にみると、進学率が高い高校ほど「多様なリソースにアクセスできることによる生徒の学びの深まり」「オンラインを活用し、効果的なアクティブ・ラーニングや協働学習を実施」が高い。一方で進学率が低い高校ほど「生徒の興味を喚起し、学習へのモチベーションを上げる」が高い。
- 「ICT」活用状況別にみると、学年や課程・学科・コース・教科単位で活用している高校や教員個人で活用している高校はすべての項目で全体と比較して低くなっている。

■ICTの活用による効果・変化（「ICT活用」実施校／複数回答）

(%)

ICTの活用によって、現状どのような効果や変化を感じていますか。

		の多様な学びの深まりに よる生徒セ	上習生 げへの の興味を喚起し、学	の先生 効方 率化 の負担 軽減・ 校務	で合生 きた徒 一方 法と進 度が自 分学習	二果 オン グなラ やアイン クンを学 習プを 実施し効	習学 生徒 できを自 身の探 身に自 分なる 最適な	習題 授業 時間 外のも の家庭、 生徒へ の課学	護オン ラのイン 連携を 強化し た保	授オ学 業等習 各活ロ グ用、ポ ー、トフ 向生オ のリ	そ の他	無 回答
2024年 全体	(n= 665)	48.9	45.6	43.0	41.5	33.2	25.9	22.4	18.0	17.0	3.5	0.3
設置者別												
国立	(n= 468)	48.3	47.6	39.3	39.3	31.6	27.8	20.1	14.7	16.2	4.3	0.2
私立	(n= 197)	50.3	40.6	51.8	46.7	37.1	21.3	27.9	25.9	18.8	1.5	0.5
高校タイプ別												
普通科	(n= 508)	49.8	44.9	44.7	43.7	35.6	27.6	22.0	20.1	18.3	3.0	0.2
総合学科	(n= 37)	32.4	37.8	27.0	43.2	24.3	29.7	27.0	18.9	13.5	5.4	—
専門学科	(n= 91)	51.6	51.6	42.9	30.8	23.1	16.5	24.2	9.9	13.2	5.5	—
大短進学率別												
70%以上・計	(n= 316)	51.6	41.5	42.1	40.8	37.7	28.5	21.8	22.5	19.3	3.2	—
95%以上	(n= 116)	55.2	40.5	49.1	38.8	37.1	25.0	21.6	24.1	18.1	3.4	—
70~95%未満	(n= 200)	49.5	42.0	38.0	42.0	38.0	30.5	22.0	21.5	20.0	3.0	—
70%未満・計	(n= 349)	46.4	49.3	43.8	42.1	29.2	23.5	22.9	14.0	14.9	3.7	0.6
40~70%未満	(n= 132)	46.2	47.0	42.4	48.5	31.1	25.8	28.0	18.9	17.4	3.0	1.5
40%未満・計	(n= 217)	46.5	50.7	44.7	38.2	28.1	22.1	19.8	11.1	13.4	4.1	—
高校所在地別												
北海道	(n= 53)	52.8	49.1	52.8	41.5	34.0	22.6	18.9	17.0	24.5	—	—
東北	(n= 81)	44.4	51.9	39.5	40.7	24.7	22.2	25.9	21.0	18.5	3.7	—
北関東・甲信越	(n= 61)	55.7	42.6	34.4	49.2	41.0	27.9	21.3	16.4	21.3	—	—
南関東	(n= 126)	53.2	42.1	43.7	38.1	38.9	18.3	27.8	20.6	15.9	6.3	0.8
東海	(n= 67)	53.7	41.8	46.3	32.8	37.3	29.9	20.9	17.9	16.4	4.5	—
北陸	(n= 19)	36.8	47.4	36.8	42.1	26.3	36.8	21.1	5.3	15.8	5.3	—
関西	(n= 76)	43.4	42.1	44.7	28.9	32.9	23.7	21.1	18.4	13.2	1.3	—
中国・四国	(n= 77)	44.2	40.3	40.3	49.4	27.3	32.5	22.1	16.9	11.7	3.9	—
九州・沖縄	(n= 105)	47.6	53.3	44.8	50.5	31.4	30.5	18.1	17.1	18.1	3.8	1.0
「ICT」活用状況												
活用	(n= 665)	48.9	45.6	43.0	41.5	33.2	25.9	22.4	18.0	17.0	3.5	0.3
学校全体・学年・課程・計	(n= 559)	51.5	46.3	44.4	42.9	35.1	27.7	23.3	19.9	18.8	2.9	0.4
学校全体で組織的に	(n= 478)	52.3	49.0	45.6	44.6	36.2	28.7	23.6	20.9	20.1	2.5	0.4
学年や課程・学科・コース・教科単位で	(n= 81)	46.9	30.9	37.0	33.3	28.4	22.2	21.0	13.6	11.1	4.9	—
教員個人で	(n= 106)	34.9	41.5	35.8	34.0	23.6	16.0	17.9	8.5	7.5	6.6	—

※「その他」「無回答」を除く項目で、2024年全体の降順ソート ※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/0.0-5pt以上低い ※グレー文字：サンプル数20未満のため参考値

Q20

6. ICT活用にあたっての課題

- ICT活用にあたっての課題は、「教員の知識・理解不足」が57%、「教員の負担の大きさ」が47%と教員の対応に関する内容が高く、次いで、「Wi-Fiなどネット環境が不十分」が45%で利用環境が続く。
- 2022年と比較すると、全体的な傾向に変化はないものの、スコアが低下している項目が多い。10ポイント以上の減少でみると、「教員の負担の大きさ」が17ポイント、「端末やデバイスの不足」が11ポイント減少しており、ICT活用における課題は改善されつつある。

■ 「ICT」活用にあたっての課題（全体／複数回答）

（%）

ICT活用にあたって、どのような課題がありますか。

		2024年 全体 (n= 671)	2022年 全体 (n= 943)
教員の対応・計	教員の負担の大きさ	46.8	63.6
	教員の知識・理解不足	56.9	65.4
	教員の指導力不足	28.2	38.4
	教員間の共通認識不足	33.7	33.3
生徒の対応・影響・計	生徒の意欲や学力の低下・不足（*1）	28.9	28.2
	ICT機器使用による健康面の影響等	24.6	29.7
利用環境・計	Wi-Fiなどネット環境が不十分	45.0	49.8
	セキュリティ環境や機器状態の管理	41.0	45.6
	端末やデバイスの不足	17.9	28.6
	どのサービスを選択すればいいのかわからない	8.9	10.7
予算	ICT導入の予算が不十分	33.7	37.1
	その他	2.5	4.3
	特にない	4.5	2.3
	無回答	0.4	0.1

教員の対応・計	87.2	95.0
生徒の対応・影響・計	46.9	50.6
利用環境・計	73.2	79.7
予算	33.7	37.1

※*1 2022年までの選択肢は「生徒の意欲や学力の低下・欠如」

Q21

- 設置者別にみると、国公立では「教員の負担の大きさ」や「Wi-Fiなどネット環境が不十分」「端末やデバイスの不足」など利用環境が私立と比較して高く、逆に私立では「教員間の共通認識不足」「ICT機器使用による健康面の影響等」が国公立よりも高い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科では「教員の知識・理解不足」「教員間の共通認識不足」が全体と比較して特に高い。
- 大短進学率別にみると、進学率が低い高校ほど「Wi-Fiなどネット環境が不十分」の回答割合が高い。
- 「ICT」活用状況別にみると、学年や課程・学科・コース・教科単位で活用している高校や教員個人で活用している高校は全体と比較してスコアの高い項目が多く、課題が多いと回答している。

■「ICT」活用にあたっての課題（全体／複数回答）

(%)

ICT活用にあたって、どのような課題がありますか。

		教員の対応・計				生徒の対応・影響・計				利用環境・計				不十分	ICT導入の予想が	その他	特にない	無回答	教員の対応・計	生徒の対応・影響・計	利用環境・計	予算
		教員の負担の大きさ	教員の知識・理解不足	教員の指導力不足	教員間の共通認識不足	生徒の健康面の影響等	ICT機器使用による影響等	Wi-Fiなどネット環境が不十分	機器状態の管理環境やセキュリティ	端末やデバイスの不	どのサービスの選択すべいかわからない	教員の負担の大きさ	教員の知識・理解不足									
2024年 全体	(n= 671)	46.8	56.9	28.2	33.7	28.9	24.6	45.0	41.0	17.9	8.9	33.7	2.5	4.5	0.4	87.2	46.9	73.2	33.7			
設置者別																						
国公立	(n= 473)	49.9	56.4	29.4	30.7	28.1	21.4	50.3	42.7	20.5	8.0	34.9	2.5	3.8	0.4	88.8	45.0	77.4	34.9			
私立	(n= 198)	39.4	58.1	25.3	40.9	30.8	32.3	32.3	36.9	11.6	11.1	30.8	2.5	6.1	0.5	83.3	51.5	63.1	30.8			
高校タイプ別																						
普通科	(n= 513)	45.6	55.8	26.5	33.3	29.4	26.3	43.3	41.5	18.1	9.4	34.5	2.7	4.9	0.6	85.6	47.8	71.7	34.5			
総合学科	(n= 38)	39.5	76.3	36.8	47.4	34.2	15.8	52.6	39.5	21.1	5.3	28.9	2.6	—	—	97.4	47.4	81.6	28.9			
専門学科	(n= 91)	53.8	52.7	33.0	33.0	26.4	19.8	48.4	37.4	13.2	9.9	34.1	1.1	4.4	—	92.3	44.0	76.9	34.1			
大短進学率別																						
70%以上・計	(n= 319)	44.5	54.5	26.0	36.1	29.5	27.9	39.8	42.6	16.9	8.5	35.1	3.4	4.7	0.9	84.6	47.3	69.3	35.1			
95%以上	(n= 116)	50.9	58.6	25.9	33.6	29.3	34.5	38.8	48.3	16.4	9.5	36.2	4.3	3.4	0.9	81.9	50.9	70.7	36.2			
70~95%未満	(n= 203)	40.9	52.2	26.1	37.4	29.6	24.1	40.4	39.4	17.2	7.9	34.5	3.0	5.4	1.0	86.2	45.3	68.5	34.5			
70%未満・計	(n= 352)	48.9	59.1	30.1	31.5	28.4	21.6	49.7	39.5	18.8	9.4	32.4	1.7	4.3	—	89.5	46.6	76.7	32.4			
40~70%未満	(n= 132)	47.7	60.6	31.8	35.6	30.3	25.8	47.7	40.2	18.2	9.1	33.3	1.5	4.5	—	89.4	50.8	72.7	33.3			
40%未満・計	(n= 220)	49.5	58.2	29.1	27.3	27.3	19.1	50.9	39.1	19.1	9.5	31.8	1.8	4.1	—	89.5	44.1	79.1	31.8			
高校所在地別																						
北海道	(n= 53)	45.3	66.0	32.1	35.8	35.8	26.4	47.2	50.9	17.0	3.8	37.7	3.8	1.9	—	86.8	56.6	77.4	37.7			
東北	(n= 83)	53.0	50.6	27.7	36.1	16.9	18.1	43.4	34.9	14.5	7.2	32.5	1.2	7.2	1.2	84.3	33.7	69.9	32.5			
北関東・甲信越	(n= 62)	50.0	53.2	25.8	46.8	29.0	29.0	35.5	48.4	22.6	9.7	38.7	3.2	3.2	—	91.9	46.8	71.0	38.7			
南関東	(n= 126)	38.9	61.1	25.4	34.9	27.8	23.8	43.7	36.5	15.9	11.1	30.2	4.0	6.3	0.8	84.9	44.4	65.9	30.2			
東海	(n= 67)	49.3	50.7	23.9	29.9	28.4	22.4	56.7	41.8	16.4	9.0	34.3	3.0	3.0	—	85.1	47.8	79.1	34.3			
北陸	(n= 20)	65.0	45.0	20.0	10.0	30.0	30.0	40.0	40.0	15.0	—	35.0	5.0	—	5.0	95.0	50.0	70.0	35.0			
関西	(n= 77)	37.7	55.8	27.3	36.4	28.6	28.6	54.5	42.9	19.5	7.8	36.4	—	2.6	—	88.3	49.4	83.1	36.4			
中国・四国	(n= 78)	52.6	64.1	34.6	28.2	37.2	24.4	46.2	35.9	19.2	9.0	25.6	2.6	2.6	—	89.7	53.8	73.1	25.6			
九州・沖縄	(n= 105)	47.6	56.2	31.4	30.5	30.5	24.8	38.1	43.8	20.0	12.4	37.1	1.9	6.7	—	86.7	47.6	73.3	37.1			
「ICT」活用状況																						
活用	(n= 665)	46.9	57.3	28.1	33.7	29.0	24.8	45.4	41.2	17.9	8.9	34.0	2.4	4.4	0.2	87.5	47.2	73.5	34.0			
学校全体・学年・課程・計	(n= 559)	47.2	56.2	26.1	32.4	27.7	26.5	43.6	40.6	16.5	9.5	33.6	2.1	4.8	0.2	86.6	47.2	72.1	33.6			
学校全体で組織的に	(n= 478)	45.0	55.0	24.3	32.2	26.8	25.9	42.7	39.1	16.5	8.6	33.1	2.1	5.2	0.2	85.4	46.4	70.7	33.1			
学年や課程・学科・コース・教科単位で	(n= 81)	60.5	63.0	37.0	33.3	33.3	29.6	49.4	49.4	16.0	14.8	37.0	2.5	2.5	—	93.8	51.9	80.2	37.0			
教員個人で	(n= 106)	45.3	63.2	38.7	40.6	35.8	16.0	54.7	44.3	25.5	5.7	35.8	3.8	1.9	—	92.5	47.2	81.1	35.8			
未活用	(n= 4)	50.0	25.0	50.0	50.0	25.0	—	—	25.0	25.0	—	25.0	25.0	—	—	75.0	25.0	50.0	—			

※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/0.0-5pt以上低い

※グレー文字：サンプル数20未満のため参考値

Q21

7. 今後の教育活動におけるICT活用方法

- 今後の教育活動におけるICTの活用方法は「宿題・課題等をオンラインで配布」が56%でトップ、以下「地域社会や海外との連携、協力の強化」が39%、「オンラインによる双方向型授業・学習支援」が38%で続く。
- 2022年と比較すると、全体の傾向は変わらないが、「外部との連携力強化」の項目を除き、スコアは減少している。特に上位項目である「宿題・課題等をオンラインで配布」は18ポイント、「オンラインによる双方向型授業・学習支援」は16ポイントと大きく減少している。
- 現在の活用方法と比較すると、「宿題・課題等をオンラインで配布」では現在:92%に対して今後:56%、「授業での活用・計」では現在:61%、今後55%と現在の活用が充実しているが、「外部との連携力強化・計」の項目については現在:26%、今後:47%で今後の活用を広げていきたいと回答している。

■今後の教育活動におけるICT活用方法（全体／複数回答）

（%）

今後、教育活動においてどのようにICTを活用していきたいとお考えですか。

	現在の活用方法	今後の教育活動におけるICT活用方法			
		2024年 全体 (n= 665)	2024年 全体 (n= 671)	2022年 全体 (n= 943)	2021年 全体 (n=1,156)
授業での活用・計	オンラインによる双方向型授業・学習支援	45.4	37.9	53.8	55.9
	動画配信によるオンデマンド型授業	29.8	25.8	31.6	39.6
	対面とオンラインのハイブリッド型授業	26.5	26.8	42.2	44.9
	宿題・課題等をオンラインで配布	92.0	56.2	74.3	68.0
コミュニケーション活用・計	ビデオ会議システムを活用したホームルームの実施	17.9	15.4	18.2	21.7
	学校と家庭とのコミュニケーション	49.3	32.6	33.0	40.2
外部との連携力強化・計	地域社会や海外との連携、協力の強化	20.3	39.0	36.1	35.5
	他の高校との連携、協力の強化	12.8	29.4	25.2	22.2
	その他	3.2	3.3	2.4	3.3
	まだ活用のイメージがつかない	—	7.9	4.2	4.8
	無回答	—	1.2	—	0.1
	授業での活用・計	61.4	55.4	74.0	77.8
	宿題・課題の配信	92.0	56.2	74.3	68.0
	コミュニケーション活用・計	57.6	39.8	41.9	50.1
	外部との連携力強化・計	25.6	46.8	43.2	41.5

※現在の活用方法は、「ICT活用」実施校ベース

Q22

- 設置者別にみると、私立で国公立よりも高い項目が多く、「コミュニケーション活用・計」と「外部との連携力強化・計」では私立が国公立を7ポイント上回っている。
- 高校タイプ別にみると、総合学科と専門学科では「コミュニケーション活用・計」「外部との連携力強化・計」が全体と比べて低い。また総合学科では「授業での活用・計」も全体と比較して低い。
- 大短進学率別にみると、進学率70%以上の高校は「外部との連携力強化・計」が全体と比較して高い。一方、進学率40~70%未満の高校は「宿題・課題の配信」が高い。
- 高校所在地別にみると、北関東・甲信越で「他の高校との連携、協力の強化」が全体と比較して10ポイント以上高い。
- 「ICT」活用状況別にみると、学年や課程・学科・コース・教科単位で活用している高校で「コミュニケーション活用・計」が5割を超え特に高い。一方、教員個人で活用している高校はスコアの低い項目が多い。

■今後の教育活動におけるICT活用方法（全体／複数回答）

今後、教育活動においてどのようにICTを活用していきたいとお考えですか。

(%)

		授業での活用・計				コミュニケーション活用・計		外部との連携力強化・計		その他	ジマが活用していない	無回答	授業での活用・計	宿題・課題の配信	コミュニケーション	外部との連携力強化
		支援型授業による	動画配信による授業	対面型授業	オンライン授業	宿題・課題の配信	学習プラットフォーム	地域連携、協力強化	他校との連携強化							
2024年 全体	(n= 671)	37.9	25.8	26.8	56.2	15.4	32.6	39.0	29.4	3.3	7.9	1.2	55.4	56.2	39.8	46.8
設置者別																
国公立	(n= 473)	35.7	23.5	24.9	56.2	12.9	31.9	35.5	29.2	2.7	8.7	0.6	54.3	56.2	37.6	44.6
私立	(n= 198)	42.9	31.3	31.3	56.1	21.2	34.3	47.5	29.8	4.5	6.1	2.5	58.1	56.1	44.9	52.0
高校タイプ別																
普通科	(n= 513)	39.2	27.3	27.7	55.9	17.0	32.7	41.7	31.8	3.7	6.6	1.6	56.1	55.9	41.1	49.1
総合学科	(n= 38)	34.2	21.1	26.3	55.3	5.3	26.3	34.2	13.2	5.3	10.5	—	47.4	55.3	26.3	34.2
専門学科	(n= 91)	33.0	24.2	24.2	53.8	11.0	30.8	27.5	23.1	—	16.5	—	56.0	53.8	35.2	39.6
大短進学率別																
70%以上・計	(n= 319)	38.6	27.9	27.6	57.7	18.2	31.0	44.2	34.2	4.1	5.6	1.9	54.2	57.7	41.4	52.0
95%以上	(n= 116)	35.3	31.9	28.4	57.8	14.7	29.3	42.2	37.9	6.0	6.0	2.6	51.7	57.8	37.9	53.4
70~95%未満	(n= 203)	40.4	25.6	27.1	57.6	20.2	32.0	45.3	32.0	3.0	5.4	1.5	55.7	57.6	43.3	51.2
70%未満・計	(n= 352)	37.2	23.9	26.1	54.8	12.8	34.1	34.4	25.0	2.6	9.9	0.6	56.5	54.8	38.4	42.0
40~70%未満	(n= 132)	40.2	23.5	24.2	62.9	14.4	34.8	34.8	25.0	3.8	8.3	1.5	57.6	62.9	38.6	40.9
40%未満・計	(n= 220)	35.5	24.1	27.3	50.0	11.8	33.6	34.1	25.0	1.8	10.9	—	55.9	50.0	38.2	42.7
高校所在地別																
北海道	(n= 53)	34.0	30.2	18.9	41.5	7.5	39.6	43.4	28.3	—	13.2	—	52.8	41.5	43.4	49.1
東北	(n= 83)	32.5	24.1	30.1	49.4	10.8	30.1	34.9	24.1	3.6	7.2	1.2	63.9	49.4	36.1	41.0
北関東・甲信越	(n= 62)	45.2	33.9	32.3	61.3	19.4	37.1	40.3	40.3	—	9.7	—	64.5	61.3	43.5	50.0
南関東	(n= 126)	38.9	27.8	22.2	57.9	19.0	33.3	42.1	30.2	6.3	4.8	3.2	51.6	57.9	40.5	47.6
東海	(n= 67)	34.3	20.9	28.4	56.7	13.4	28.4	40.3	22.4	3.0	6.0	—	50.7	56.7	37.3	44.8
北陸	(n= 20)	45.0	15.0	45.0	60.0	10.0	25.0	35.0	30.0	5.0	10.0	5.0	55.0	60.0	30.0	40.0
関西	(n= 77)	36.4	23.4	27.3	57.1	11.7	39.0	37.7	26.0	3.9	6.5	—	53.2	57.1	44.2	42.9
中国・四国	(n= 78)	39.7	21.8	24.4	59.0	12.8	25.6	38.5	32.1	1.3	11.5	1.3	52.6	59.0	32.1	50.0
九州・沖縄	(n= 105)	39.0	27.6	27.6	56.2	22.9	32.4	39.0	31.4	3.8	7.6	1.0	56.2	56.2	43.8	50.5
「ICT」活用状況																
活用	(n= 665)	38.0	25.9	27.1	56.5	15.5	32.9	39.4	29.6	3.3	7.5	0.9	55.8	56.5	40.2	47.2
学校全体・学年・課程・計	(n= 559)	39.0	27.0	28.8	56.7	17.5	34.3	41.5	30.8	3.6	6.4	1.1	57.4	56.7	42.6	49.0
学校全体で組織的に	(n= 478)	39.1	26.8	29.1	55.6	18.2	33.1	42.3	32.6	4.0	6.5	1.3	57.3	55.6	41.0	50.0
学年や課程・学科・コース・教科単位で	(n= 81)	38.3	28.4	27.2	63.0	13.6	42.0	37.0	19.8	1.2	6.2	—	58.0	63.0	51.9	43.2
教員個人で	(n= 106)	33.0	19.8	17.9	55.7	4.7	25.5	28.3	23.6	1.9	13.2	—	47.2	55.7	27.4	37.7
未活用	(n= 4)	25.0	25.0	—	25.0	—	—	—	—	—	75.0	—	25.0	25.0	—	—

※全体値と比較して ■+10pt以上高い ■+5pt以上高い ■0.0-5pt以上低い

※グレー文字：サンプル数20未満のため参考値

Q22

8. ICTの活用によって狙いたい効果・変化

- ICTの活用によって狙いたい効果・変化のトップは、「生徒の興味を喚起し、学習へのモチベーションを上げる」（59%）。以下、「生徒一人ひとりが自分に合った方法や進度で学習できる」と「先生方の負担軽減・校務の効率化」が各54%で続く。
- 2022年と比較して上位の順位に大きな変化はないが、トップの「生徒の興味を喚起し、学習へのモチベーションを上げる」は5ポイント低下。一方で「生徒自身が自分に最適な学習を探りながら自学自習できるようになる」は7ポイント増加し、順位も7位から4位に上昇している。
- 現在感じている効果や変化との比較でみると、「生徒自身が自分に最適な学習を探りながら自学自習できるようになる」「授業外の家庭学習（課題）等も含め、生徒の学習時間の伸長」が現在がそれぞれ26%、22%に対し、今後の狙いたい効果や変化で48%とおよそ2倍の開きがあり、生徒の学習に関する項目への期待がうかがえる。

■ICTの活用によって狙いたい効果・変化（全体／複数回答）

（%）

ICTの活用によって、どのような効果や変化を狙いたいとお考えですか。

	現在感じている 効果や変化	今後狙いたい効果や変化		
	2024年 全体 (n= 665)	2024年 全体 (n= 671)	2022年 全体 (n= 943)	2021年 全体 (n=1,156)
生徒の興味を喚起し、学習へのモチベーションを上げる	45.6	58.6	64.2	64.2
生徒一人ひとりが自分に合った方法や進度で学習できる	41.5	53.9	51.0	50.0
先生方の負担軽減・校務の効率化	43.0	53.9	50.9	48.0
生徒自身が自分に最適な学習を探りながら自学自習できるようになる	25.9	48.3	41.4	41.6
授業外の家庭学習（課題）等も含め、生徒の学習時間の伸長	22.4	48.0	44.9	49.9
多様なリソースにアクセスできることによる生徒の学びの深まり	48.9	47.1	49.3	48.0
オンラインを活用し、効果的なアクティブ・ラーニングや協働学習を実施	33.2	39.8	41.6	43.3
学習ログ、ポートフォリオ等を活用した、先生の授業や各種指導の質向上	17.0	28.3	25.9	22.7
オンラインを活用した保護者との連携強化	18.0	18.3	16.5	22.0
その他	3.5	0.7	0.8	1.5
無回答	0.3	0.7	0.1	0.1

※「その他」「無回答」を除く項目で、「今後狙いたい効果や変化」全体の降順ソート ※「現在感じている効果や変化」は、「ICT活用」実施校ベース

Q23

- 設置者別にみると、国公立と比較して私立でスコアが高く、「授業外の家庭学習（課題）等も含め、生徒の学習時間の伸長」「オンラインを活用し、効果的なアクティブ・ラーニングや協働学習を実施」「学習ログ、ポートフォリオ等を活用した、先生の授業や各種指導の質向上」が全体と比較して高い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科と専門学科は全体と比較してスコアの低い項目が多いが、総合学科で「生徒自身が自分に最適な学習を探りながら自学自習できるようになる」は全体と比べて高い。
- 大短進学率別にみると、40～70%未満の高校で「生徒一人ひとりが自分に合った方法や進度で学習できる」「授業外の家庭学習（課題）等も含め、生徒の学習時間の伸長」が全体と比べて高く、順位は1位・2位となる。他の層は「生徒の興味を喚起し、学習へのモチベーションを上げる」がトップとなる。
- 高校所在地別にみると、北関東・甲信越で全体よりもスコアが高めの項目が多い。特に「先生方の負担軽減・校務の効率化」は66%と高い。
- 「ICT」活用状況別にみると、学年や課程・学科・コース・教科単位で活用している高校や教員個人で活用している高校は、全体と比較して低い項目が散見されるが、学年や課程・学科・コース・教科単位で活用している高校では「生徒一人ひとりが自分に合った方法や進度で学習できる」が全体と比較して高くなっている。

■ICTの活用によって狙いたい効果・変化（全体/複数回答）

(%)

ICTの活用によって、どのような効果や変化を狙いたいとお考えですか。

		上習生 げへ のの モチ ベ ー シ ョ ン を	で合生 きった るの 方人 法一 やひ やと 進 度 が 自 分 に 合 っ た 方 法 や 進 度 で 学 習 し て い る	の先 効生 率方 化の 負 担 軽 減 ・ 校 務	習学 時徒 間等 のの 伸 長 が 自 分 に 合 っ た 方 法 や 進 度 で 学 習 し て い る	習授 業 時 間 等 の 伸 長 が 自 分 に 合 っ た 方 法 や 進 度 で 学 習 し て い る	の学 び の 深 ま り に よ り 学 習 し て い る	二果 果 的 な グ ナ や ア イ ン テ ク ス を 活 用 し て い る	授オ 業等 や各 種活 用、 ポ ー ト フ ォ リ オ 等 を 活 用 し て い る	護オ 者 と の 連 携 を 強 化 し て い る	そ の 他	無 回 答
2024年 全体	(n= 671)	58.6	53.9	53.9	48.3	48.0	47.1	39.8	28.3	18.3	0.7	0.7
設置者別												
国公立	(n= 473)	57.7	52.4	55.6	48.0	45.0	45.5	37.4	25.8	16.9	1.1	0.6
私立	(n= 198)	60.6	57.6	50.0	49.0	55.1	51.0	45.5	34.3	21.7	—	1.0
高校 タイプ別												
普通科	(n= 513)	58.1	55.8	54.6	49.3	49.5	47.4	40.7	29.4	20.3	1.0	1.0
総合学科	(n= 38)	60.5	55.3	36.8	55.3	36.8	34.2	28.9	28.9	13.2	—	—
専門学科	(n= 91)	58.2	42.9	54.9	40.7	40.7	50.5	40.7	20.9	9.9	—	—
大短 進学率別												
70%以上・計	(n= 319)	58.3	53.9	57.7	49.5	49.5	48.6	40.1	29.5	19.7	0.9	1.6
95%以上	(n= 116)	57.8	55.2	56.0	50.0	44.0	48.3	32.8	32.8	18.1	1.7	2.6
70～95%未満	(n= 203)	58.6	53.2	58.6	49.3	52.7	48.8	44.3	27.6	20.7	0.5	1.0
70%未満・計	(n= 352)	58.8	54.0	50.6	47.2	46.6	45.7	39.5	27.3	17.0	0.6	—
40～70%未満	(n= 132)	56.1	61.4	48.5	48.5	58.3	47.0	40.9	29.5	18.9	0.8	—
40%未満・計	(n= 220)	60.5	49.5	51.8	46.4	39.5	45.0	38.6	25.9	15.9	0.5	—
高校 所在地別												
北海道	(n= 53)	47.2	52.8	52.8	50.9	49.1	45.3	37.7	39.6	22.6	—	—
東北	(n= 83)	55.4	47.0	41.0	50.6	39.8	45.8	31.3	19.3	10.8	1.2	1.2
北関東・甲信越	(n= 62)	64.5	48.4	66.1	51.6	53.2	48.4	48.4	21.0	24.2	—	—
南関東	(n= 126)	55.6	53.2	55.6	45.2	59.5	51.6	43.7	31.0	22.2	1.6	1.6
東海	(n= 67)	58.2	53.7	50.7	43.3	44.8	46.3	40.3	31.3	16.4	1.5	1.5
北陸	(n= 20)	55.0	55.0	60.0	40.0	55.0	50.0	50.0	30.0	20.0	—	5.0
関西	(n= 77)	62.3	48.1	59.7	48.1	44.2	41.6	36.4	23.4	24.7	—	—
中国・四国	(n= 78)	57.7	62.8	56.4	48.7	42.3	46.2	34.6	29.5	11.5	—	—
九州・沖縄	(n= 105)	65.7	61.9	50.5	51.4	44.8	47.6	41.9	31.4	15.2	1.0	—
「ICT」 活用状況												
活用	(n= 665)	58.8	53.8	54.1	48.3	48.3	47.4	40.0	28.6	18.5	0.8	0.5
学校全体・学年・課程・計	(n= 559)	59.9	54.9	54.9	48.8	49.7	47.8	40.3	29.9	18.2	0.5	0.5
学校全体で組織的に	(n= 478)	59.8	53.6	56.1	49.8	49.6	49.2	41.0	31.8	19.2	0.6	0.6
学年や課程・学科・コース・教科単位で	(n= 81)	60.5	63.0	48.1	43.2	50.6	39.5	35.8	18.5	12.3	—	—
教員個人で	(n= 106)	52.8	48.1	50.0	45.3	40.6	45.3	38.7	21.7	19.8	1.9	—
未活用	(n= 4)	50.0	100.0	50.0	75.0	25.0	25.0	25.0	—	—	—	—

※「その他」「無回答」を除く項目で、2024年全体の降順ソート

※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/○0.5pt以上低い

※グレー文字：サンプル数20未満のため参考値

Q23

9. GIGAスクール構想の進捗を踏まえたICT活用推進に向けての取り組み

- GIGAスクール構想の進捗を踏まえたICT活用推進に向けての取り組みは、「先生方の研修の強化（校内・校外）」が52%でトップ。
- 2022年と比較して、上位の項目に大きな変動はないが、「推進計画の立案と教員間での共有」「検討／推進プロジェクトの立ち上げ・任命」などの準備フェーズの取り組み項目のスコアが減少し、順位も下降している。
 - GIGAスクール構想の進捗を踏まえたICT活用の推進のために行っている取り組みや今後実施予定の取り組みについて尋ねたところ、「先生方の研修の強化（校内・校外）」（52%）がやや突出して高く、以下「デジタル教科書・教材の活用」（35%）、「専門家やICTコーディネーターによるサポートを導入」（20%）が続く。
 - 時系列でみると、上位項目で前回からスコアが増加したのは5位の「先進校への視察」のみで、他の項目は前回から低下している。特に経年でトップである「先生方の研修の強化（校内・校外）」は11ポイント低下している。また、「推進計画の立案と教員間での共有」は6ポイント、「検討／推進プロジェクトの立ち上げ・任命」は8ポイント低下し、準備フェーズの取り組みが減少している。

■GIGAスクール構想の進捗を踏まえたICT活用推進に向けての取り組み（全体／複数回答）

（%）

GIGAスクール構想の進捗を踏まえ、ICTの活用をさらに推進していくために、現在行われている取り組みや、今後実施予定の取り組みがございましたら教えてください。

	2024年 全体 (n= 671)	2022年 全体 (n= 943)	2021年 全体 (n=1,156)
先生方の研修の強化（校内・校外）	51.6 1位	62.9 1位	63.3 1位
デジタル教科書・教材の活用	35.3 2位	36.3 2位	27.8 4位
専門家やICTコーディネーターによるサポートを導入	19.7 3位	24.0 5位	17.9 5位
推進計画の立案と教員間での共有	18.9 4位	25.3 3位	31.0 3位
先進校への視察	18.0 5位	14.5 6位	17.4 6位
検討／推進プロジェクトの立ち上げ・任命	16.1 6位	24.2 4位	33.0 2位
地域社会や海外との連携、協力の強化	12.5 7位	10.6 9位	15.1 7位
生徒の巻き込み	11.3 8位	12.6 7位	13.8 8位
保護者との連携、協力の強化	11.3 8位	11.3 8位	11.5 9位
他の高校との連携、協力の強化	10.7 10位	8.0 10位	8.4 11位
教育委員会との連携、協力の強化	5.7 11位	6.4 11位	10.9 10位
その他	1.6	0.4	2.3
特になし	18.5	12.9	12.6
無回答	0.9	1.4	1.4

※「その他」「特になし」「無回答」を除く項目の、全体の降順ソート ※■第1位の項目 ■第2～5位の項目

Q24

- 設置者別にみると、私立は全体と比較して高めの項目が多く、特に「先進校への視察」「検討／推進プロジェクトの立ち上げ・任命」が高い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科は「推進計画の立案と教員間での共有」が全体を10ポイント以上上回る。専門学科は「デジタル教科書・教材の活用」「専門家やICTコーディネーターによるサポートを導入」が全体と比較して5ポイント以上高い。
- 大短進学率別にみると、進学率95%以上の高校は「先進校への視察」「検討／推進プロジェクトの立ち上げ・任命」「生徒の巻き込み」「他の高校との連携、協力の強化」が全体と比べて高い。
- 高校所在地別にみると、各項目でスコア差がみられるが、特に全体トップ項目である「先生方の研修の強化（校内・校外）」は差が顕著である。
- 「ICT」活用状況別にみると、学年や課程・学科・コース・教科単位で活用している高校や教員個人で活用している高校は全体と比較して低い項目が多い。

■GIGAスクール構想の進捗を踏まえたICT活用推進に向けての取り組み（全体／複数回答）

(%)

GIGAスクール構想の進捗を踏まえ、ICTの活用をさらに推進していくために、現在行われている取り組みや、今後実施予定の取り組みがございましたら教えてください。

	(n=)	先生方の研修強化	デジタル教科書・教材	ポータルサイト導入によるサポート	専門家の活用	間での共有	推進計画の立案と教員	先進校への視察	検討／推進プロジェクトの立ち上げ・任命	地域協会の強化	生徒の巻き込み	保護者との連携、協力	他の高校との連携、協力	協会の強化	その他	特になし	無回答
2024年 全体	(n= 671)	51.6	35.3	19.7	18.9	18.0	16.1	12.5	11.3	11.3	10.7	5.7	1.6	18.5	0.9		
設置者別																	
国公立	(n= 473)	51.2	34.9	20.7	18.0	15.0	12.7	11.2	10.1	10.8	10.8	7.6	0.6	17.8	0.6		
私立	(n= 198)	52.5	36.4	17.2	21.2	25.3	24.2	15.7	14.1	12.6	10.6	1.0	4.0	20.2	1.5		
高校タイプ別																	
普通科	(n= 513)	51.3	34.9	18.5	18.3	20.9	17.3	13.8	11.9	11.9	11.9	5.8	1.8	19.1	0.8		
総合学科	(n= 38)	55.3	28.9	15.8	31.6	7.9	15.8	2.6	13.2	5.3	5.3	5.3	2.6	18.4	2.6		
専門学科	(n= 91)	48.4	40.7	28.6	16.5	8.8	9.9	7.7	9.9	7.7	7.7	6.6	1.1	15.4	1.1		
大短進学率別																	
70%以上・計	(n= 319)	48.9	35.4	18.8	21.0	20.1	20.4	14.1	13.2	12.9	14.1	6.0	2.8	19.1	1.6		
95%以上	(n= 116)	45.7	37.9	13.8	22.4	24.1	24.1	16.4	19.0	13.8	18.1	4.3	6.9	13.8	2.6		
70%～95%未満	(n= 203)	50.7	34.0	21.7	20.2	17.7	18.2	12.8	9.9	12.3	11.8	6.9	0.5	22.2	1.0		
70%未満・計	(n= 352)	54.0	35.2	20.5	17.0	16.2	12.2	11.1	9.7	9.9	7.7	5.4	0.6	17.9	0.3		
40%～70%未満	(n= 132)	57.6	38.6	18.9	16.7	18.2	15.2	11.4	8.3	10.6	6.8	6.1	0.8	18.9	—		
40%未満・計	(n= 220)	51.8	33.2	21.4	17.3	15.0	10.5	10.9	10.5	9.5	8.2	5.0	0.5	17.3	0.5		
高校所在地別																	
北海道	(n= 53)	60.4	37.7	11.3	18.9	18.9	9.4	15.1	11.3	17.0	13.2	5.7	—	20.8	—		
東北	(n= 83)	54.2	38.6	19.3	21.7	21.7	16.9	18.1	6.0	10.8	12.0	7.2	—	10.8	1.2		
北関東・甲信越	(n= 62)	62.9	32.3	33.9	25.8	22.6	12.9	8.1	6.5	17.7	19.4	4.8	—	17.7	—		
南関東	(n= 126)	41.3	32.5	15.1	19.8	15.1	21.4	14.3	13.5	13.5	8.7	2.4	2.4	23.8	2.4		
東海	(n= 67)	44.8	25.4	16.4	17.9	14.9	13.4	9.0	19.4	9.0	9.0	6.0	4.5	26.9	1.5		
北陸	(n= 20)	65.0	50.0	35.0	25.0	25.0	30.0	15.0	10.0	5.0	5.0	5.0	—	10.0	—		
関西	(n= 77)	41.6	33.8	13.0	14.3	7.8	14.3	10.4	9.1	7.8	14.3	3.9	5.2	23.4	—		
中国・四国	(n= 78)	46.2	38.5	16.7	16.7	16.7	16.7	9.0	12.8	6.4	5.1	3.8	—	23.1	—		
九州・沖縄	(n= 105)	63.8	39.0	27.6	16.2	24.8	14.3	13.3	11.4	11.4	9.5	11.4	1.0	6.7	1.0		
「ICT」活用状況																	
活用	(n= 665)	51.7	35.3	19.7	18.8	17.9	15.9	12.6	11.3	11.4	10.8	5.7	1.7	18.2	0.8		
活用状況																	
学校全体・学年・課程・計	(n= 559)	53.0	37.0	19.7	20.2	18.2	16.8	14.1	12.3	12.3	11.6	6.3	1.6	17.2	0.9		
学校全体で組織的に	(n= 478)	53.6	38.9	18.8	20.9	18.8	17.2	15.1	12.8	12.3	12.1	6.3	1.3	16.5	0.8		
学年や課程・学科・コース・教科単位で	(n= 81)	49.4	25.9	24.7	16.0	14.8	14.8	8.6	9.9	12.3	8.6	6.2	3.7	21.0	1.2		
教員個人で	(n= 106)	45.3	26.4	19.8	11.3	16.0	11.3	4.7	5.7	6.6	6.6	2.8	1.9	23.6	—		
未活用	(n= 4)	25.0	25.0	—	25.0	25.0	25.0	—	—	—	—	—	—	75.0	—		

※「その他」「特になし」「無回答」を除く項目の、全体の降順ソート ※全体値と比較して ■全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/0.0-5pt以上低い ※グレー文字：サンプル数20未満のため参考値

1. 学校内の業務における「生成AI」の活用状況

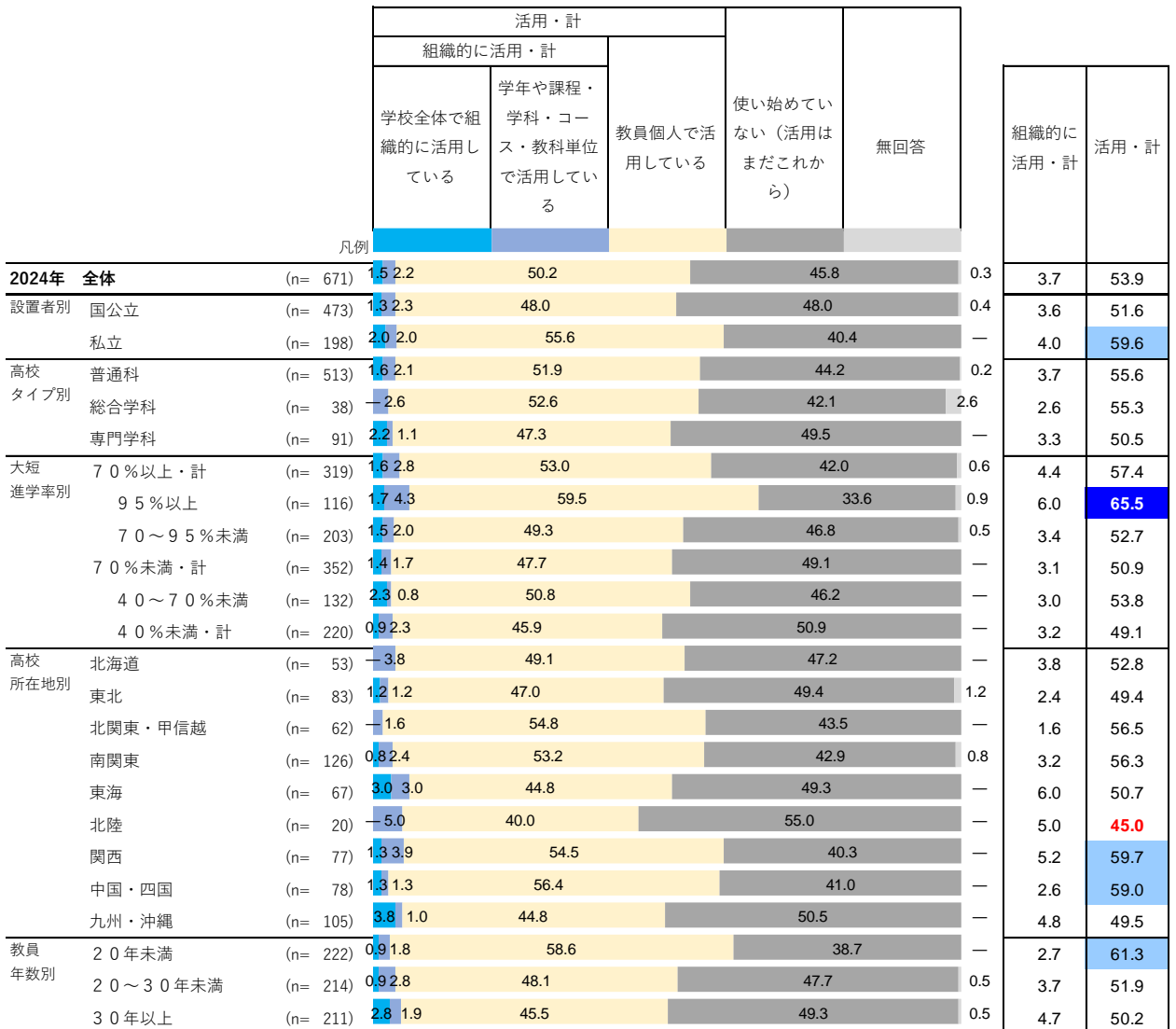
- 学校内の業務における「生成AI」の活用状況は、全体では「教員個人で活用している」（50%）と「使い始めていない（活用はまだこれから）」（46%）の回答に二分される。組織と教員個人活用を合わせた「活用・計」は54%で過半数となる。

- 設置者別にみると、私立で「教員個人で活用している」が56%と高く、「活用・計」でも私立が60%と国公立の52%を上回る。
- 高校タイプ別にみると、専門学科での活用状況が普通科、総合学科と比較してやや低い。
- 大短進学率別にみると、進学率95%以上の高校は「教員個人で活用している」が60%と高く、「活用・計」も66%と高い。進学率が高い高校ほど活用状況が高い傾向である。
- 高校所在地別にみると、関西と中国・四国は「活用・計」が他地域と比べて高い。
- 教員年数別でみると、教員歴が浅い20年未満の先生で「教員個人で活用している」が59%と高く、20年以上の先生と差がみられる。

■学校内での業務における「生成AI」の活用状況（全体／単一回答）

（%）

貴校において、授業や校務など学校内での業務で先生方は「生成AI」を活用していますか。



※全体値と比較して ■ +10pt以上高い / ■ +5pt以上高い / ■ 0.0-5pt以上低い

Q25

2. 「生成AI」の活用場面

- 「生成AI」の活用場面のトップは「授業教材やテスト問題の作成」（43%）。
- 以下「挨拶文や保護者向けお知らせ文書の作成」（33%）、「課題の採点や添削」（25%）。

■ 「生成AI」の活用場面（「生成AI」活用校／複数回答） (%)

生成AIを「活用している」と回答した方にお尋ねします。どのような場面で活用していますか。

	2024年 全体 (n= 362)	
授業教材やテスト問題の作成		42.8
挨拶文や保護者向けお知らせ文書の作成		33.4
課題の採点や添削		24.6
総合的な探究の時間などの調べ学習		20.7
進路指導		19.6
生成AIについてや使い方を学ぶ授業の実施		15.5
面接対策（模擬面接）		13.8
その他		7.7
無回答		1.4

※「その他」「無回答」を除く項目で、全体の降順ソート

Q26

- 設置者別にみると、私立で「挨拶文や保護者向けお知らせ文書の作成」が全体よりも9ポイント高く、順位も1位となっている。
- 高校タイプ別にみると、専門学科で「総合的な探究の時間などの調べ学習」が全体を8ポイント上回って高い。
- 大短進学率別にみると、進学率70～95%未満の高校と40～70%未満の高校で「面接対策（模擬面接）」の利用割合が高い。また、進学率70～95%未満の高校は「挨拶文や保護者向けお知らせ文書の作成」での利用も高い。
- 高校所在地別にみると、地域によって利用場面に差があり、北海道、南関東で「授業教材やテスト問題の作成」、北関東・甲信越で「進路指導」、東海で「生成AIについてや使い方を学ぶ授業の実施」が全体を10ポイント以上上回る。
- 教員年数別にみると、「生成AIについてや使い方を学ぶ授業の実施」は教員年数が少ない先生ほどスコアが高い傾向にある。

■「生成AI」の活用場面（「生成AI」活用校／複数回答）

（%）

生成AIを「活用している」と回答した方にお尋ねします。どのような場面で活用していますか。

		ト	書	削	学	総	進	ぶ	面	そ	無
		問	向	課	習	合	路	て	面	の	回
		業	け	題	間	的	指	授	接	他	答
		題	お	の	な	な	導	業	対		
		教	文	探	の	の		使	策		
		材	や	点	探	探		方	（		
		や	ら	や	究	究		を	模		
		成	保	添	べ	べ		学	擬		
		テ	護					い			
		ス	者								
2024年	全体	(n= 362)	42.8	33.4	24.6	20.7	19.6	15.5	13.8	7.7	1.4
設置者別	国公立	(n= 244)	45.1	29.1	25.0	20.9	18.9	14.3	12.3	7.8	2.0
	私立	(n= 118)	38.1	42.4	23.7	20.3	21.2	17.8	16.9	7.6	—
高校タイプ別	普通科	(n= 285)	43.5	35.1	25.6	19.6	21.1	15.1	15.1	7.7	1.1
	総合学科	(n= 21)	33.3	23.8	19.0	23.8	23.8	23.8	9.5	9.5	4.8
	専門学科	(n= 46)	41.3	28.3	17.4	28.3	13.0	17.4	8.7	8.7	—
大短進学率別	70%以上・計	(n= 183)	43.7	36.1	25.7	22.4	19.1	13.7	13.7	5.5	1.6
	95%以上	(n= 76)	44.7	31.6	28.9	22.4	11.8	14.5	5.3	9.2	2.6
	70～95%未満	(n= 107)	43.0	39.3	23.4	22.4	24.3	13.1	19.6	2.8	0.9
	70%未満・計	(n= 179)	41.9	30.7	23.5	19.0	20.1	17.3	14.0	10.1	1.1
	40～70%未満	(n= 71)	42.3	26.8	25.4	12.7	16.9	16.9	21.1	12.7	2.8
	40%未満・計	(n= 108)	41.7	33.3	22.2	23.1	22.2	17.6	9.3	8.3	—
高校所在地別	北海道	(n= 28)	60.7	25.0	32.1	25.0	14.3	17.9	7.1	7.1	—
	東北	(n= 41)	26.8	36.6	29.3	14.6	24.4	12.2	9.8	7.3	—
	北関東・甲信越	(n= 35)	40.0	37.1	20.0	25.7	34.3	14.3	8.6	8.6	2.9
	南関東	(n= 71)	54.9	42.3	29.6	16.9	12.7	18.3	15.5	2.8	—
	東海	(n= 34)	38.2	32.4	23.5	23.5	14.7	29.4	11.8	5.9	—
	北陸	(n= 9)	33.3	11.1	22.2	33.3	44.4	—	44.4	11.1	—
	関西	(n= 46)	34.8	34.8	21.7	19.6	10.9	6.5	10.9	8.7	4.3
	中国・四国	(n= 46)	47.8	26.1	19.6	13.0	21.7	10.9	19.6	15.2	—
	九州・沖縄	(n= 52)	38.5	30.8	21.2	28.8	23.1	19.2	15.4	7.7	3.8
教員年数別	20年未満	(n= 136)	44.9	36.8	24.3	15.4	19.1	21.3	16.9	8.1	—
	20～30年未満	(n= 111)	41.4	32.4	25.2	27.9	20.7	13.5	14.4	7.2	1.8
	30年以上	(n= 106)	42.5	30.2	23.6	21.7	20.8	10.4	9.4	8.5	1.9

※「その他」「無回答」を除く項目で、全体の降順ソート

※全体値と比較して ■+10pt以上高い／■+5pt以上高い／■0.0-5pt以上低い

※グレー文字：サンプル数20未満のため参考値

Q26

<フリーアンサー>「AI」の出現への期待

<業務効率化>

- **事務作業やルーティーン業務を効率的に行える**
 - ・ルーティーン作業の効率化を期待したい。[北海道/道立/普通科]
 - ・採点業務の軽減、定型文書の作成・送付など事務手続きを自動で行える部分の業務負担軽減、電話対応[群馬/県立/普通科]
 - ・事務処理やデータ管理など、AIを使って自動化できるようになってほしいです。[大阪/府立/普通科と他学科併設]
 - ・仕事の負担の軽減（議事録など）、誤字や言葉の間違いのチェックなど[香川/県立/普通科]
- **テンプレート的な文書の効率的な作成**
 - ・総合型選抜あるいは学校推薦型選抜における推薦書、志望理由書などの出願書類の簡略化を期待します。もはやそのような書類に何の意味もなくなってくると思います。[大分/県立/普通科]
 - ・テンプレート的な文書や議事録などの作成でAIを利用することで、事務作業の効率化が進むこと[静岡/私立/普通科と他学科併設]
 - ・文書作成や採点業務など、校務の軽減の一助となること。しかし、現在では不十分。[北海道/道立/普通科]
- **事務的作業の効率化により本来業務に充てられる時間が確保できる**
 - ・業務の効率化や時間短縮、新しい学び方や学ぶ内容が出てくること。[広島/私立/普通科]
 - ・事務作業などの効率化個別最適な学習への活用や授業での演習における活用[山梨/県立/普通科]
 - ・業務が一割ぐらいいなくなり、本来の勤務時間で全てが終わるようになる。[徳島/県立/普通科]
 - ・問題作成や採点に有効利用できるなど、教員の業務削減の一助となること[鳥取/県立/普通科]
 - ・AIが活用可能な各業務への自治体レベルでの一括導入。また、導入による効率化。[富山/県立/専門学科]
 - ・職員の単純労働が減少し、生徒と向き合う時間が増えること[鹿児島/私立/普通科]
 - ・長い時間がかかっていた作業を短時間で終わらせてくれるようになれば、浮いた時間を創造的な作業に回せる。しかし、現在は教員のコピペが増え、画一的な授業が増えるだけだろう。[東京/県立/普通科]
- **課題作成や採点など、複雑で難易度の高い業務全般の支援**
 - ・教員の負担を減らせるような課題作成・見えないものを具体的に画像化することによる授業支援・集計分析の簡素化[埼玉/県立/普通科]
 - ・文書等の作成、チェック・英会話等による英語力、コミュニケーション能力の向上・教科の小テスト作成、〇付け[青森/県立/普通科]
 - ・テストの採点における「解答の揺れ」の部分で正誤を判断できるようになれば、特に国語等での採点時間の大幅短縮、教員の負担軽減につながる。[石川/県立/その他]

<生徒の学習支援>

- **生徒の学習の広がりに関与**
 - ・いろいろなアイデアを実現しやすくなる。言語化が難しい生徒がAIを活用し、自分の表現力などを補完していくこと。[神奈川/私立/普通科]
 - ・生徒が自分だけでは思いつかない考え方をAIによって発見することができるなど、思考力が深まることが期待される。[兵庫/私立/普通科]
 - ・生徒にとっては、特定の技能（イラストやプログラミング、文章作成など）がなければ、表現できなかったことが表現できるようになり、活動の幅が広がる。教員にとっては、教材作成や文章作成などの活用を期待する。[大阪/府立/専門学科]
 - ・抽象的な表現になりますが、授業の幅を広げ、より楽しく、深く、主体的に生徒が学習に取り組めるようになったらと思う。[東京/私立/普通科]
- **生徒の学びの個別最適化に関与**
 - ・単純な問題演習をさせたり、文章作成のヒントを得たりなど、教員が多忙であるときの、生徒の自学自習の手助けにはなりそうである。[兵庫/私立/普通科]
 - ・AIによる生徒への個別対応により、学習理解度の底上げが期待できる。[東京/私立/普通科]
 - ・生徒にとって個別最適な学習。知識を活用する場面が確実に増加すること。[神奈川/私立/普通科]
 - ・「AI」は人間の思考力を補助することが主機能だと思います。個別最適な学習を実践するうえで、人間では気づくことのできない生徒の課題や傾向を分析し、最適な学習方法を設定できれば良いと思います。[愛知/県立/専門学科]
 - ・うまく活用することにより、生徒の学びの個別最適化に繋がりたい[鹿児島/県立/普通科]

<フリーアンサー> 「AI」の出現による今後の影響や不安

■ AI依存による思考力や創造力、主体性の低下

- 生徒の思考力が伸びない、身につかない状況になる事。現在でもチャットGPT無料版ですら、かなりあいまいな問に対してそれらしく見える解答が出てくる中で、その真偽を確かめるスキルを持たない教員、生徒が多いのが現状であるため。家庭環境により学習格差が広がる事(ネット環境が整っているご家庭ばかりではない)。[埼玉/県立/普通科]
- 頼りすぎるがあまり、考える力、知識の蓄積等、人間としての力が減退すること。一方向に誘導するようなAIの出現(AI作成側の意図による)。情報の誘導。[青森/私立/普通科と他学科併設]
- 生徒の知識習得が不十分になり、結果として思考力・判断力が育たなくなることを不安に思います。また簡単に答えを得られるようになり、粘り強く努力を継続する資質も失われていくと心配しております。[大分/県立/普通科]
- 生徒が自宅課題等で生成AIを過剰に使うことにより、クリエイティブな課題に取りくませにくくなるのではないかと危惧しています。[滋賀/県立/普通科]
- 「知識・技能」の必要性を生徒が感じなくなることが不安。また、それにより、生徒の思考力・判断力・表現力が伸長されないことが不安。主体的な学びからの後退が不安。[東京/私立/普通科]
- 生徒が「自分で考える」必要性を見出せなくなること自作なのかAIの作なのか、見分けがつけられるか[岐阜/県立/普通科]
- 思考の画一化粘り強い努力の欠如安易に正解を求める姿勢[静岡/県立/普通科と他学科併設]

■ 学習のためのスキルや、学力そのものの低下

- 学習活動における学力の低下が懸念されるかと思えます。たとえば辞書のひきかたなど、簡単に知らないことを今はAIの機能でしることができるので。[長野/私立/普通科]
- 生徒が自らの頭で考え、表現する機会の減少と、それによる能力の低下。[北海道/市立/普通科と他学科併設]
- 生徒が文章を1から作成する力や、計算する力、読む力というものが、さらに低下することを危惧する[北海道/道立/普通科]

■ 課題や志望理由書などの作成に利用された場合の判定の難しさ

- データの信頼性が不安。AIによって導き出されたもの(作られたもの)だと、人間が気づかない場合があることへの不安。生成AIにより加工された、現実や実物でないものに価値があると言えるのかという疑問。[高知/県立/専門学科]
- 正しく信憑性のある情報[沖縄/私立/普通科]
- レポートをコピーアンドペースト。生徒が間違った情報を鵜呑みにする。[京都/府立/総合学科]
- 生徒が大学への提出書類にAIを活用した場合の、AIが書いた誤った記載内容をそのまま大学に提出してしまうこと。[埼玉/私立/普通科]
- 読書感想文など生徒に書かせたものについて、AIによって書かれたのか自分で書いたのかを区別する方法がわからない。AIに任せて、思考しない生徒が出てくるのではないかという不安がある。[静岡/県立/普通科と他学科併設]
- 評価物が真に生徒が創造したものなのか、判断しにくくなること。[愛知/私立/普通科と他学科併設]
- レポート等において全てを生成AIから引用すること、また引用したものに対する教員側の判断(自力でやったのか、転用したかの判断の苦慮)。[沖縄/私立/普通科]

■ 志望理由書などの内容の画一化

- 生成AIの文章に頼り切ってしまう、それを信じて疑わず、考えや表現が固定化してしまうこと。また、独自性が失われること。[岐阜/県立/総合学科]
- 志望理由書等がどれも同じようなものになってしまい、合否の判断材料として機能しなくなってしまうこと[新潟/私立/普通科]
- 志望理由書などへの利用による画一化[茨城/県立/普通科]
- 生徒が提出する課題の独自性の判断。AIによる発想の平均化が懸念される。[宮城/県立/普通科と他学科併設]

■ 教員のITスキルの不足や教員間の格差

- 教員のIT活用力の差による、教員のモチベーション維持が危ぶまれること。[三重/県立/普通科]
- AIに任せた場合のミス等を教員が見つめることができるか、またその作業の負担増[秋田/県立/普通科と他学科併設]
- 教師自身が活用できる知識やスキルが不足していること[福岡/県立/普通科と他学科併設]
- 技術の進歩に教育が追いついていけないのか不安[福島/私立/普通科]
- 生徒および職員のAIの活用能力・リテラシー[熊本/県立/普通科と他学科併設]

■ AI活用の適切な指導法の試行錯誤

- AIを使うべき場面と使うべきでない場面の取捨選択。便利に使用し、道具として活用するべき。[福岡/県立/普通科]
- 活用に関するルール作りと教員の対応力[鳥取/県立/普通科]
- 家庭学習における課題を工夫しないといけないこと。AI活用を前提として課題を設定する必要がある[東京/県立/普通科]

■ AIによる個人情報流出のリスク

- 個人情報の取り扱いがブラックボックスになるのではないかという不安[静岡/私立/普通科]
- 使い方として指導するが、個人情報を入力してその情報を学習(AI)に利用される可能性がある。[宮崎/県立/専門学科]
- 著作権の権利侵害、個人情報の流出など[東京/私立/普通科]
- 気がつかない間に個人情報が抜きとられていること[愛知/県立/普通科]

1. 令和5年度の受験者応募状況

■ 令和5年度は45%の学校が「定員割れだった」。

■ 令和3年度と変化はない。

- 設置者別にみると、国公立は「定員割れだった」が私立と比較して8ポイント高い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科と専門学科の6割以上が「定員割れだった」と回答している。
- 大短進学率別にみると、進学率が低い高校ほど「定員割れだった」のスコアが高く、進学率40%未満の高校では8割弱が「定員割れだった」と回答している。
- 高校所在地別にみると、いわゆる三大都市圏では「定員割れだった」のスコアが低く、地方圏で高い。

■ 令和5年度の受験者応募状況（全体／単一回答）

（%）

貴校の受験者数について、令和5年度の応募状況を教えてください。

※2022年調査では「令和3年度」の応募状況を尋ねた

		定員充足だった	定員割れだった	わからない	無回答
凡例					
2024年 全体	(n= 671)	52.0	45.0	2.4	0.6
2022年 全体	(n= 943)	52.0	45.3	2.2	0.5
設置者別					
国公立	(n= 473)	51.8	47.4	0.6	0.2
私立	(n= 198)	52.5	39.4	6.6	1.5
高校タイプ別					
普通科	(n= 513)	56.7	39.8	2.9	0.6
総合学科	(n= 38)	34.2	63.2	—	2.6
専門学科	(n= 91)	33.0	65.9	1.1	—
大短進学率別					
70%以上・計	(n= 319)	70.8	25.4	2.8	0.9
95%以上	(n= 116)	82.8	13.8	1.7	1.7
70%～95%未満	(n= 203)	64.0	32.0	3.4	0.5
70%未満・計	(n= 352)	34.9	62.8	2.0	0.3
40%～70%未満	(n= 132)	56.1	39.4	3.8	0.8
40%未満・計	(n= 220)	22.3	76.8	0.9	—
高校所在地別					
北海道	(n= 53)	32.1	67.9	—	—
東北	(n= 83)	36.1	63.9	—	—
北関東・甲信越	(n= 62)	56.5	38.7	3.2	1.6
南関東	(n= 126)	74.6	22.2	1.6	1.6
東海	(n= 67)	55.2	41.8	3.0	—
北陸	(n= 20)	25.0	70.0	5.0	—
関西	(n= 77)	63.6	32.5	2.6	1.3
中国・四国	(n= 78)	42.3	52.6	5.1	—
九州・沖縄	(n= 105)	46.7	50.5	2.9	—

Q29

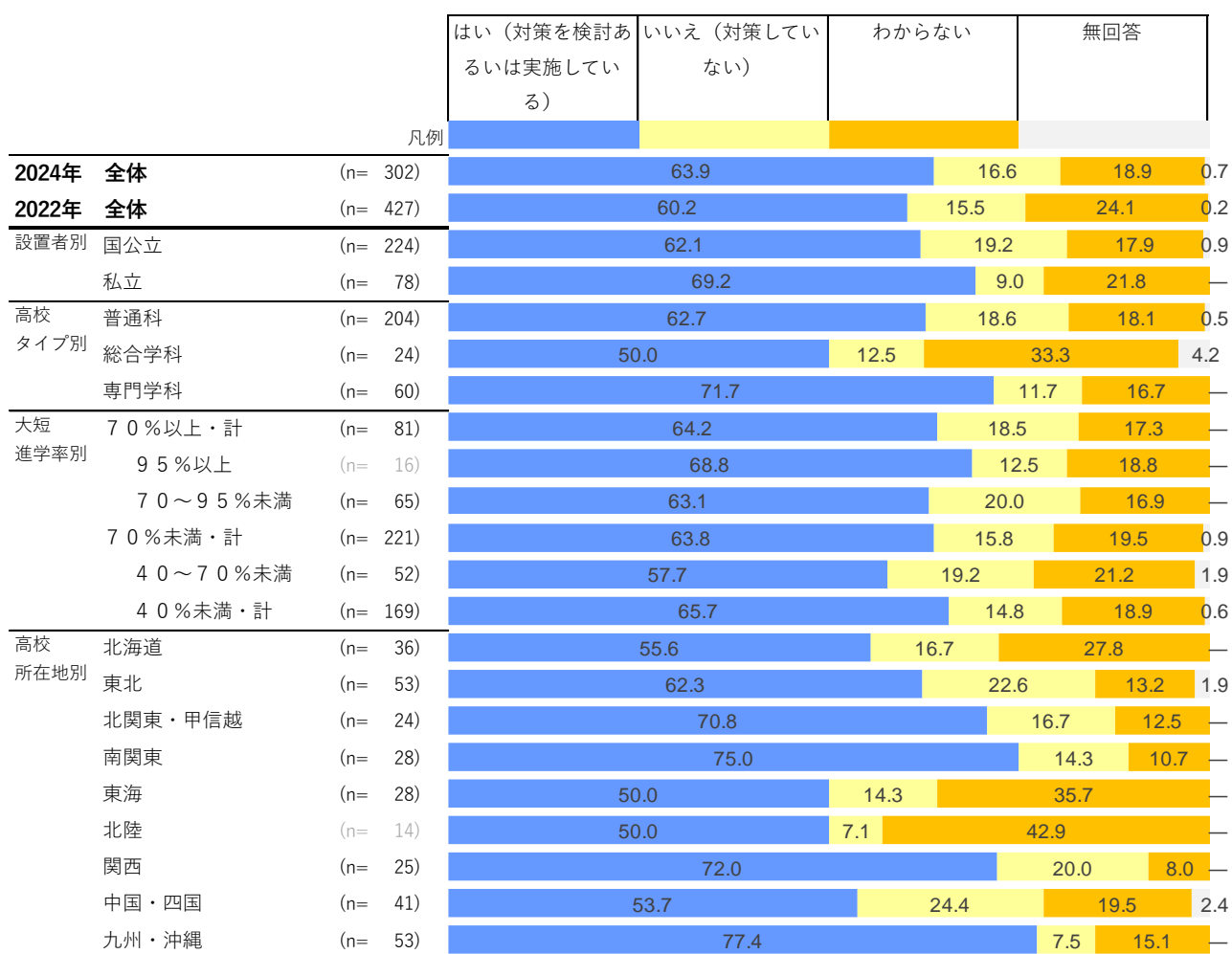
2. 定員割れに対する対策の検討・実施状況

■ 定員割れに対して、6割以上が対策を検討あるいは実施しており2022年と比較して4ポイント増加している。

- 設置者別にみると、私立は「はい（対策を検討あるいは実施している）」が国公立と比較して高い。
- 高校タイプ別にみると、専門学科で「はい（対策を検討あるいは実施している）」が7割を超えて高い。一方、総合学科は「はい（対策を検討あるいは実施している）」が低く、「わからない」と回答した高校が3割以上を占める。
- 高校所在地別にみると、東北、関西、中国・四国で「いいえ（対策していない）」が2割を超えて全体と比較して高い。

■ 定員割れに対する対策の検討・実施状況（令和3年度応募状況が「定員割れ」の高校／単一回答）

「定員割れだった」を選択した方にお尋ねします。「定員割れ」に対して、何か対策を検討あるいは実施していますか。



※グレー文字：サンプル数20未満のため参考値

Q30

<フリーアンサー> 定員割れに対する対策の具体的な内容

■ 中学校への働きかけ

● 大短進学率70%以上

- ・医療系を目指す生徒に対して、特別な取り組みを行うことになり、それを中学校にも積極的にPRしている。[静岡/県立/普通科と他学科併設]
- ・学校説明会や部活動体験会など、中学生に対する広報活動の更なる充実[山形/私立/普通科]
- ・中高一貫教育の設置、文部科学省SSH指定、海外研修・海外大学進学等グローバル教育の推進、探究型授業の展開等、特色ある教育活動を実践し、10年以上定員割れを阻止するために尽力してきたものの、負のスパイラルから脱却できない状態が蔓延している印象である。地道であるものの、近隣中学、小学校、塾等への丁寧な説明の機会の充実を図っている[熊本/県立/普通科]

● 大短進学率70%未満

- ・校長による中学校訪問や、大学・専門学校との連携プログラムなど、魅力的な取り組みを増加[千葉/県立/普通科と他学科併設]
- ・地域みらい留学への参加、中学校訪問を強化して中学生に本校の教育活動を理解してもらう活動への取り組み。[北海道/道立/総合学科]
- ・募集枠の拡大。中学校への訪問。[宮崎/県立/専門学科]

■ イベント・広報活動

● 大短進学率70%以上

- ・オープンスクールの見直し中学生へのアピール方法の工夫・オンラインの積極的活用[山梨/県立/普通科]
- ・オープンスクール、学校説明会、ラジオへの出演など[愛媛/県立/普通科]
- ・説明会や見学会、校内イベントの実施時期、回数、内容を検討して充実させる。[兵庫/私立/普通科]

● 大短進学率70%未満

- ・学内の授業改革オープンスクールでの丁寧な説明[滋賀/私立/普通科と他学科併設]
- ・中学校訪問（中学校の教師に対して学校説明）、中学生対象オープンスクール実施[京都/府立/総合学科]
- ・地域未来留学への参加、数回のオープンスクール実施、HP等の情報発信[島根/県立/専門学科]

■ 教育の充実

● 大短進学率70%以上

- ・共学化、新コース設置[福岡/私立/普通科]
- ・国際協力探究クラスを設置[茨城/私立/普通科]
- ・入試制度改革、コース制の一部見直し[山口/私立/普通科]

● 大短進学率70%未満

- ・オープンハイスクール等で学科の特徴を周知する。[兵庫/県立/その他]
- ・学科の再編[鹿児島/市立/専門学科]
- ・地域みらい留学[新潟/県立/普通科]

■ クチコミ・SNSでの広報の強化

● 大短進学率70%以上

- ・SNSの活用、ホームページの刷新[東京/私立/普通科]
- ・中学校教員との情報交換、中学生への情報発信[愛知/県立/普通科]

● 大短進学率70%未満

- ・地域イベントに参加、体験見学会、ものづくり教室の開催、学校HPや新聞にて情報の発信。[北海道/道立/専門学科]
- ・クチコミによるものが大きいという分析であるため、在校生・卒業生の弟妹に対して来校を促す機会を増やしている。また、丹後管内の中学生の人口がどんどん減少していくため、外部からの入学生をより獲得する必要があるため、SNS等を活用して学校の広報活動に力を入れている。[京都/私立/普通科]

進路検討における「オープンキャンパス」参加について

1. 進路検討における「オープンキャンパス」参加の推奨度

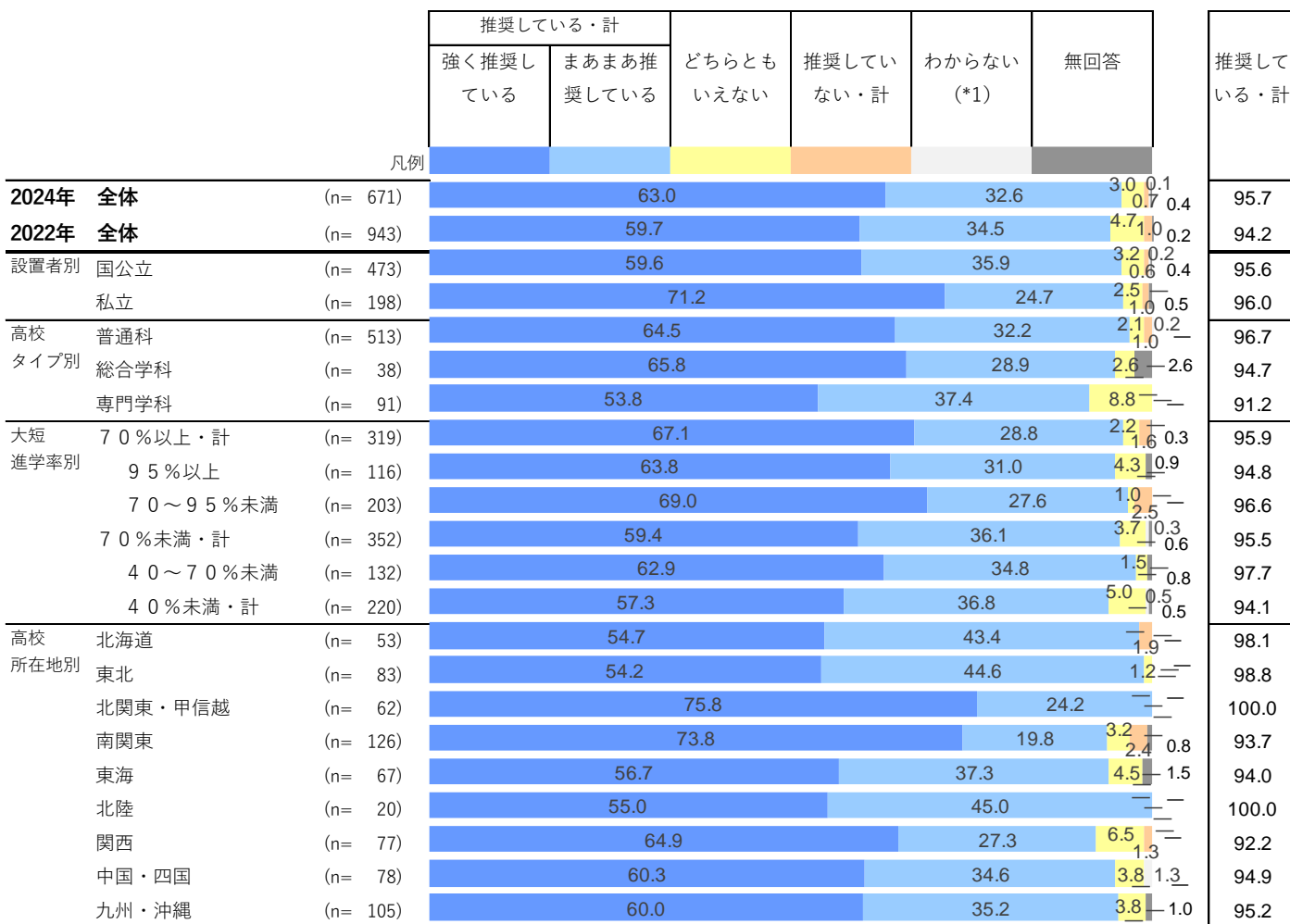
■ 進路検討における「オープンキャンパス」参加の推奨度は、96%の学校が「参加」を推奨、「強く推奨している」も6割を超える。2022年と比較して大きな変化なし。

- 設置者別にみると、私立は「強く推奨している」が71%で国公立と比較して高い。
- 高校タイプ別にみると、専門学科で「強く推奨している」が54%と低い。
- 大短進学率別にみると、「推奨している・計」に大きな差はみられないが、「強く推奨している」割合は、進学率が高い高校ほど高くなる傾向である。
- 高校所在地別にみると、北関東・甲信越、南関東で「強く推奨している」が7割を超えて高い。

■進路検討における「オープンキャンパス」参加の推奨度

(%)

進路検討に関して、オープンキャンパスの参加について、生徒への推奨度を教えてください。



※全体値と比較して +10pt以上高い / +5pt以上高い / 0.0-5pt以上低い

※*1: 「わからない」は2024年から選択肢を追加

Q32

2. 進路検討における「オープンキャンパス」参加の推奨理由

■ オープンキャンパスを推奨する理由は「入学後のミスマッチの防止・齟齬の解消」がトップ。

- オープンキャンパスを推奨する理由を自由回答で尋ね、内容を分類し集計した（実際の自由回答は次ページ参照）。
- 全体では、【進路の検討】と【志望校のイメージ・理解形成】を理由とする意見が多い。【進路の検討】では「入学後のミスマッチの防止・齟齬の解消」が20%で全体トップ、以下、【志望校のイメージ・理解形成】の「雰囲気を知り具体的なイメージを形成するため」と「生徒自身の目で確かめる機会だから、直接見ないとわからないから」がそれぞれ16%で続く。
- 2022年と比較して、「入学後のミスマッチの防止・齟齬の解消」が3位から1位となり、前回1位の「雰囲気を知り具体的なイメージを形成するため」は8ポイント減少して2位、「生徒自身の目で確かめる機会だから、直接見ないとわからないから」は6位から2位と上昇した。前回2位の【意欲喚起】「志望校への意欲、モチベーションの維持向上のため」は10ポイントと大きく減少し、4位となった。
- 非推奨の高校は全体の1%と少ないが、理由としては以下のような意見が挙げられた。
 - ・「オーキャンは広報活動であるため、長所を誇張し、短所を徹底的に隠すのが宿命。そのようなイベントに参加させる効果は、どうしてもあの大学に入りたいという動機が強まることだが、それは諸刃の剣である。」[大短進学率70～95%未満/東京都/都立/普通科]
 - ・「オープンキャンパスでは、どの大学も良い面しか見せない。何校も行くのであれば、多少比較できるかもしれないが、1校しか行かない場合、いい意味でも悪い意味でもその大学が「良く」見えてしまうので、本質的なところを考慮せずに進路決定（大学決定）をしてしまう恐れがあるから」[大短進学率70～95%未満/兵庫県/県立/普通科]
 - ・「一部私大では人集めのための、良い情報やキラキラした部分だけしか伝えられないから。」[大短進学率70～95%未満/北海道/道立]

■ オープンキャンパスの推奨理由（オープンキャンパス参加を推奨している高校のうち、自由回答のあった高校/自由回答）

（%）

（強く推奨している、まあまあ推奨している）を選択した方にお尋ねします。オープンキャンパス参加について推奨する理由について教えてください。

※自由回答をコーディング集計した

		2024年 全体 (n= 621)		2022年 全体 (n= 860)	
進路の検討	入学後のミスマッチの防止・齟齬の解消	20.3	1位	19.9	3位
	生徒自身が志望校や進路を選択・決定するのに役立てるため	10.0	5位	15.8	4位
	比較検討のため	3.4	7位	4.3	8位
	自分で進路を考えさせる・調べさせるため	3.4	7位	4.3	8位
	視野が広がる・選択肢を増やす	1.8	12位	1.2	15位
意欲喚起	志望校への意欲・モチベーション維持・向上のため	11.8	4位	21.7	2位
	学問への興味喚起のため	2.4	10位	1.7	13位
志望校のイメージ・理解形成	雰囲気を知り具体的なイメージを形成するため	15.8	2位	23.3	1位
	志望校への理解を深めるため	15.8	2位	13.3	6位
	生徒自身の目で確かめられる機会だから・直接見ないとわからないから	5.6	6位	13.4	5位
	入試方法・学費・立地条件・通学事情など具体的な条件を確認するため	1.9	11位	5.0	7位
	直接説明を聞ける・質問できる機会だから	1.8	12位	3.6	10位
受験対策	面接など入試で役立てるため	1.3	14位	3.3	11位
	OC参加が必・推奨する大学があるため	0.6	15位	2.9	12位
	次年度の生徒募集につながるため	—	17位	0.2	16位
世相	キャリア授業のため	0.6	15位	*	
	受験早期化に備えて経験を積む、経験値を高めるため	2.6	9位	*	
	コロナ禍のため	—	17位	1.3	14位
	特になし	1.0		0.6	

※カテゴリーごとに全体値の降順ソート ※■第1位の項目 ■第2～5位の項目

※「*」は該当項目なし

Q32SQ1

<フリーアンサー> 「オープンキャンパス」を推奨する理由

■ 入学後のミスマッチの防止・齟齬の解消

- **大短進学率70%以上**
 - ・生徒の進路選択の材料となり、ミスマッチを防ぐため。大学受験へのモチベーションアップのため。[京都/私立/普通科]
 - ・ミスマッチをなくすため学習意欲の喚起のため[岐阜/県立/普通科]
 - ・大学のことをあまりに知らなさすぎる。受験直前で志望校の変更をおこなったり、入学後にミスマッチに気づいたりする生徒が増えたため。[大分/県立/普通科]

● 大短進学率70%未満

- ・中退などを極力減らすため、現場に行き、その地域で暮らし続けられるか、学校の設備に不備はないか、教員は話せそうか、学生の印象はどうかを、確かめてほしいから。[北海道/道立/普通科]
- ・ミスマッチを減らす、志望の動機を考える材料にする。[北海道/道立/専門学科]
- ・入学後の生活をイメージさせるミスマッチの予防[鹿児島/県立/普通科と他学科併設]

■ 志望校への意欲・モチベーションの維持・向上

- **大短進学率70%以上**
 - ・大学進学への意欲喚起。大学教員、職員、学生など「大人」とコミュニケーションをとる練習の場として。[北海道/私立/普通科]
 - ・実際に大学の雰囲気を感じることで、進路選択への意欲や学習へのモチベーションを高めてくれる。[埼玉/私立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・大学の雰囲気は行ってみないとわからないから。また、行くことによってモチベーション向上につながるから。[東京/県立/普通科]
 - ・参加することによって学校への理解が深まり、進路実現に向けたモチベーションの向上が期待できる[沖縄/県立/普通科]

■ 雰囲気を知り具体的なイメージを形成するため

- **大短進学率70%以上**
 - ・学問研究の内容を知るためには最適な機会であること。その大学の雰囲気を知るためにも最適な機会であること。[宮城/県立/普通科]
 - ・模擬講義など学校の雰囲気をリアルに体験できる機会であるから。[東京/私立/普通科]
 - ・紙面やオンライン上での情報以上に、実際にキャンパスに訪問することで得られる体験が大切と考えているから。[東京/県立/普通科]
 - ・対面でのオープンキャンパスに参加すると、校風や通学環境などを実際に体感することができるから。[神奈川/市立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・実際にオープンキャンパスに参加し、進学先の雰囲気などを見ないと、パンフレットやホームページを見るだけでは理解できない部分があるため。[北海道/道立/総合学科]
 - ・雰囲気を具体的に知ること、希望を変更する生徒がいるから[宮城/県立/専門学科]
 - ・入学後のイメージがわくかどうか。学校の雰囲気や立地条件などの確認[山形/県立/総合学科]

■ 志望校への理解を深めるため

- **大短進学率70%以上**
 - ・大学の場所、雰囲気、大学での学びなど、本物に触れさせることで自身の志望を明確にさせるため。[広島/私立/普通科]
 - ・志望する大学に対してより具体的な情報が得られるから。[宮城/県立/普通科と他学科併設]
 - ・実際に見聞きすることが大学等の実際の様子をはっきり認識ができると考えている。そしてそのことが、生徒の志望に強く影響を与えると考えているから。[福岡/県立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・実際のキャンパスに行き雰囲気を知ることができる。また、よりカリキュラムについて理解することができる。[栃木/県立/専門学科]
 - ・明確な志望動機につながるため[熊本/県立/普通科と他学科併設]
 - ・現地へ赴き、直接学校関係者や学生と関わることで、より志望校への理解を深めるため[山形/県立/専門学科]

■ 生徒自身が志望校や進路を選択・決定するのに役立てるため

- **大短進学率70%以上**
 - ・キャンパスに出向くことによって得られる部分も含めて検討選択することで生徒自身に合う進路を実現できると考えられるから。[神奈川/県立/普通科]
 - ・年内入試が増え、進路選択のタイミングが早くなっているが、本当に行きたい大学を定めるためにも実際に現地に足を運ぶことが重要だと考えるため。[愛知/私立/普通科]
 - ・進路を明確にするためということだけでなく、総合型選抜や学校推薦型選抜を受験するために必要な情報を収集するために強く推奨している[長崎/私立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・新しい情報が得られる。将来の進路選択時により現実化する傾向がある[兵庫/県立/普通科]
 - ・学校の魅力を感じて、選んで自らの意思で進路選択をしてほしい[広島/県立/無回答]
 - ・進路選択において、生徒自身が自分で情報を得ることが大切だと思うから[富山/県立/普通科と他学科併設]

1. 「入試の早期化」の好ましさ

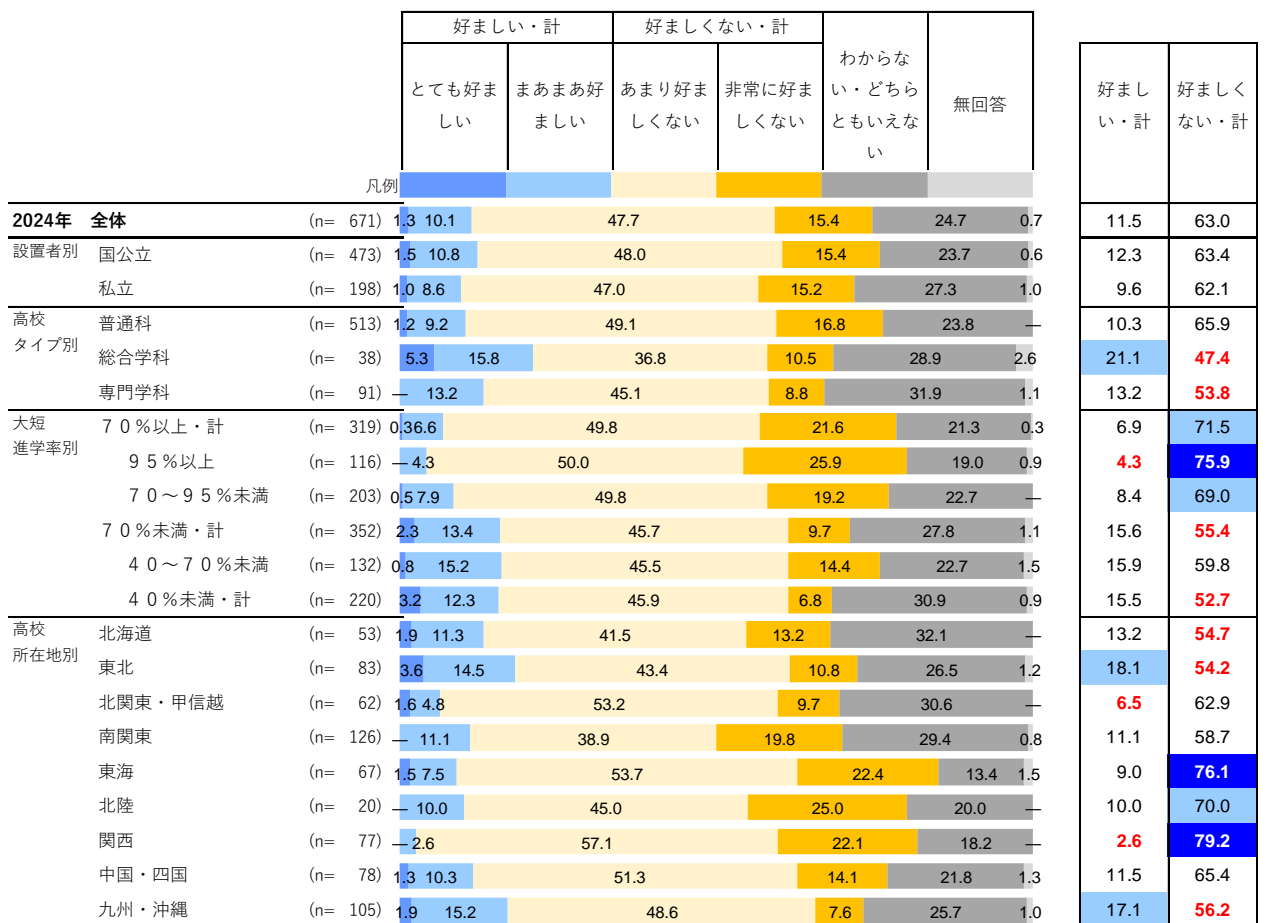
- 「入試の早期化」の好ましさは、「あまり好ましくない」が48%で半数近くを占め、「非常に好ましくない」と合わせた「好ましくない・計」は63%で、6割以上が「好ましくない」と回答している。

- 設置者別にみると、国公立、私立ともに「好ましくない・計」が6割を超え差はない。
- 高校タイプ別にみると、総合学科で「とても好ましい」（5%）、「まあまあ好ましい」（16%）の割合が高く、合計では2割以上が好ましいとしている。
- 大短進学率別にみると、進学率が高い高校ほど「好ましくない・計」が高く、進学率95%以上の層では76%と高い。一方で進学率40%未満の高校では、「好ましくない・計」が53%と低い。
- 高校所在地別にみると、東海、関西で「好ましくない・計」の割合が7割以上で高く、一方で北海道、東北、九州・沖縄では5割台と低く、地域差がみられる。

■ 「入試の早期化」の好ましさ（全体／単一回答）

（%）

入試の早期化について、どのように感じていますか。



※全体値と比較して ■+10pt以上高い / ■+5pt以上高い / ■0.0-5pt以上低い

Q35

＜フリーアンサー＞入試の早期化に対する考え方の理由

■ とても好ましい・まあまあ好ましい

● 大短進学率70%以上

- 生徒の強みを存分に発揮できる。目標が明確な生徒にとっては、低学年時から推薦入試対策を考えることができる。進路指導の幅が広がり、入試に向けた戦略を立てやすくなった。[香川/私立/普通科]
- 中長期のキャリアマッチが必要のため、高校の早い段階から、幾つもの段階を経た入試であれば、早期実施においても支援しやすい。（入試前後の校内教育も作りやすい）[東京/私立/普通科と他学科併設]
- 早く進路が決まる生徒がいて、指導が分散できる[富山/私立/普通科]

● 大短進学率70%未満

- 卒業ギリギリまで進路が決定していない状態は学校・生徒・保護者のいずれにとっても心理的な負担となっているため。[北海道/道立/総合学科]
- 複数の試験機会があれば、挑戦、実力相応等、意欲を上げながら受験期を過ごすことができる。[福島/県立/普通科]
- 挑戦するチャンスが増えるため。高校生活での実績をアピールできるため。[岐阜/県立/総合学科]
- 早めの準備とキャリアについての意識の高まり[沖縄/私立/普通科]
- 学力不足の生徒にとっては、年内入試で様々なアピールをして入学できる機会があることはとても嬉しい。[埼玉/県立/普通科]

■ あまり好ましくない・非常に好ましくない

● 大短進学率70%以上

- 学力がつかない、カリキュラムを消化しきれていない[兵庫/県立/普通科]
- 学力が充分についていない段階での入試であること。年内に合格した場合、その後の高校生活がルーズになりがちなこと。[兵庫/県立/無回答]
- 教員の負担が大きい。合格後の学習意欲の喪失が著しい。基礎学力が大きく、確実に低下する。[大分/県立/普通科]
- 生徒の学力格差、低学力生徒の増加。多くのいわゆる「Fラン大学」の年内入試は、ほぼ学力不問といっていいものが多く、ほとんど誰でも受かる状態であり、低学力生徒を生み出すだけの入試だと感じる。その一方で、志望理由書などの作成に教員の時間が割かれ、肝心の教科学習に力が注がれず、大学の入学定員確保のためだけの入試となっており、生徒や高校現場にとって得なことはほとんどないと感じる。[広島/県立/普通科]
- 早く始まる分、早く合格が出て、その後の授業への意欲が下がる生徒が多いため。[東京/私立/普通科]
- 偏差値帯の低い大学による早期困り込みを意図した受験方式により、学習する意欲を減退させる。[東京/県立/普通科]
- 学力以外の指導に多大な労力がかかるが、年々早期入試希望の生徒が増えている。合格のため指導はするが、実際校務や雑務に回す時間がなくなるため、残業を強いられる。[鳥取/県立/普通科]
- 早期に決まる生徒と一般入試まで取り組む生徒が混在することによる授業や指導のやりにくさがあるため。[滋賀/県立/普通科]

● 大短進学率70%未満

- 基礎学力を養いつつ、年内入試の対策をさせるのが大変[東京/県立/普通科と他学科併設]
- 教科書が終わらないうちに受験させ、結果が出るのは困る。[岡山/市立/総合学科]
- 残りの高校生活での学習が疎かになる不安がある[愛知/私立/普通科]
- 高校3年の1年間の大半が受験準備や指導に追われることになるため[静岡/私立/普通科と他学科併設]
- 5月GWからエントリーし、最終決定は11月頃と長期間にわたって拘束されるイメージ←専門学校。1月の一般選抜（大学）の生徒の指導まで半年以上進路指導・出願指導に時間を費やすことになる。[和歌山/県立/その他]
- 大学入試等が早期化すると、余裕を持った教科指導が行えない。[愛知/県立/専門学科]

■ わからない・どちらともいえない

● 大短進学率70%以上

- 向き不向きがあるが、なかなか生徒自身ではどちらなのか分からない生徒もいる。チャンスが増える、思いが強くなり、最後まで頑張り抜くことができるようになる生徒もいる。保護者は、向き不向きを考えないで、早くしんどさから開放させてあげたい、という思いから総合型等を勧める方も少なからずおり、駄目だった時の代償が大きいと感じる。良い面、悪い面もあると感じている。[広島/県立/普通科]
- ともかく千差万別あり、一概には括れないから。[大分/県立/普通科]

● 大短進学率70%未満

- 早く終われば自動車免許を取るなどの時間が増える。逆に早すぎると準備の時間が足りない。[宮崎/私立/普通科と他学科併設]
- 現時点、本校の受験状況から特段のメリットもデメリットも感じていないから[福島/県立/普通科]
- 早すぎると準備期間が短くなる。生徒が早めに合格を得て、落ち着いて残りの学校生活を過ごせる場合とかえって怠けてしまう場合がある。[高知/県立/専門学科]

<フリーアンサー>入試の早期化が進む中で起こっている進路指導の変化

■ 進路指導の前倒しによる業務への影響

● 大短進学率70%以上

- 志望理由書、面接、小論文といった対策をかなり早い段階から行う必要性が出てきている。[香川/私立/普通科]
- 総合型選抜の枠が増え、希望者が増えた。夏休み前からの指導が必要になる。もっと言うなら2年次より準備をすすめておかなければならない。[兵庫/市立/普通科と他学科併設]
- これまでのところ大きな変化はない。総合型選抜が始まって久しいが、早い段階から志望理由を本気で考える生徒は増えたように感じるが、一方で出願のために作っている生徒もいる。[茨城/県立/普通科]
- 対策等も前倒ししていく必要がある。[千葉/私立/普通科]
- 入試の早期化によって、すべて進路指導が前倒しにならざるをえない。生徒自身が進路をじっくりと考える時間が少なくなっている。[和歌山/県立/普通科]
- 早期受験者への対応。そこで終わりにしようとする生徒のステップアップを諦めさせない指導がしにくくなっている。[大阪/私立/普通科]

● 大短進学率70%未満

- 志望校の検討時期の早期化。高校生の就職試験対策の時期と、総合型選抜などの入試に向けた準備の時期が重なるため、総合型選抜の入試を希望する生徒への進路指導が一貫して行えない。[愛知/県立/専門学科]
- 早めの面談、希望調査など[鹿児島/県立/普通科と他学科併設]
- 指導の開始を早める。3月までがんばる生徒との差。[新潟/県立/専門学科]
- 入試に向けて早目の準備。以前より前倒して指導している。就職者と時期が重なるため、小人数高校では、人手が不足。[鹿児島/私立/専門学科]
- 1、2年生の段階での早期対策が重要になってきている。[高知/県立/専門学科]

■ 年内入試希望者の増加

● 大短進学率70%以上

- 入試方式の説明会の早期化・年内入試の人数増加による担任の入試文書作成が煩雑・夏休みまでに入試方式を含めた受験校を決定する指導に変化[埼玉/県立/普通科]
- 実際、年内入試の市場は、「中堅私立大学」の割合が多く、難関国公立を目指す場合が多い、本校生徒の進路志望とは必ずしも一致しない。年内入試の傾向に流されないように、より高い目標をもって（難関国公立大は、年内入試率が小さい）最後まで多くの教科を学習し続けることが大切だとぶれない指導を心がけている。[三重/県立/普通科]
- 一般選抜を受験する生徒が減少。周囲に流されたり、早く進学先を決めたいという気持ちからか、総合型・学校推薦型を受験する生徒が増加しているように感じている。一概に生徒にとってマイナスとはいえない面もあるが、一般受験まで努力すれば国公立も狙えただろうと思える生徒もいてもったいなく感じることもある。[愛知/市立/普通科]
- 年内入試希望者が増えてきており、その対策について、新たに指導体制を構築する必要が生じている[茨城/県立/普通科]

● 大短進学率70%未満

- 遅くとも年内に決めたい、と考える生徒・保護者が大半を占める。一般選抜だとすでに下宿・マンションに空きがない。[和歌山/県立/その他]

■ 進学先の早期決定による生徒の学習へのモチベーションや学力の低下

● 大短進学率70%以上

- 生徒だけでなく、保護者にも早期決定の思いが膨らんできている。最後の最後まで、自分と闘いながら学びを継続している体験が与えられない。[東京/私立/普通科]

● 大短進学率70%未満

- 年内入試が早くて6月から始まっているため、対策が2年の3学期から始まった。それと、早期決定してしまい、決定後の高校の学習へのモチベーションが下がってしまう。その下がった状態で上級学校へ進学するので、授業についていけないのが心配[埼玉/県立/普通科]
- AO入試の希望者が増加し、2学期以降の学習意欲が下降している。[静岡/県立/普通科]

■ 多様な入試形態への対応

● 大短進学率70%以上

- 8月～9月～10月と面接回数等増加している（なぜ申し込むのか確認）[北海道/道立/普通科と他学科併設]
- 志望理由書、小論文、推薦対策に振り回されている。[東京/私立/普通科]
- 10月から12月にかけて、面接・小論文などの指導に教員が追われ、一般選抜に向けて勉強している生徒たちのケアに時間がとれない。[愛知/県立/普通科]
- 小論文・面接指導の負担増[青森/県立/普通科と他学科併設]
- 年内入試が増え、志望理由書の添削や面接指導に多くの時間を割くようになった。[兵庫/私立/普通科]

● 大短進学率70%未満

- 年内入試が主流になってきているので、学力向上に加え、志望理由書や小論文対策の需要が高まっている。[福島/私立/普通科と他学科併設]
- 面接・小論文対策に教師が追われていて、本来の学習指導に影響が及んでいる[秋田/県立/普通科と他学科併設]
- 本校は、総合型・指定校の年内入試が100名程おり、教員が小論文・志望理由書等の指導に忙殺されている[埼玉/県立/普通科と他学科併設]

「これからの社会」について

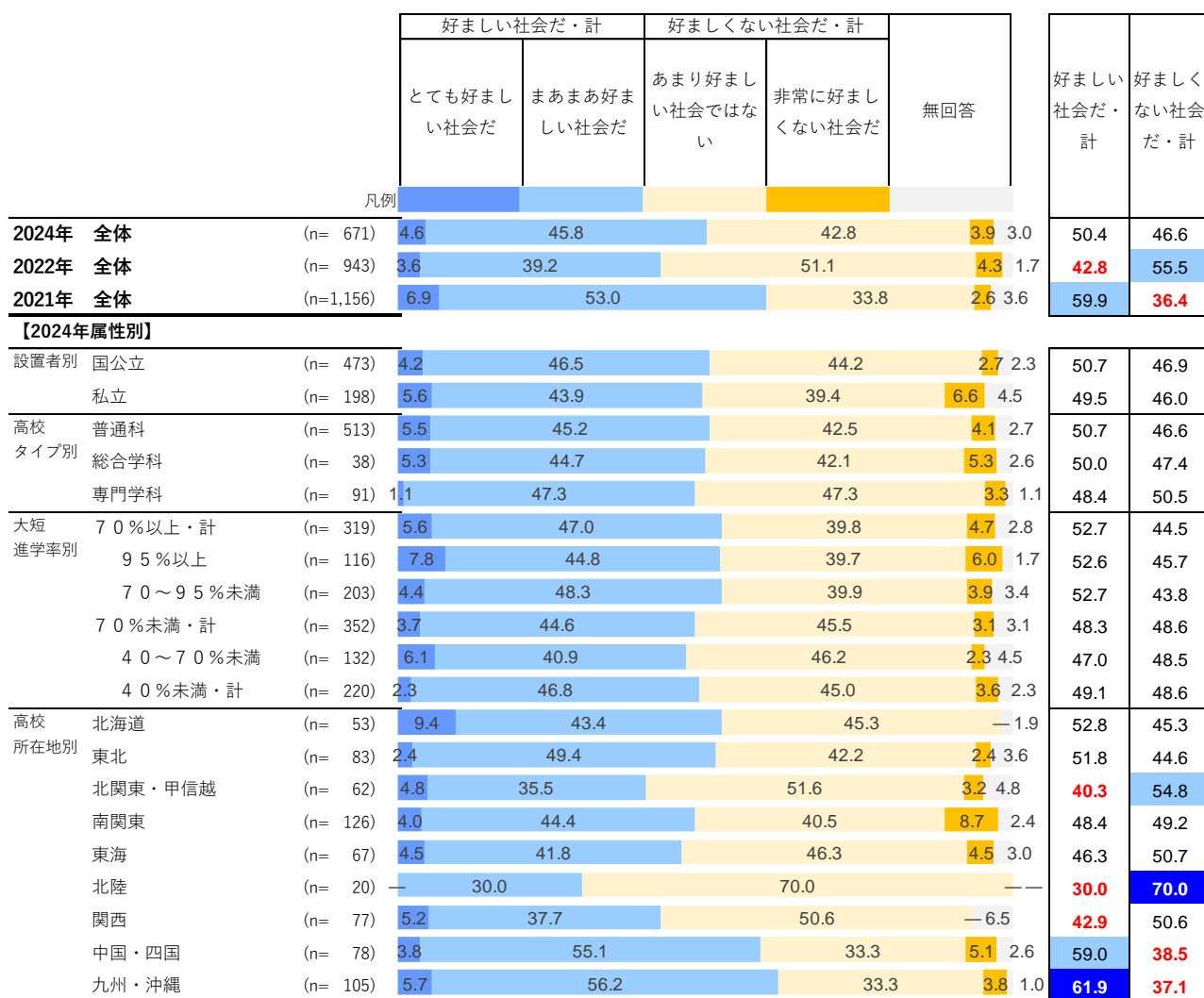
1. これからの社会の好ましさ

- これからの社会の好ましさは、全体の半数が、生徒にとってこれからの社会が「とても好ましい社会だ」「まあまあ好ましい社会だ」と回答。
- 2022年と比較して、「まあまあ好ましい社会だ」が7ポイント上昇し、「とても好ましい社会だ」「まあまあ好ましい社会だ」を合わせた「好ましい社会だ・計」は増加したが、経年で比較すると、2021年の6割の水準には届いていない。
 - 設置者別にみると、国公立で「あまり好ましい社会ではない」が私立と比較して5ポイント高い。
 - 大短進学率別にみると、「好ましい社会だ・計」が進学率70%以上の高校では5割を超えているのに対して、進学率70%未満の高校は5割未満となり、進学率によって差がみられる。
 - 高校所在地別にみると、中国・四国、九州・沖縄で「まあまあ好ましい社会だ」が半数を超え、「好ましい社会だ・計」も6割前後と高い。一方で、北関東・甲信越、関西は「好ましい社会だ・計」が4割程度と低い。

■ 「これからの社会」の高校生にとっての好ましさ（全体／単一回答）

（%）

これからの社会は生徒にとって好ましい社会だと思いますか、好ましくない社会だと思いますか。



※全体値と比較して ■ +10pt以上高い / ■ +5pt以上高い / ■ 0.0-5pt以上低い

Q38

<フリーアンサー> 「『これからの社会』の好ましさ」への回答の理由

「好ましい」と思う理由

■ 個性や多様性への理解の深まり

- **大短進学率70%以上**
 - ・ 困難な社会であると思うが、様々な価値観を持つ人と協働しやすいのは好ましいと考える。[愛媛/県立/普通科]
 - ・ 少しずつではあるが、学歴主義から実力主義に転嫁しているように感じる。多様性が認められる社会になりつつある。[大阪/私立/普通科]
 - ・ 多様な価値観を認め合うため[東京/私立/普通科と他学科併設]
- **大短進学率70%未満**
 - ・ 人権感覚が醸成されてきたように感じるから[岐阜/県立/総合学科]
 - ・ 多様性が認められていく社会だから進路選択を自己決定し、なりたい職業に就くことができるから[鹿児島/市立/専門学科]

■ 生徒への期待

- **大短進学率70%以上**
 - ・ 情報収集能力の高い生徒は、様々な機会や学び等を活用し、自分の望んだ（ものにちかい）人生を歩むことができるため。[愛知/私立/普通科]
 - ・ 求めればどこにいても情報が得られる。コミュニケーション能力に長けた人には生きやすいと考える。[鹿児島/県立/普通科と他学科併設]
- **大短進学率70%未満**
 - ・ 正解のない問いに答えるための思考力・判断力を高めることで幅広い可能性が見いだせる[岡山/県立/専門学科]
 - ・ 情報化の進展で、学びの機会は依然に比べ等しく与えられるようになったように感じるが、何を選び活用していくかの見極めが個人の判断に委ねられる。情報活用能力や意思決定能力によって差が生じやすい社会だから[福島/県立/普通科]
 - ・ 生徒がどこで学んだかではなく、何を身につけ何ができかということが重要になってきているため。[北海道/道立/専門学科]

■ 技術の発展

- **大短進学率70%以上**
 - ・ ITやAIも含め、生活水準は間違いなく向上しているため。重要なのはその使い方と向き合い方。[東京/県立/普通科]
 - ・ 少子高齢化への対応、持続可能性を具体化していくこと、科学技術の高度化など、先が見通しにくい状況にあると思いますので。一方、チャンスの拡大もあり「まあまあ好ましい社会だ」「あまり好ましい社会ではない」のどちらか迷うところです。[東京/県立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・ 現在の産業界は自動化への移行過程の最中で不十分。いつまで続くかも不明瞭。技術者か技能者か、社会に求められているものが明確になれば、好ましくなっていくかもしれない。[静岡/県立/専門学科]

「好ましくない」と思う理由

■ 少子高齢化による社会不安

- **大短進学率70%以上**
 - ・ 少子高齢化が進み、物価高も続いているため、将来彼等が希望を見出しにくい社会になっているように感じるため。[広島/私立/普通科]
- **大短進学率70%未満**
 - ・ 少子高齢化が進み、社会保障費等の負担が大きくなる。人権などに配慮するあまり、自由な発言や表現が制限される。[京都/府立/総合学科]

■ 多様性の拡大と価値観の混乱

- **大短進学率70%以上**
 - ・ 価値観の多様化やコロナ禍の影響もあり、休んだり諦めたり続けていたことを辞めたりすることへのハードルが下がっているように感じている。指導する側、教える側の人々が声かけの方法・内容をよく考える必要があることは、良い面もある一方で、気付き、改善する、粘り強く頑張ることをこれまで以上に、指導される側、教えられる側の人自身に求められる社会になっているように思う。[愛知/市立/普通科]
 - ・ 多様性が広がる中、自己主張が強い生徒も増えており、あらゆる場面で収拾がつかなくなりそうだから。[富山/県立/普通科と他学科併設]
- **大短進学率70%未満**
 - ・ 現在の勤務校の生徒たちを見ると、彼らが近い将来、多種多様な人間と共にやっつけられるのかどうか不安に感じるから。[茨城/県立/総合学科]
 - ・ ゴネ得社会を推奨しているから。多様性への対応とはつまりわがままを野放しにしていることにもつながる。[青森/県立/普通科と他学科併設]

■ 教育機会や経済の格差の拡大

- **大短進学率70%以上**
 - ・ 今まで以上にホワイトカラー／ブルーカラーの分断が起きそうな気がする（Q. 40の力を持ち得る人、というのが限られているように感じる）[愛知/市立/普通科と他学科併設]
 - ・ 地道な努力よりも、成果が重視され、うまくやった方が有利、正直者がバカを見る場面が多くなった。経済格差は一層広がり、弱者が這い上がるチャンスも少ない。[静岡/県立/普通科と他学科併設]
- **大短進学率70%未満**
 - ・ 自由主義を標榜する一方で格差の拡大が生じる。しかしセーフティネットは不足してしまう[大分/県立/無回答]
 - ・ やる子とやらない子の差がますます広がってしまうから[大阪/府立/総合学科]

2. 社会人基礎力

- 「特に必要とされる」と思う社会人基礎力は、「主体性」「課題発見力」。
 - 2022年と比較すると、上位の項目に変化はみられないが、「課題発見力」のスコアは5ポイント低下。また、前回4位の「創造力」と5位「柔軟性」の順位が入れ替わった。
 - 2021年まで上位にいた「発進力」は2022年6位、今回は9位と低下傾向にある。
 - 「柔軟性」「ストレスコントロール力」「傾聴力」は上昇傾向がみられる。

- 「生徒が現在持っている」と思う社会人基礎力は、「規律性」が突出。「傾聴力」「柔軟性」が続く。
 - 2022年と比較すると、上位の項目に大きな変化はみられないが、「規律性」と「傾聴力」はそれぞれ2022年から12ポイント、5ポイント減少した。
 - 「発進力」はスコアが増加傾向にあり、前回6位から4位に上昇した。

- 「特に必要とされる」と思う社会人基礎力と「生徒が現在持っている」と思う社会人基礎力のギャップをみると、「課題発見力」「主体性」は不足している一方、「規律性」「傾聴力」は十分備わっていると考えられる。

■生徒にとって将来的に「特に必要とされる能力」と「生徒が現在持っている」と思う社会人基礎力（全体／それぞれ3つまでの複数回答） (%)

経済産業省で定義されている社会人基礎力の12の能力要素のうち、生徒が将来社会で働くにあたり、「特に必要とされる能力」はどのようなものだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。また、「生徒が現在持っている」と思うものについて3つまで選んでください。

2024年 全体 (n = 671)			①生徒が将来社会で働くにあたり、特に必要とされる能力	②生徒が現在持っていると思う能力	①必要とされる能力－ ②現在持っている能力の ギャップ
前に踏み出す力 (アクション)	主体性	物事に進んで取り組む力	52.2 1位	15.8 5位	36.4
	実行力	目的を設定し確実に行動する力	25.0 3位	11.5 7位	13.5
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力	17.0 10位	5.5 9位	11.5
考え抜く力 (シンキング)	課題発見力	現状を分析し、目的や課題を明らかにする力	42.8 2位	4.8 10位	38.0
	創造力	新しい価値を生み出す力	22.7 5位	6.0 8位	16.7
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する力	15.5 11位	3.4 11位	12.1
チームで働く力 (チームワーク)	柔軟性	意見や立場の違いを理解する力	24.4 4位	23.7 3位	0.7
	ストレス コントロール力	ストレスの発生源に対応する力	21.5 6位	2.2 12位	19.3
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聞く力	17.4 7位	29.1 2位	-11.7
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	17.4 7位	14.8 6位	2.6
	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力	17.3 9位	15.9 4位	1.4
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力	13.6 12位	43.5 1位	-29.9
		ひとつもあてはまるものはない	—	16.7	
	無回答	2.7	3.0		

※カテゴリーごとに「①生徒が将来社会で働くにあたり、特に必要とされる能力」の降順ソート ※■第1位の項目 ■第2-5位の項目

Q40

■生徒にとって将来的に「特に必要とされる能力」と「生徒が現在持っている」と思う社会人基礎力（全体／それぞれ3つまでの複数回答） (%)

経済産業省で定義されている社会人基礎力の12の能力要素のうち、生徒が将来社会で働くにあたり、「特に必要とされる能力」はどのようなものだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。また、「生徒が現在持っている」と思うものについて3つまで選んでください。

2022年 全体 (n = 943)			①生徒が将来社会で働くにあたり、特に必要とされる能力	②生徒が現在持っていると思う能力	①必要とされる能力－ ②現在持っている能力の ギャップ
前に踏み出す力 (アクション)	主体性	物事に進んで取り組む力	50.6 1位	15.9 5位	34.7
	実行力	目的を設定し確実に行動する力	26.6 3位	11.2 7位	15.4
	働きかけ力	他人に働きかけ巻き込む力	17.7 9位	5.1 10位	12.6
考え抜く力 (シンキング)	課題発見力	現状を分析し、目的や課題を明らかにする力	47.4 2位	4.9 11位	42.5
	創造力	新しい価値を生み出す力	26.5 4位	5.3 9位	21.2
	計画力	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備する力	17.3 10位	5.4 8位	11.9
チームで働く力 (チームワーク)	柔軟性	意見や立場の違いを理解する力	22.7 5位	22.5 3位	0.2
	発信力	自分の意見をわかりやすく伝える力	19.8 6位	13.7 6位	6.2
	ストレス コントロール力	ストレスの発生源に対応する力	19.1 7位	3.7 12位	15.4
	状況把握力	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力	18.3 8位	17.6 4位	0.7
	傾聴力	相手の意見を丁寧に聞く力	16.8 11位	34.0 2位	-17.3
	規律性	社会のルールや人との約束を守る力	11.7 12位	55.1 1位	-43.5
		ひとつもあてはまるものはない	0.1	11.9	
	無回答	0.5	1.7		

※カテゴリーごとに「①生徒が将来社会で働くにあたり、特に必要とされる能力」の降順ソート ※■第1位の項目 ■第2-5位の項目

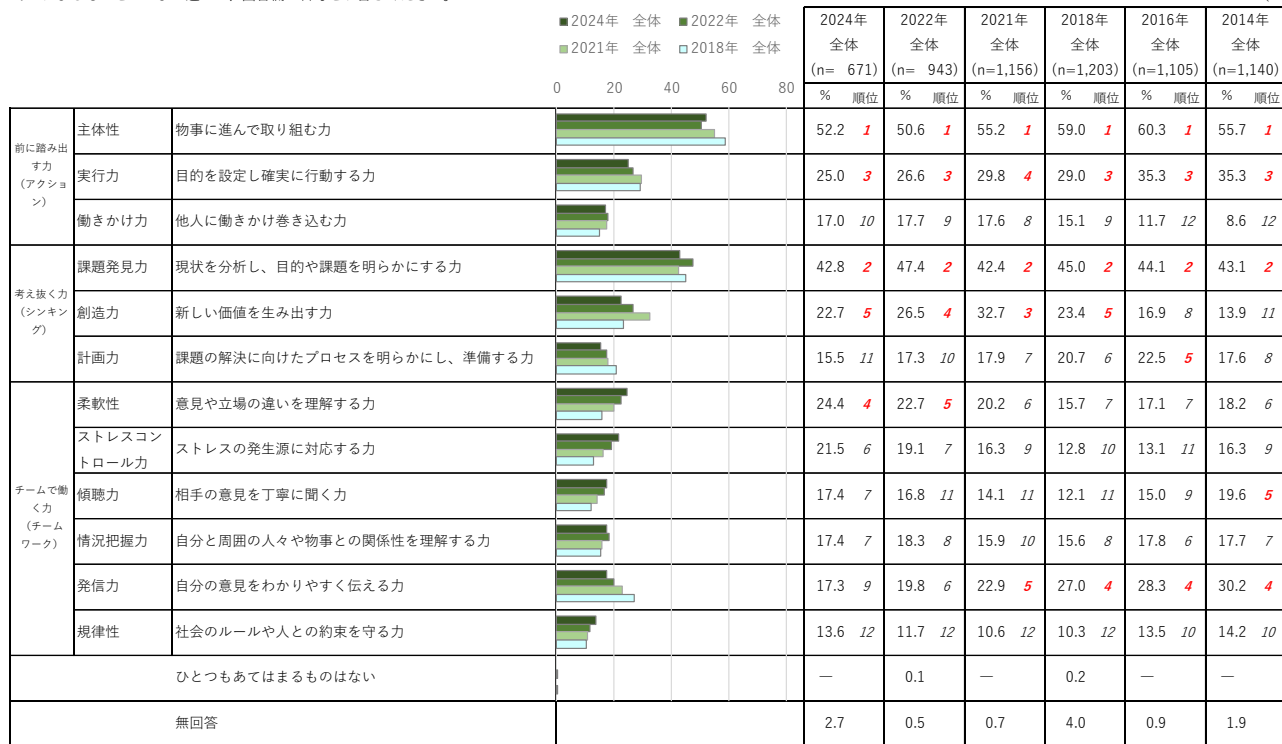
Q40

■生徒にとって将来的に「特に必要とされる」と思う社会人基礎力（全体/3つまでの複数回答）

経済産業省で定義されている社会人基礎力の12の能力要素のうち、生徒が将来社会で働くにあたり、「特に必要とされる能力」はどのようなものだと思いますか。

あてはまるものを3つまで選んで、回答欄に番号をお書きください。

(%)



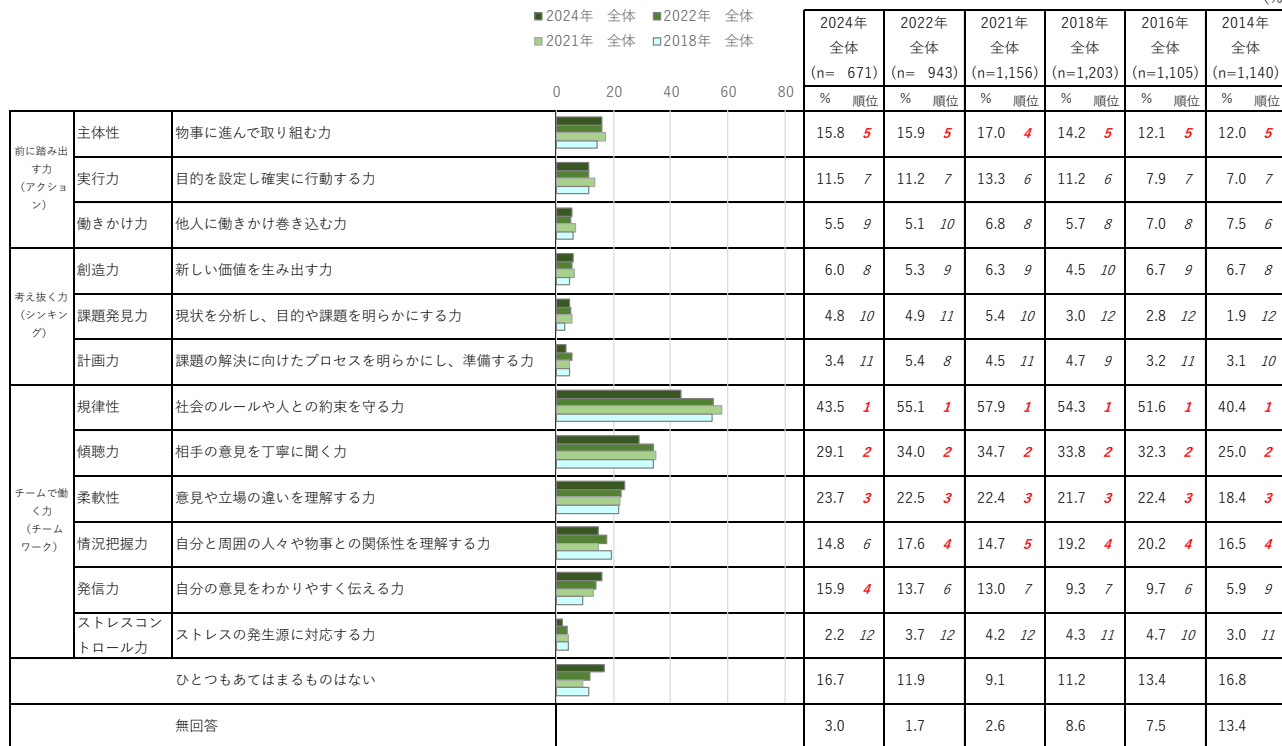
※2024年 カテゴリごとに全体の降順にソート

Q40_1

■「生徒が現在持っている」と思う社会人基礎力（全体/3つまでの複数回答）

経済産業省で定義されている社会人基礎力の12の能力要素のうち、「生徒が現在持っている」と思うものについて3つまで選んで、回答欄に番号をお書きください。

(%)



※2022年 カテゴリごとに全体の降順にソート

Q40_2

- 設置者別にみると、私立で「課題発見力」「創造力」といった考え抜く力の項目で国公立と比較して低く、逆に「発進力」は高い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科で全体と比較して高い項目と低い項目が散見される。特に高い項目は「主体性」「創造力」、低い項目では「実行力」「課題発見力」「状況把握力」。専門学科ではチームで働く力の「状況把握力」「規律性」が全体と比較して高い。
- 大短進学率別にみると、進学率95%以上の高校は「主体性」のスコアが低く、「課題発見力」が5割を超えて1位となっている。それ以外の層では「主体性」が最も高い。
- 高校所在地別にみると、東海と中国・四国は「課題発見力」が1位、他の地域は「主体性」が最も高い。

■生徒にとって将来的に「特に必要とされる」と思う社会人基礎力（全体/3つまでの複数回答）

(%)

経済産業省で定義されている社会人基礎力の12の能力要素のうち、生徒が将来社会で働くにあたり、「特に必要とされる能力」はどのようなものだと思いますか。

あてはまるものを3つまで選んでください。

		前に踏み出す力 (アクション)			考え抜く力 (シンキング)			チームで働く力 (チームワーク)					は	無	
		主体性	実行力	働きかけ力	課題発見力	創造力	計画力	柔軟性	ストレスコントロール力	傾聴力	状況把握力	発信力			規律性
		物事に進んで取り組む力	目的を設定し、確実に実行する力	他人に働きかける力	現状を明らかにし、課題を発見する力	新しい価値を生み出す力	課題を明確に解決に向けた準備力	課題を見たり、意見を述べたりする力	ストレスをコントロールする力	相手の意見を丁寧に聞く力	自分と周囲の関係を円滑にする力	自分の意見をわかりやすく伝える力	社会を守る力	は	無
2024年 全体	(n= 671)	52.2	25.0	17.0	42.8	22.7	15.5	24.4	21.5	17.4	17.4	17.3	13.6	—	2.7
設置者別															
国公立	(n= 473)	51.8	23.5	18.8	45.0	25.8	14.4	23.9	22.4	16.9	19.2	14.4	13.3	—	1.9
私立	(n= 198)	53.0	28.8	12.6	37.4	15.2	18.2	25.8	19.2	18.7	13.1	24.2	14.1	—	4.5
高校タイプ別															
普通科	(n= 513)	51.3	26.1	17.9	44.1	22.8	15.6	26.1	21.4	17.5	17.3	17.2	12.1	—	1.8
総合学科	(n= 38)	63.2	18.4	15.8	34.2	34.2	21.1	26.3	26.3	21.1	7.9	13.2	10.5	—	2.6
専門学科	(n= 91)	53.8	20.9	9.9	42.9	23.1	15.4	20.9	19.8	18.7	24.2	19.8	20.9	—	1.1
大短進学率別															
70%以上・計	(n= 319)	51.1	24.8	18.8	47.0	24.5	17.9	24.8	19.1	16.9	16.6	16.0	9.4	—	3.1
95%以上	(n= 116)	44.8	22.4	23.3	53.4	22.4	19.0	26.7	15.5	16.4	19.0	15.5	8.6	—	3.4
70%~95%未満	(n= 203)	54.7	26.1	16.3	43.3	25.6	17.2	23.6	21.2	17.2	15.3	16.3	9.9	—	3.0
70%未満・計	(n= 352)	53.1	25.3	15.3	38.9	21.0	13.4	24.1	23.6	17.9	18.2	18.5	17.3	—	2.3
40%~70%未満	(n= 132)	51.5	26.5	17.4	43.9	20.5	15.9	25.0	18.2	16.7	18.2	18.2	9.8	—	3.8
40%未満・計	(n= 220)	54.1	24.5	14.1	35.9	21.4	11.8	23.6	26.8	18.6	18.2	18.6	21.8	—	1.4
高校所在地別															
北海道	(n= 53)	45.3	26.4	22.6	43.4	18.9	13.2	24.5	26.4	18.9	15.1	17.0	20.8	—	1.9
東北	(n= 83)	50.6	20.5	19.3	38.6	19.3	9.6	22.9	32.5	19.3	18.1	19.3	18.1	—	2.4
北関東・甲信越	(n= 62)	54.8	24.2	9.7	38.7	25.8	27.4	24.2	14.5	19.4	17.7	16.1	11.3	—	3.2
南関東	(n= 126)	54.0	25.4	19.8	42.1	27.8	14.3	20.6	15.9	18.3	17.5	17.5	12.7	—	2.4
東海	(n= 67)	44.8	26.9	20.9	49.3	17.9	14.9	23.9	29.9	14.9	20.9	16.4	11.9	—	1.5
北陸	(n= 20)	55.0	45.0	15.0	50.0	10.0	20.0	25.0	15.0	5.0	20.0	10.0	15.0	—	5.0
関西	(n= 77)	54.5	24.7	14.3	42.9	22.1	14.3	28.6	14.3	18.2	13.0	20.8	11.7	—	5.2
中国・四国	(n= 78)	44.9	21.8	14.1	46.2	21.8	17.9	32.1	19.2	19.2	20.5	14.1	12.8	—	2.6
九州・沖縄	(n= 105)	61.0	25.7	15.2	41.0	25.7	14.3	21.9	23.8	15.2	16.2	18.1	11.4	—	1.9

※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/0.0-5pt以上低い

Q40_1

- 設置者別にみると、私立で「主体性」が国公立と比較して高い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科では「発進力」が他のタイプと比較して突出して低いが「傾聴力」のスコアが高い。一方で、専門学科では「傾聴力」のスコアが低い。
- 大短進学率別にみると、進学率が高いほどスコアの高い項目が多く、特に「主体性」は進学率95%以上の高校で特に高い。
- 高校所在地別にみると、北関東・甲信越で「傾聴力」「柔軟性」「規律性」などチームで働く力の項目が高い。

■ 「生徒が現在持っている」と思う社会人基礎力（全体/3つまでの複数回答）

(%)

経済産業省で定義されている社会人基礎力の12の能力要素のうち、「生徒が現在持っている」と思うものについて3つまで選んで、回答欄に番号をお書きください。

		前に踏み出す力 (アクション)			考え抜く力 (シンキング)			チームで働く力 (チームワーク)					はな	無	
		主体性	実行力	働きかけ力	創造力	課題発見力	計画力	規律性	傾聴力	柔軟性	発信力	状況把握力			ストレスコントロール力
		物事に進んで取り組む力	目的を設定し、確実に行動	他人に働きかけ巻き込む力	新しい価値を生み出す力	現状を分析し、課題を明確にする力	課題を解決に向け、準備	社会のルールや人の約束	相手の意見を丁寧に聞く	意見や立場の違いを理解	自分の意見をわかちあう	自分と関係性の理解や力	ストレスの発生源に対応	ひとつもあてはまるもの	無回答
2024年 全体	(n= 671)	15.8	11.5	5.5	6.0	4.8	3.4	43.5	29.1	23.7	15.9	14.8	2.2	16.7	3.0
設置者別															
	国公立 (n= 473)	14.2	11.8	5.7	4.7	5.1	3.6	44.4	30.4	24.3	16.1	13.5	1.5	17.5	2.1
	私立 (n= 198)	19.7	10.6	5.1	9.1	4.0	3.0	41.4	25.8	22.2	15.7	17.7	4.0	14.6	5.1
高校タイプ別															
	普通科 (n= 513)	16.2	11.9	5.8	6.4	4.7	3.7	45.8	31.2	25.1	17.5	15.2	2.3	15.4	1.9
	総合学科 (n= 38)	10.5	7.9	2.6	2.6	—	—	42.1	36.8	18.4	2.6	18.4	2.6	18.4	5.3
	専門学科 (n= 91)	15.4	11.0	4.4	5.5	4.4	2.2	36.3	16.5	22.0	15.4	14.3	2.2	24.2	1.1
大短進学率別															
	70%以上・計 (n= 319)	18.8	13.8	6.0	6.6	6.9	5.0	48.3	30.4	28.5	18.8	16.0	2.2	11.3	3.4
	95%以上 (n= 116)	26.7	18.1	8.6	6.0	6.0	8.6	52.6	31.0	30.2	19.8	17.2	0.9	5.2	4.3
	70~95%未満 (n= 203)	14.3	11.3	4.4	6.9	7.4	3.0	45.8	30.0	27.6	18.2	15.3	3.0	14.8	3.0
	70%未満・計 (n= 352)	13.1	9.4	5.1	5.4	2.8	2.0	39.2	27.8	19.3	13.4	13.6	2.3	21.6	2.6
	40~70%未満 (n= 132)	13.6	9.1	6.1	3.8	3.8	3.0	44.7	33.3	22.7	18.2	14.4	3.8	9.8	4.5
	40%未満・計 (n= 220)	12.7	9.5	4.5	6.4	2.3	1.4	35.9	24.5	17.3	10.5	13.2	1.4	28.6	1.4
高校所在地別															
	北海道 (n= 53)	13.2	11.3	9.4	—	7.5	3.8	47.2	32.1	11.3	13.2	17.0	1.9	22.6	1.9
	東北 (n= 83)	20.5	10.8	4.8	8.4	4.8	3.6	39.8	32.5	24.1	14.5	15.7	—	16.9	3.6
	北関東・甲信越 (n= 62)	14.5	8.1	3.2	8.1	3.2	—	50.0	40.3	33.9	12.9	11.3	3.2	14.5	1.6
	南関東 (n= 126)	11.1	11.1	5.6	4.0	4.8	4.8	52.4	23.8	25.4	17.5	15.1	4.8	14.3	3.2
	東海 (n= 67)	23.9	14.9	6.0	4.5	1.5	4.5	38.8	26.9	22.4	9.0	9.0	3.0	17.9	1.5
	北陸 (n= 20)	20.0	10.0	—	20.0	10.0	5.0	30.0	15.0	30.0	10.0	25.0	—	20.0	5.0
	関西 (n= 77)	11.7	9.1	1.3	9.1	5.2	3.9	46.8	31.2	16.9	13.0	16.9	2.6	16.9	6.5
	中国・四国 (n= 78)	20.5	12.8	9.0	1.3	5.1	2.6	38.5	25.6	24.4	20.5	15.4	1.3	17.9	2.6
	九州・沖縄 (n= 105)	13.3	13.3	6.7	7.6	4.8	2.9	37.1	29.5	25.7	22.9	14.3	1.0	15.2	1.9

※全体値と比較して ■ +10pt以上高い / ■ +5pt以上高い / 0.0-5pt以上低い

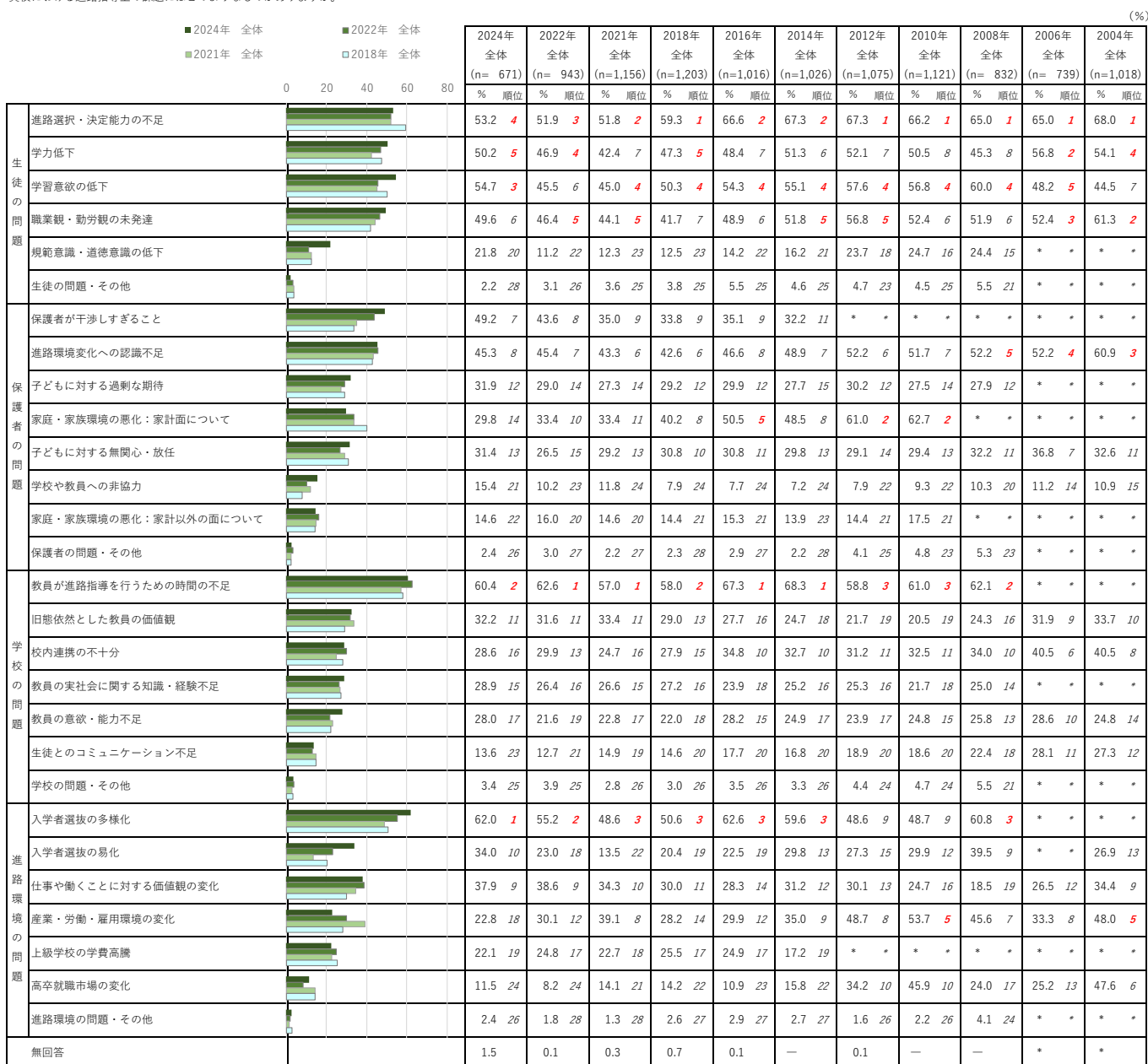
Q40_2

1. 進路指導上の課題

- 進路指導上の課題は、「入学者選抜の多様化」が62%でトップ。以下、「教員が進路指導を行うための時間の不足」が60%、「学習意欲の低下」が54%で続く。
- 時系列でみると、2022年と比較して上位項目に大きな変化はないものの、順位に変動がみられる。「入学者選抜の多様化」は2021年から増加傾向が続き今回トップとなる。また、今回3位の「学習意欲の低下」は2022年から9ポイント増加している。
- 保護者の問題では「保護者が干渉しすぎることで」スコアが増加傾向にあり順位が7位と上昇。学校の問題は「教員の意欲・能力不足」でスコアが6ポイント上昇している。進路環境の問題は「入学者選抜の多様化」「入学者選抜の易化」は2022年からスコアが増加している。

■進路指導上の課題（全体／複数回答）

貴校における進路指導上の課題にはどのようなものがありますか。



※カテゴリーごとに降順ソート

※2004～2016年は、進路指導を「非常に難しいと感じている」「やや難しいと感じている」回答者による困難の要因

※「*」は該当の項目なし

- 設置者別にみると、私立は「保護者が干渉しすぎること」「子どもに対する過剰な期待」「旧態依然とした教員の価値観」「教員の意欲・能力不足」「入学者選抜の多様化」が全体と比較して高い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科で全体と比較して高い項目が多く、「学習意欲の低下」など【生徒の問題】、「子どもに対する無関心・放任」「家庭・家族環境の悪化」など家庭環境に関する項目が高い。また「校内連携の不十分」「教員の意欲・能力不足」「上級学校の学費高騰」は全体と比較して特に高い。
- 大短進学率別にみると、進学率が高い高校ほど「保護者が干渉しすぎること」「子どもに対する過剰な期待」「入学者選抜の多様化」のスコアが高い。一方、進学率が低い高校ほど、「学習意欲の低下」など【生徒の問題】、「子どもに対する無関心・放任」「家庭・家族環境の悪化：家計面」など家庭環境に関する項目、「高卒就職市場の変化」のスコアが高い。
- 高校所在地別にみると、北関東・甲信越、南関東、東海で「保護者が干渉しすぎること」のスコアが全体と比較して高いが、他の地域は低く差が顕著である。

■進路指導上の課題 (全体/複数回答)

(%)

貴校における進路指導上の課題にはどのようなものがありますか。

	2024年全体 (n= 671)	設置者別			高校タイプ別			大短進学率別						高校所在地別									
		国公立 (n= 473)	私立 (n= 198)		普通科 (n= 513)	総合学科 (n= 38)	専門学科 (n= 91)	70%以上・計 (n= 319)	70%以上・95%以上 (n= 116)	70%以上・95%未満 (n= 203)	70%未満・計 (n= 352)	40%~70%未満 (n= 132)	40%未満 (n= 220)	北海道 (n= 53)	東北 (n= 83)	北関東・甲信越 (n= 62)	南関東 (n= 126)	東海 (n= 67)	北陸 (n= 20)	関西 (n= 77)	中国・四国 (n= 78)	九州・沖縄 (n= 105)	
生徒の問題	進路選択・決定能力の不足	53.2	53.9	51.5	53.0	52.6	59.3	49.8	47.4	51.2	56.3	52.3	58.6	71.7	41.0	53.2	52.4	58.2	55.0	50.6	50.0	55.2	
	学力低下	50.2	50.7	49.0	51.5	52.6	45.1	46.4	36.2	52.2	53.7	53.8	53.6	50.9	55.4	54.8	43.7	41.8	65.0	40.3	59.0	54.3	
	学習意欲の低下	54.7	55.6	52.5	53.8	81.6	51.6	46.4	35.3	52.7	62.2	62.1	62.3	52.8	59.0	67.7	46.8	53.7	35.0	49.4	62.8	56.2	
	職業観・勤労観の未発達	49.6	52.2	43.4	47.8	57.9	59.3	43.9	39.7	46.3	54.8	45.5	60.5	50.9	48.2	41.9	50.8	53.7	60.0	51.9	52.6	44.8	
	規範意識・道徳意識の低下	21.8	20.7	24.2	19.9	28.9	28.6	18.2	17.2	18.7	25.0	18.2	29.1	20.8	30.1	16.1	16.7	17.9	30.0	19.5	26.9	23.8	
	生徒の問題・その他	2.2	1.7	3.5	2.5	—	1.1	3.1	5.2	2.0	1.4	1.5	1.4	—	—	3.2	4.0	4.5	5.0	2.6	1.3	1.0	
	保護者が干渉しすぎること	49.2	44.0	61.6	53.0	42.1	35.2	60.5	69.0	55.7	38.9	45.5	35.0	39.6	37.3	56.5	62.7	65.7	40.0	48.1	38.5	42.9	
保護者の問題	進路環境変化への認識不足	45.3	46.9	41.4	45.6	52.6	45.1	40.1	32.8	44.3	50.0	56.1	46.4	60.4	49.4	45.2	42.9	40.3	35.0	39.0	44.9	47.6	
	子どもに対する過剰な期待	31.9	26.6	44.4	33.3	21.1	29.7	39.5	56.9	29.6	25.0	29.5	22.3	26.4	25.3	38.7	40.5	29.9	55.0	31.2	24.4	28.6	
	家庭・家族環境の悪化：家計面について	29.8	33.4	21.2	28.5	50.0	33.0	19.7	9.5	25.6	38.9	32.6	42.7	34.0	33.7	19.4	26.2	29.9	35.0	23.4	38.5	32.4	
	子どもに対する無関心・放任	31.4	33.0	27.8	28.7	47.4	42.9	16.6	8.6	21.2	44.9	35.6	50.5	39.6	38.6	27.4	24.6	28.4	50.0	26.0	35.9	31.4	
	学校や教員への非協力	15.4	14.4	17.7	14.4	23.7	19.8	11.6	7.8	13.8	18.8	15.9	20.5	9.4	19.3	21.0	12.7	16.4	15.0	13.0	17.9	14.3	
	家庭・家族環境の悪化：家計以外の面について	14.6	14.8	14.1	13.3	26.3	15.4	11.3	9.5	12.3	17.6	14.4	19.5	20.8	8.4	12.9	14.3	7.5	15.0	15.6	20.5	17.1	
	保護者の問題・その他	2.4	2.3	2.5	2.7	2.6	—	3.4	2.6	3.9	1.4	1.5	1.4	1.9	3.6	3.2	1.6	6.0	—	1.3	1.3	1.9	
学校の問題	教員が進路指導を行うための時間の不足	60.4	60.7	59.6	61.6	68.4	54.9	63.0	65.5	61.6	58.0	61.4	55.9	56.6	53.0	62.9	57.9	68.7	70.0	55.8	64.1	62.9	
	旧態依然とした教員の価値観	32.2	28.5	40.9	34.1	36.8	26.4	37.0	37.9	36.5	27.8	33.3	24.5	24.5	22.9	32.3	40.5	31.3	30.0	35.1	32.1	32.4	
	校内連携の不十分	28.6	27.5	31.3	27.1	42.1	34.1	27.6	25.9	28.6	29.5	28.8	30.0	26.4	27.7	32.3	33.3	28.4	25.0	27.3	26.9	25.7	
	教員の実社会に関する知識・経験不足	28.9	26.8	33.8	29.2	31.6	31.9	27.3	24.1	29.1	30.4	33.3	28.6	34.0	28.9	24.2	34.1	31.3	25.0	24.7	28.2	25.7	
	教員の意欲・能力不足	28.0	24.7	35.9	28.3	39.5	25.3	26.6	27.6	26.1	29.3	31.8	27.7	30.2	26.5	30.6	27.8	28.4	25.0	28.6	26.9	27.6	
	生徒とのコミュニケーション不足	13.6	12.1	17.2	13.6	18.4	14.3	11.9	11.2	12.3	15.1	15.9	14.5	20.8	15.7	11.3	18.3	10.4	—	6.5	7.7	18.1	
	学校の問題・その他	3.4	3.6	3.0	3.5	—	3.3	3.8	3.4	3.9	3.1	3.0	3.2	5.7	4.8	1.6	2.4	4.5	—	6.5	1.3	2.9	
進路環境の問題	入学者選抜の多様化	62.0	59.0	69.2	67.1	65.8	39.6	75.2	76.7	74.4	50.0	65.2	40.9	56.6	51.8	66.1	74.6	61.2	75.0	64.9	56.4	55.2	
	入学者選抜の易化	34.0	35.3	30.8	35.3	28.9	34.1	34.8	28.4	38.4	33.2	32.6	33.6	34.0	31.3	41.9	31.7	41.8	40.0	27.3	39.7	28.6	
	仕事や働くことに対する価値観の変化	37.9	39.7	33.3	37.2	36.8	47.3	33.2	26.7	36.9	42.0	34.1	46.8	49.1	34.9	32.3	27.8	46.3	45.0	32.5	41.0	44.8	
	産業・労働・雇用環境の変化	22.8	23.3	21.7	21.8	26.3	29.7	20.7	20.7	20.7	24.7	22.7	25.9	32.1	19.3	16.1	23.0	17.9	20.0	15.6	32.1	26.7	
	上級学校の学費高騰	22.1	23.5	18.7	22.0	39.5	16.5	18.5	20.7	17.2	25.3	25.0	25.5	26.4	19.3	22.6	23.8	22.4	20.0	22.1	16.7	23.8	
	高卒就職市場の変化	11.5	13.1	7.6	8.0	18.4	26.4	2.5	0.9	3.4	19.6	11.4	24.5	13.2	12.0	8.1	8.7	16.4	10.0	7.8	10.3	16.2	
	進路環境の問題・その他	2.4	2.7	1.5	2.1	—	4.4	2.2	1.7	2.5	2.6	1.5	3.2	1.9	3.6	3.2	1.6	3.0	—	3.9	1.3	1.9	
	無回答	1.5	1.3	2.0	0.4	2.6	—	1.3	—	2.0	1.7	2.3	1.4	—	1.2	—	0.8	1.5	5.0	3.9	2.6	1.0	

※カテゴリーごとに降順ソート

※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/○0.5pt以上低い

q41

2. キャリア教育の取り組み状況

■ 96%がキャリア教育に取り組んでいると回答。

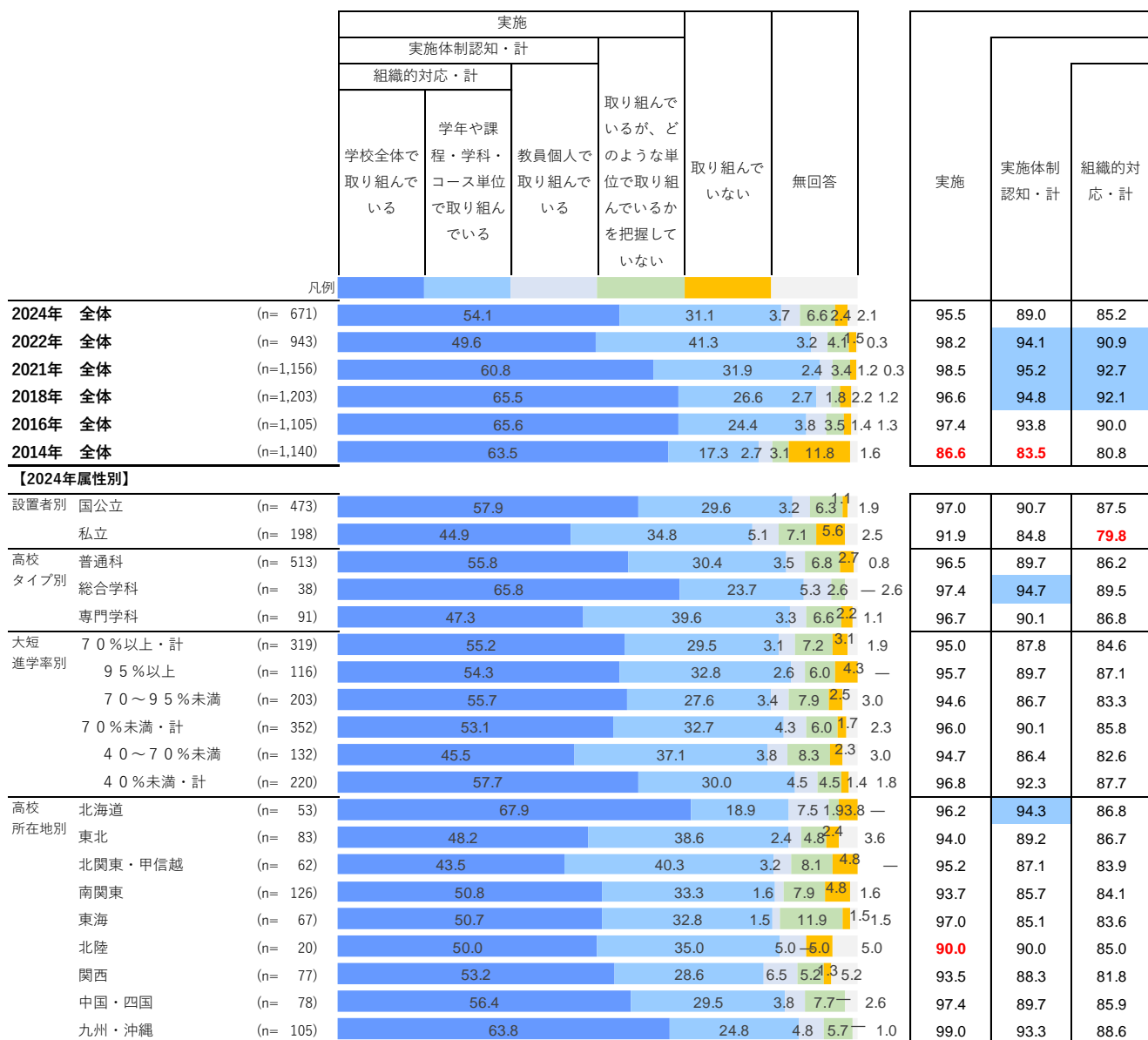
■ 2022年と比較すると、「学校全体」が4ポイント増加した一方、「学年や課程・学科・コース単位」が10ポイント大きく減少し「組織的対応・計」では6ポイント減少して85%。経年変化でみると、8割台となるのは2014年以降10年ぶりの低い水準。

- 設置者別にみると、国公立は「学校全体」が58%と私立と比較して高い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科は「学校全体」が66%と全体と比べて10ポイント以上高い。
- 大短進学率別にみると、進学率40~70%未満の高校で「学校全体」が46%と低い。
- 高校所在地別にみると、北海道と九州・沖縄で「学校全体」が6割を超えて他地域と比較して高い。

■キャリア教育の実施体制（全体／単一回答）

(%)

貴校でのキャリア教育は、どの単位で取り組まれていますか。



※全体値と比較して ■+10pt以上高い / ■+5pt以上高い / ■0.0-5pt以上低い

Q42

<フリーアンサー>特に力を入れているキャリア教育

■ インターンシップ・職業体験の実施

● 大短進学率70%以上

- ・職業人を招いての講話 インターンシップ[鹿児島/県立/普通科と他学科併設]
- ・医療体験の充実[大阪/私立/普通科]
- ・職業体験、学校体験[愛知/県立/普通科]

● 大短進学率70%未満

- ・高等部は社会への橋渡しと考えており、さまざまな業種でのインターンを実施している。[神奈川/私立/普通科]
- ・農業体験を2年生で、インターンシップを3年生で行なっている。[北海道/道立/普通科]
- ・現場の声を聞けるようにインターンシップやガイダンス、講話等を行なっている。[青森/県立/専門学科]

■ 職業観の育成

● 大短進学率70%以上

- ・職業観育成講座分野別教養講座[宮崎/県立/普通科]
- ・卒業生による講演など職業観の育成[京都/私立/普通科]
- ・職業観と、それに結びつく学問選択[埼玉/県立/普通科]

● 大短進学率70%未満

- ・社会的能力の育成職業観・勤労観の育成[福岡/県立/総合学科]
- ・実業高校なので、社会人として役立つ人材をめざす[高知/県立/専門学科]
- ・職業観の醸成、進路意識の向上、基礎学力の向上・定着[石川/県立/その他]

■ 自己分析

● 大短進学率70%以上

- ・自分の適性を発見すること[神奈川/私立/普通科]
- ・自己理解と上級学校研究[東京/私立/普通科]
- ・学校設定教科に「キャリア」を設置し、外部機関と連携しながら取り組んでいる[神奈川/市立/普通科]

● 大短進学率70%未満

- ・自己理解・自己管理能力の育成 人間関係形成・社会形成能力[山形/県立/普通科と他学科併設]
- ・自分を知り、社会を知る[千葉/私立/普通科と他学科併設]
- ・外部講話キャリアインサイトで自己分析教師への働きかけ[沖縄/私立/普通科]

■ 進路ガイダンスの実施

● 大短進学率70%以上

- ・職業講話（各界で活躍するOBを招聘し、希望分野の話を聞く）大学学部ガイダンス（10～12大学を招聘し、分野別のガイダンスを行う）[静岡/県立/普通科と他学科併設]
- ・上級学校のみだけでなく、職業人も招待して進学ガイダンスを実施している[長崎/私立/普通科]

● 大短進学率70%未満

- ・SSH指定を受けていることに伴う、講座、研修などのイベントの実施[鹿児島/県立/普通科]
- ・各種学校行事 進路ガイダンス インターンシップ[富山/県立/普通科と他学科併設]
- ・進路ガイダンスやインターンシップ[秋田/私立/普通科]

■ 大学や企業と連携したプログラム

● 大短進学率70%以上

- ・大学での研究紹介や企業と連携した探究学習など。[兵庫/私立/普通科]
- ・大学との連携事業。卒業生を活用した進路講話事業。[宮城/県立/普通科と他学科併設]

● 大短進学率70%未満

- ・社会で働く人や、大学の教授、先輩や地域の人達との交流[栃木/県立/普通科]
- ・高大連携事業をはじめとする外部機関との積極的連携。[岩手/市立/普通科と他学科併設]

■ その他

● 大短進学率70%以上

- ・どういう人生を生きていきたいかを問う機会[神奈川/市立/その他]

● 大短進学率70%未満

- ・3年次で実施する課題探究活動に向け、1年次・2年次で基礎を固めて3年次で本格的に力を発揮できるようなカリキュラムを設定している。[北海道/道立/総合学科]

3. キャリア教育の実施時間

- キャリア教育を実施する時間は「総合的な探究（学習）の時間」が74%でトップ。以下、「ホームルーム活動」（61%）が続き、上位2項目が突出している。
- 時系列で見ると、上位項目に大きな変化はみられないが、全般的に2022年からスコアが低下している。なかでも「ホームルーム活動」は7ポイント低下した。
 - 「教科の時間」「長期休暇（春・夏・冬休み等）の課題として」「修学旅行や遠足」は緩やかな低下傾向。

■ キャリア教育の実施時間（キャリア教育実施校／複数回答）

貴校では、キャリア教育をどの時間で実施していますか。

	2024年 全体										2022年 全体										2021年 全体										2018年 全体										2016年 全体										2014年 全体										2012年 全体										2010年 全体										2008年 全体									
	%		順位		%		順位		%		順位		%		順位		%		順位		%		順位		%		順位		%		順位		%		順位		%		順位																																																			
総合的な探究（学習）の時間	73.6	1	77.6	1	78.9	1	77.5	1	79.5	1	79.8	1	77.8	1	77.1	1	73.0	1																																																																								
教科の時間	15.9	5	18.5	5	19.2	4	22.6	5	22.5	5	29.2	4	22.8	5	16.0	5	14.3	3																																																																								
キャリア・ガイダンス等を内容とする学校設定科目	13.7	6	15.3	6	16.6	6	12.6	8	7.8	11	8.5	11	7.8	11	6.0	10	*	*																																																																								
生徒会活動	4.2	12	6.2	10	6.2	11	10.8	9	9.9	9	9.6	9	9.6	9	4.8	11	3.1	5																																																																								
部活動の時間	5.0	11	5.6	11	6.9	10	7.0	12	9.8	10	9.1	10	7.6	12	4.3	12	2.8	6																																																																								
ホームルーム活動	60.8	2	67.6	2	67.3	2	56.7	2	66.1	2	64.4	2	75.2	2	70.7	2	66.3	2																																																																								
ショートホームルーム	7.3	9	9.5	9	8.8	9	8.3	10	10.4	8	10.4	8	10.6	8	7.4	8	*	*																																																																								
文化祭や体育祭等の学校行事	11.5	8	13.0	8	12.8	8	16.4	7	15.7	7	16.3	7	15.7	7	8.9	7	*	*																																																																								
長期休暇（春・夏・冬休み等）の課題として	16.7	4	18.9	4	19.2	4	23.1	4	24.2	4	24.7	5	27.9	4	22.1	4	*	*																																																																								
修学旅行や遠足	13.1	7	14.8	7	14.9	7	17.0	6	18.7	6	18.6	6	17.6	6	11.5	6	*	*																																																																								
宗教・道徳等の時間	1.2	13	1.2	13	1.5	13	1.5	13	1.5	13	1.9	13	2.1	13	1.4	13	*	*																																																																								
普通の学校生活全般の中で	23.4	3	24.6	3	27.8	3	24.5	3	26.7	3	30.6	3	31.6	3	26.9	3	*	*																																																																								
その他	6.6	10	5.0	12	4.4	12	7.2	11	6.4	12	7.4	12	9.3	10	6.2	9	14.0	4																																																																								
無回答	0.3		—		—		0.6		0.3		—		—		—		—																																																																									

※「*」は該当の項目なし

Q44

- 設置者別にみると、私立で「総合的な探究（学習）の時間」「長期休暇（春・夏・冬休み等）の課題として」「普段の学校生活全般の中で」が全体と比較して低い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科は「総合的な探究（学習）の時間」「キャリア・ガイダンス等を内容とする学校設定科目」、専門学科は「教科の時間」「ホームルーム活動」が全体と比較して特に高い。
- 大短進学率別にみると、進学率が高い高校ほど「長期休暇（春・夏・冬休み等）の課題として」「修学旅行や遠足」が高くなる傾向。
- 高校所在地別にみると、北海道と北関東・甲信越で全体と比較して高い項目が多く、北海道では「教科の時間」が特に高く、「総合的な探究（学習）の時間」「ショートホームルーム」「普段の学校生活全般の中で」が高い。北関東・甲信越では「ホームルーム活動」が特に高く、「部活動の時間」「文化祭や体育祭等の学校行事」「長期休暇（春・夏・冬休み等）の課題として」が高い。

■キャリア教育の実施時間（キャリア教育実施校／複数回答）

(%)

貴校では、キャリア教育をどの時間で実施していますか。

	設置者別			高校タイプ別			大短進学率別						高校所在地別									
	2024年全体 (n=641)	国公立 (n=459)	私立 (n=182)	普通科 (n=495)	総合学科 (n=37)	専門学科 (n=88)	70%以上・計 (n=303)	70%~95%以上 (n=111)	70%未満 (n=192)	70%未満・計 (n=338)	40%~70%未満 (n=125)	40%未満・計 (n=213)	北海道 (n=51)	東北 (n=78)	北関東・甲信越 (n=59)	南関東 (n=118)	東海 (n=65)	北陸 (n=18)	関西 (n=72)	中国・四国 (n=76)	九州・沖縄 (n=104)	
総合的な探究（学習）の時間	73.6	76.0	67.6	78.0	94.6	44.3	75.6	73.0	77.1	71.9	76.0	69.5	82.4	70.5	76.3	76.3	75.4	61.1	65.3	76.3	72.1	
教科の時間	15.9	17.6	11.5	11.7	24.3	35.2	12.9	16.2	10.9	18.6	8.8	24.4	27.5	15.4	8.5	15.3	13.8	16.7	13.9	15.8	18.3	
キャリア・ガイダンス等を内容とする学校設定科目	13.7	13.3	14.8	11.7	35.1	15.9	9.6	11.7	8.3	17.5	18.4	16.9	7.8	11.5	10.2	19.5	16.9	5.6	12.5	13.2	14.4	
生徒会活動	4.2	5.2	1.6	4.2	2.7	4.5	5.0	8.1	3.1	3.6	3.2	3.8	7.8	1.3	5.1	4.2	4.6	5.6	2.8	5.3	3.8	
部活動の時間	5.0	5.4	3.8	4.8	5.4	5.7	5.6	6.3	5.2	4.4	4.0	4.7	5.9	3.8	11.9	2.5	6.2	—	5.6	3.9	4.8	
ホームルーム活動	60.8	61.0	60.4	61.2	43.2	71.6	61.4	58.6	63.0	60.4	56.8	62.4	51.0	59.0	71.2	61.0	52.3	50.0	62.5	63.2	65.4	
ショートホームルーム	7.3	7.4	7.1	7.3	—	11.4	7.9	8.1	7.8	6.8	7.2	6.6	13.7	3.8	3.4	6.8	7.7	5.6	4.2	10.5	9.6	
文化祭や体育祭等の学校行事	11.5	12.6	8.8	11.7	13.5	10.2	12.2	18.0	8.9	10.9	11.2	10.8	15.7	9.0	16.9	8.5	12.3	11.1	5.6	10.5	16.3	
長期休暇（春・夏・冬休み等）の課題として	16.7	19.0	11.0	17.4	21.6	13.6	19.1	21.6	17.7	14.5	16.8	13.1	7.8	11.5	22.0	21.2	21.5	16.7	19.4	11.8	15.4	
修学旅行や遠足	13.1	12.0	15.9	13.5	8.1	13.6	16.5	20.7	14.1	10.1	12.8	8.5	15.7	9.0	11.9	12.7	4.6	22.2	15.3	13.2	18.3	
宗教・道徳等の時間	1.2	—	4.4	1.6	—	—	2.3	4.5	1.0	0.3	0.8	—	—	—	—	2.5	1.5	—	1.4	2.6	1.0	
普段の学校生活全般の中で	23.4	25.9	17.0	22.8	21.6	25.0	24.4	27.0	22.9	22.5	20.0	23.9	31.4	17.9	23.7	23.7	18.5	27.8	25.0	27.6	21.2	
その他	6.6	6.1	7.7	5.7	16.2	8.0	6.9	5.4	7.8	6.2	4.8	7.0	9.8	6.4	6.8	6.8	6.2	11.1	4.2	2.6	8.7	
無回答	0.3	0.2	0.5	—	—	—	0.3	—	0.5	0.3	0.8	—	—	—	—	—	1.5	—	—	—	1.0	

※全体値と比較して ■+10pt以上高い / ■+5pt以上高い / ■0.0-5pt以上低い

※グレー文字：サンプル数20未満のため参考値

Q44

4. キャリア教育の見直し

■ 特別活動を要としたキャリア教育の見直しについて、「見直しが完了／考えている・計」が41%。

■ 2022年と比較して「すでに見直しが完了している」は4ポイント増加、経年からも増加傾向にあり、「見直しを考えている」までを合わせた「見直しが完了／考えている・計」の割合も増加傾向にある。

- 全体のうち13%は「すでに見直しが完了している」と回答。
- 高校タイプ別にみると、総合学科は「見直しが完了／考えている・計」が55%で全体と比較して高い。一方で専門学科は34%と低い。
- 大短進学率別にみると、進学率が低い高校ほど「見直しが完了／考えている・計」のスコアがやや高め。
- 高校所在地別にみると、九州・沖縄で「見直しが完了／考えている・計」のスコアが全体と比較して高く、東北、中国・四国では低い。

■ 特別活動を要としたキャリア教育の見直し（全体／単一回答）

(%)

今回の新しい学習指導要領では、特別活動を要として「キャリア教育の充実を図ること」が明記されました。

これによって、貴校ではキャリア教育の取組や実施時間の見直しを検討していますか。

凡例	見直しが完了／考えている・計*2		まだよくわからない	変える予定はない	無回答	見直しが完了／考えている・計*2
	すでに見直しが完了している*1	見直しを考えている				
2024年 全体 (n= 671)	13.3	27.3	41.9	15.2	2.4	40.5
2022年 全体 (n= 943)	9.3	27.1	49.8	13.3	0.4	36.5
2021年 全体 (n=1,156)	27.9	51.1	19.6	1.5	—	27.9
2018年 全体 (n=1,162)	9.9	70.7	17.9	1.5	—	9.9
【2024年属性別】						
設置者別 国公立 (n= 473)	14.0	27.3	41.0	15.6	2.1	41.2
私立 (n= 198)	11.6	27.3	43.9	14.1	3.0	38.9
高校タイプ別 普通科 (n= 513)	13.8	27.9	43.1	14.4	0.8	41.7
総合学科 (n= 38)	21.1	34.2	28.9	15.8	—	55.3
専門学科 (n= 91)	7.7	26.4	47.3	17.6	1.1	34.1
大短進学率別 70%以上・計 (n= 319)	14.7	22.9	43.3	16.6	2.5	37.6
95%以上 (n= 116)	17.2	16.4	43.1	23.3	—	33.6
70~95%未満 (n= 203)	13.3	26.6	43.3	12.8	3.9	39.9
70%未満・計 (n= 352)	11.9	31.3	40.6	13.9	2.3	43.2
40~70%未満 (n= 132)	9.8	32.6	43.2	12.1	2.3	42.4
40%未満・計 (n= 220)	13.2	30.5	39.1	15.0	2.3	43.6
高校所在地別 北海道 (n= 53)	11.3	34.0	35.8	15.1	3.8	45.3
東北 (n= 83)	12.0	20.5	49.4	15.7	2.4	32.5
北関東・甲信越 (n= 62)	11.3	33.9	38.7	16.1	—	45.2
南関東 (n= 126)	18.3	24.6	33.3	21.4	2.4	42.9
東海 (n= 67)	11.9	26.9	49.3	9.0	3.0	38.8
北陸 (n= 20)	5.0	35.0	50.0	5.0	5.0	40.0
関西 (n= 77)	14.3	22.1	44.2	15.6	3.9	36.4
中国・四国 (n= 78)	10.3	23.1	52.6	11.5	2.6	33.3
九州・沖縄 (n= 105)	14.3	34.3	35.2	15.2	1.0	48.6
「キャリア教育」取組体制 取り組んでいる・計 (n= 641)	13.9	27.6	42.7	14.8	0.9	41.5
実施体制認知・計 (n= 597)	14.7	28.5	40.5	15.2	1.0	43.2
学校全体・学年・課程・計 (n= 572)	15.4	29.2	39.2	15.2	1.0	44.6
学校全体 (n= 363)	19.8	30.0	33.3	15.7	1.1	49.9
学年や課程・学科・コース単位 (n= 209)	7.7	27.8	49.3	14.4	1.0	35.4
教員個人 (n= 25)	12.0	72.0	16.0	—	—	12.0
実施体制不明 (n= 44)	2.3	15.9	72.7	9.1	—	18.2
取り組んでいない (n= 16)	—	37.5	31.3	31.3	—	37.5

※全体値と比較して ■+10pt以上高い / ■+5pt以上高い / ■0.0-5pt以上低い

※グレー文字：サンプル数20未満のため参考値

※*1：「すでに見直しが完了している」は2022年から追加した選択肢

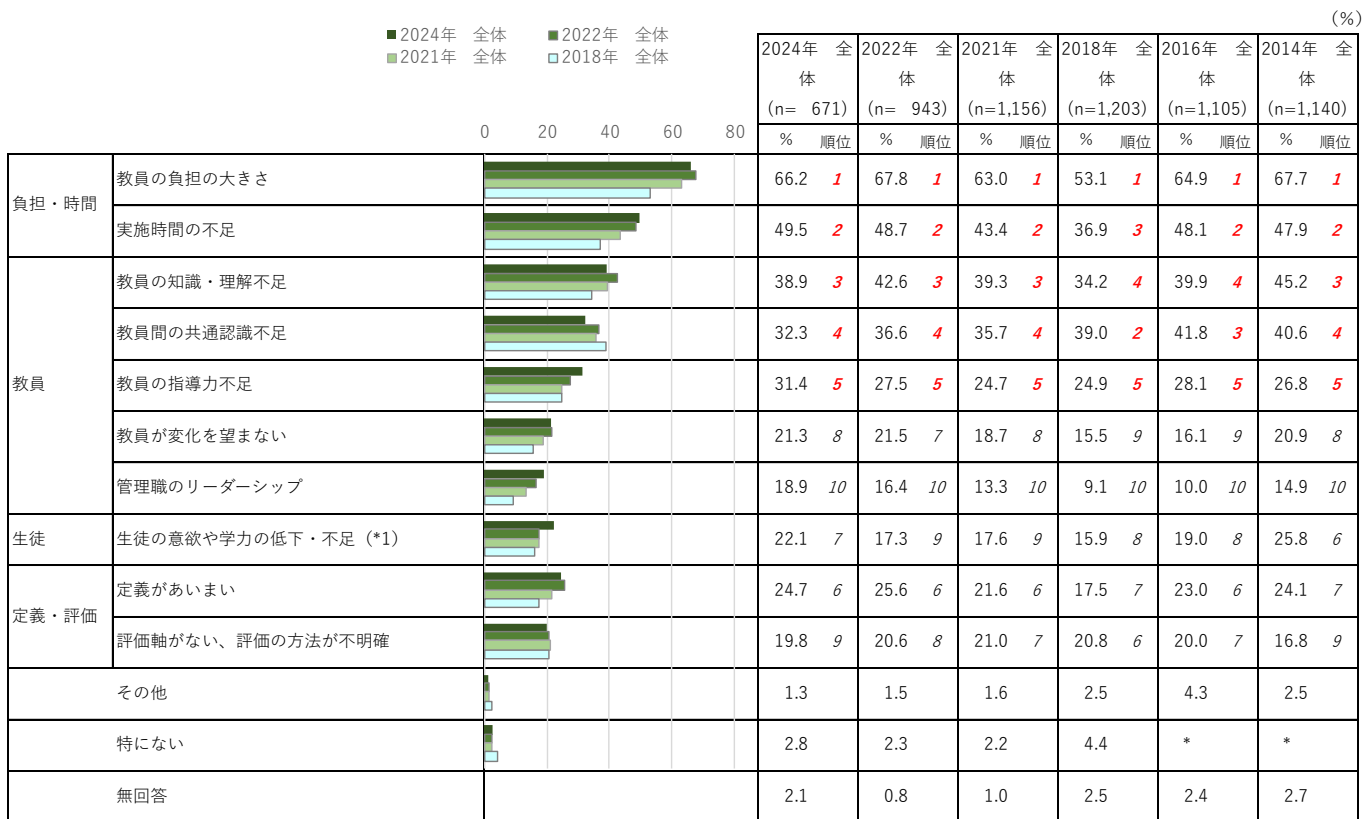
※*2：2021年以前の小計は、「見直しを考えている」のスコア

5. キャリア教育を進めていく上での今後の課題

- キャリア教育の今後の課題は「教員の負担の大きさ」が66%でやや突出。
- 2022年と比較して上位の順位に変動はない。2014年からの経年比較でも、順位の入替えがあるものの、大きな変化はない。
- 上位項目では「実施時間の不足」「教員の指導力不足」が過去最高のスコア。

■ キャリア教育の今後の課題（全体／複数回答）

貴校においてキャリア教育を進めていくにあたり、今後の課題として感じているものがあれば教えてください。



小計	課題あり・計	95.1	96.8	96.7	93.1	97.6	97.3
	負担・時間・計	79.9	79.7	76.6	66.8	77.6	77.7
	教員・計	64.8	68.6	65.3	60.3	68.7	68.5
	生徒	22.1	17.3	17.6	15.9	19.0	25.8
	定義・評価・計	33.7	36.1	34.3	32.1	36.0	33.4

※カテゴリーごとに降順ソート

※2014～2016年は、進路指導を「非常に難しいと感じている」「やや難しいと感じている」回答者による困難の要因

※「*」は該当の項目なし

※*1：2022年までは「生徒の意欲や学力の低下・欠如」

- 設置者別にみると、私立は【教員】に関する項目で国公立と比較してスコアが高く、特に「教員の指導力不足」は8ポイントの差がある。
- 高校タイプ別にみると、総合学科は「教員の負担の大きさ」「生徒の意欲や学力の低下・不足」が全体と比較して特に高い。
- 大短進学率別にみると、進学率40～70%未満の高校で【教員】に関する項目が全体と比較して高く、「教員の知識・理解不足」は特に高い。また、進学率が低い高校ほど「生徒の意欲や学力の低下・不足」のスコアが高い。
- 高校所在地別にみると、南関東で【教員】に関する項目が全体と比較して高い。北海道と中国・四国は「生徒の意欲や学力の低下・不足」のスコアが全体と比較して特に高い。

■キャリア教育の今後の課題（全体/複数回答）

貴校においてキャリア教育を進めていくにあたり、今後の課題として感じているものがあれば教えてください。

	2024年全体 (n=673)	設置者別		高校タイプ別						大短進学率別										高校所在地別										キャリア教育取り組み体制別									
		国公立 (n=473)	私立 (n=198)	普通科 (n=513)	総合学科 (n=38)	専門学科 (n=91)	70%以上・計 (n=319)	70%~95%未満 (n=118)	40%~70%未満・計 (n=362)	40%未満・計 (n=132)	北海道 (n=53)	東北 (n=80)	北関東・甲信越 (n=62)	南関東 (n=126)	東海 (n=67)	北陸 (n=29)	関西 (n=77)	中国・四国 (n=78)	九州・沖縄 (n=165)	取り組んでいる・計 (n=641)	学校全体の体制 (n=597)	学年・コース単位 (n=572)	学年・全校単位 (n=363)	学年・個人 (n=208)	不明 (n=29)	取り組んでいない (n=44)	不明 (n=31)												
負担・時間	66.2	66.0	66.7	66.7	81.6	64.8	66.1	62.9	68.0	66.2	65.2	66.8	64.2	59.0	64.5	65.1	71.6	75.0	62.3	67.9	71.4	67.4	67.3	66.4	66.4	66.5	88.0	68.2	56.3										
教員の負担の大きさ	49.5	48.2	52.5	53.4	39.5	34.1	56.1	60.3	53.7	43.5	50.0	39.5	43.4	51.8	54.8	50.0	50.7	45.0	45.5	47.4	51.4	50.4	50.8	50.0	47.9	53.6	68.0	45.5	50.0										
教員	38.9	37.4	42.4	41.1	44.7	29.7	37.6	31.9	40.9	40.1	52.3	32.7	37.7	28.9	35.5	46.0	46.3	25.0	31.2	42.3	41.9	39.3	38.2	37.1	35.8	39.2	64.0	54.5	50.0										
教員の知識・理解不足	32.3	30.7	36.4	33.3	36.8	28.6	31.7	27.6	34.0	33.0	39.4	29.1	30.2	21.7	40.3	37.3	29.9	25.0	33.8	34.6	31.4	32.8	32.5	32.3	33.1	31.1	36.0	36.4	37.5										
教員間の共通認識不足	31.4	29.0	37.4	33.7	34.2	23.1	31.3	28.4	33.0	31.5	39.4	26.8	35.8	22.9	35.5	38.1	29.9	15.0	26.0	30.8	34.3	31.5	31.3	30.8	28.9	34.0	44.0	34.1	56.3										
教員の指導力不足	21.3	21.4	21.2	20.7	28.9	26.4	17.2	16.4	17.7	25.0	30.3	21.8	18.9	21.7	19.4	27.0	25.4	15.0	15.6	19.2	21.0	21.2	21.3	20.5	19.6	22.0	40.0	20.5	37.5										
教員が変化を望まない	18.9	17.8	21.7	19.9	15.8	16.5	20.1	17.2	21.7	17.9	23.5	14.5	13.2	19.3	22.6	21.4	17.9	35.0	13.0	17.9	19.0	19.0	17.8	17.0	16.8	17.2	36.0	36.4	25.0										
管理職のリーダーシップ	22.1	23.7	18.2	20.3	39.5	25.3	15.4	10.3	18.2	28.1	18.9	33.6	39.6	14.5	22.6	14.3	22.4	25.0	16.9	33.3	22.9	22.8	22.8	22.7	22.0	23.9	24.0	22.7	12.5										
生徒	22.1	23.7	18.2	20.3	39.5	25.3	15.4	10.3	18.2	28.1	18.9	33.6	39.6	14.5	22.6	14.3	22.4	25.0	16.9	33.3	22.9	22.8	22.8	22.7	22.0	23.9	24.0	22.7	12.5										
生徒の意欲や学力の低下・不足 (*1)	24.7	25.2	23.7	25.7	23.7	25.3	25.1	27.6	23.6	24.4	22.0	25.9	32.1	24.1	32.3	23.0	34.3	15.0	16.9	24.4	21.0	24.8	23.5	23.3	19.6	29.7	28.0	43.2	37.5										
定義・評価	19.8	20.9	17.2	19.5	21.1	23.1	19.1	18.1	19.7	20.5	22.0	19.5	22.6	13.3	24.2	19.0	19.4	30.0	22.1	20.5	18.1	20.0	19.3	19.1	17.1	22.5	24.0	29.5	25.0										
評価軸がない、評価の方法が不明確	1.3	1.5	1.0	1.2	7.9	—	0.9	0.9	1.0	1.7	2.3	1.4	1.9	2.4	—	0.8	—	5.0	1.3	1.3	1.9	1.4	1.3	1.2	1.4	1.0	4.0	2.3	—										
その他	2.8	3.0	2.5	2.7	—	4.4	2.5	4.3	1.5	3.1	2.3	3.6	3.8	1.2	3.2	2.4	1.5	—	6.5	—	4.8	2.7	2.7	2.8	4.1	0.5	—	2.3	6.3										
特になし	2.1	2.1	2.0	0.2	—	2.2	1.6	—	2.5	2.6	2.3	2.7	5.7	2.4	—	0.8	3.0	5.0	2.6	2.6	1.0	0.6	0.7	0.7	0.8	0.5	—	—	—										
無回答	95.1	94.9	95.5	97.1	100.0	93.4	95.9	95.7	96.1	94.3	95.5	93.6	90.6	96.4	96.8	96.8	95.5	95.0	90.9	97.4	94.3	96.7	96.6	96.5	95.0	99.0	100.0	97.7	93.8										
課題あり・計	79.9	80.1	79.3	81.5	86.8	75.8	82.4	82.8	82.3	77.6	77.3	77.7	77.4	79.5	82.3	79.4	82.1	80.0	76.6	78.2	82.9	81.3	81.4	80.9	79.9	82.8	92.0	79.5	75.0										
負担・時間・計	64.8	63.6	67.7	67.6	68.4	58.2	63.6	54.3	69.0	65.9	77.3	59.1	54.7	61.4	67.7	71.4	61.2	75.0	58.4	66.7	66.7	65.7	65.2	64.3	63.4	66.0	84.0	72.7	68.8										
教員・計	22.1	23.7	18.2	20.3	39.5	25.3	15.4	10.3	18.2	28.1	18.9	33.6	39.6	14.5	22.6	14.3	22.4	25.0	16.9	33.3	22.9	22.8	22.8	22.7	22.0	23.9	24.0	22.7	12.5										
生徒	33.7	34.9	30.8	33.9	39.5	35.2	33.5	34.5	33.0	33.8	33.3	34.1	37.7	27.7	38.7	31.0	40.3	30.0	29.9	35.9	34.3	34.0	32.7	32.2	28.4	38.8	44.0	52.3	43.8										
定義・評価・計																																							

※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/□0.0-5pt以上低い

※カテゴリーごとに降順ソート

※グレー文字：サンプル数20未満のため参考値

※*1：2022年までは「生徒の意欲や学力の低下・欠如」

1. 大学・短期大学に期待すること

- 大学・短期大学に期待することは「実際の講義・研究に高校生が触れる機会の増加」が47%でトップ、以下「就職実績の公開」(45%)、「わかりやすい学部・学科名称」(43%)が続く。
- 2022年と比較してみると、上位の項目では「入試の種類抑制」が9位から5位になったが、4位の「卒業時に身につく能力の明確化」が7位に下降している。

■大学・短期大学に期待すること（全体／複数回答）

以下の中で、貴校が大学・短期大学に期待するのはどのようなことですか。

■ 2024年 全体 ■ 2022年 全体
■ 2021年 全体 □ 2018年 全体

		2024年	2022年	2021年	2018年	2016年	2014年	2012年	2010年	2008年
		全体 (n= 671)	全体 (n= 943)	全体 (n=1,156)	全体 (n=1,203)	全体 (n=1,105)	全体 (n=1,140)	全体 (n=1,179)	全体 (n=1,208)	全体 (n= 910)
		% 順位	% 順位	% 順位	% 順位	% 順位	% 順位	% 順位	% 順位	% 順位
個別選抜について	基礎学力を問う入試の拡大（知識・技能）	42.5 4	41.6 5	32.3 9	28.3 10	* *	* *	* *	* *	* *
	入試の種類抑制	40.2 5	37.4 9	28.1 13	29.8 9	39.3 1	39.6 1	37.9 2	36.3 2	39.6 1
	わかりやすい入学受け入れ方針	35.8 8	38.1 8	49.7 4	43.8 1	* *	* *	* *	* *	* *
	主体性等の評価方法の明確化	19.2 15	28.0 12	30.3 11	37.2 5	* *	* *	* *	* *	* *
	思考力・判断力等を評価する入試の拡大	18.6 16	18.6 15	25.2 14	13.5 16	16.3 8	13.2 8	15.9 8	14.7 6	13.5 7
	英語外部検定利用入試の拡大	7.9 18	5.7 19	5.9 20	* *	* *	* *	* *	* *	* *
	一般入試で調査書の積極的活用	3.1 21	3.9 20	11.3 18	6.2 18	* *	* *	* *	* *	* *
入学前にについて	実際の講義・研究に高校生が触れる機会の増加	47.1 1	49.2 2	53.5 1	34.7 7	33.0 3	29.7 3	27.7 4	26.5 3	31.9 3
	わかりやすい学部・学科名称	42.8 3	45.0 3	49.9 3	36.7 6	36.6 2	38.6 2	38.8 1	38.7 1	35.4 2
	入学前教育の実施	30.1 12	26.9 13	23.1 15	20.1 14	19.1 7	20.4 6	19.3 7	19.4 5	22.0 5
	高校までの学習歴に関する情報を引き継ぐ仕組みづくり	6.1 19	6.6 18	8.7 19	11.1 17	10.0 9	7.3 10	6.3 10	5.7 9	5.9 9
	飛び級制度の実施	4.5 20	1.7 21	4.2 21	4.0 19	3.7 12	3.4 12	3.5 12	* *	* *
入学後にについて	就職実績の公開	44.6 2	51.4 1	49.7 4	37.4 3	26.2 4	27.7 4	32.9 3	* *	* *
	卒業時に身につく能力の明確化	37.4 7	43.8 4	52.6 2	37.4 3	22.6 5	16.8 7	20.8 6	* *	* *
	寮や奨学金、授業料減免の充実	35.6 9	38.3 7	39.9 7	42.1 2	* *	* *	* *	* *	* *
	中退者（率）情報の公開	32.6 10	34.9 10	34.5 8	30.5 8	20.9 6	22.6 5	21.3 5	20.2 4	22.5 4
	国家試験等の合格率公開	31.1 11	30.3 11	29.3 12	24.0 13	* *	* *	* *	* *	* *
	国際的な取組（留学・外国語の授業の充実）	14.6 17	15.7 17	17.9 16	* *	* *	* *	* *	* *	* *
経営について	大学・短大の情報公開の強化	37.7 6	40.3 6	42.7 6	27.4 11	* *	* *	* *	* *	* *
	「第三者評価」のわかりやすい表現での公開	25.6 13	26.6 14	31.9 10	24.2 12	4.2 11	4.5 11	5.6 11	6.2 8	10.2 8
	経営・財務状況の開示	20.1 14	17.6 16	17.6 17	17.5 15	6.2 10	7.9 9	9.2 9	12.1 7	16.3 6
その他	1.9	1.3	1.6	1.8	3.0	2.8	8.2	7.9	8.4	
無回答	1.9	0.5	1.2	2.7	1.6	3.6	4.8	5.2	3.4	

※カテゴリーごとに降順ソート

※調査年によって設問文が異なる。過去調査の設問文は下記の通り

2018年：以下の中で、貴校が大学・短期大学および文部科学省に期待するのはどのようなことですか。

2008～2016年：高大接続・連携の観点から、貴校が大学・短期大学および文部科学省に期待するのはどのようなことですか。

※「*」は該当の項目なし

- 設置者別にみると、私立は国公立と比較して高い項目が多い。私立で「基礎学力を問う入試の拡大（知識・技能）」「国際的な取り組み（留学・外国語の授業の充実）」が全体と比較して高い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科は「わかりやすい入学者受け入れ方針」「主体性等の評価方法の明確化」「就職実績の公開」が全体と比較して特に高い。
- 大短進学率別にみると、進学率が高い高校では全体と比較してスコアの高い項目が多い。進学率95%以上の高校で「基礎学力を問う入試の拡大（知識・技能）」「入試の種類の抑制」「思考力・判断力等を評価する入試の拡大」「卒業時に身につく能力の明確化」「国際的な取り組み（留学・外国語の授業の充実）」が全体と比較して特に高い。

■大学・短期大学に期待すること（全体/複数回答）

(%)

以下の中で、貴校が大学・短期大学に期待するのはどのようなことですか。

	2024年全体 (n= 671)	設置者別		高校タイプ別			大短進学率別						高校所在地別									
		国公立	私立	普通科	総合学科	専門学科	70%以上・計		70%未満・計		40%~40%未満・計		北海道	東北	北関東		東海	北陸	関西	中国・四国	九州・沖縄	
		(n= 473)	(n= 198)	(n= 513)	(n= 38)	(n= 91)	(n= 319)	(n= 116)	(n= 203)	(n= 352)	(n= 132)	(n= 220)	(n= 53)	(n= 83)	(n= 83)	(n= 62)	(n= 126)	(n= 67)	(n= 20)	(n= 77)	(n= 78)	(n= 105)
個別選抜について	基礎学力を問う入試の拡大（知識・技能）	42.5	40.4	47.5	47.6	31.6	24.2	51.4	54.3	49.8	34.4	37.1	32.7	39.6	42.2	40.3	49.2	47.8	40.0	27.3	46.2	42.9
	入試の種類の抑制	40.2	38.7	43.9	44.4	34.2	26.4	47.6	54.3	43.8	33.5	39.4	30.0	47.2	26.5	41.9	47.6	43.3	75.0	37.7	41.0	30.5
	わかりやすい入学者受け入れ方針	35.8	34.0	39.9	34.5	47.4	45.1	30.4	31.0	30.0	40.6	42.4	39.5	34.0	36.1	37.1	27.8	37.3	25.0	41.6	33.3	43.8
	主体性等の評価方法の明確化	19.2	20.1	17.2	18.1	34.2	23.1	15.7	16.4	15.3	22.4	22.0	22.7	32.1	14.5	14.5	18.3	19.4	10.0	16.9	15.4	26.7
	思考力・判断力等を評価する入試の拡大	18.6	17.8	20.7	21.2	7.9	13.2	25.4	29.3	23.2	12.5	12.1	12.7	22.6	18.1	17.7	16.7	20.9	20.0	18.2	19.2	18.1
	英語外部検定利用入試の拡大	7.9	6.1	12.1	9.2	13.2	—	10.3	8.6	11.3	5.7	9.8	3.2	3.8	4.8	4.8	12.7	10.4	10.0	9.1	1.3	10.5
	一般入試で調査書の積極的活用	3.1	2.3	5.1	3.7	—	2.2	3.1	2.6	3.4	3.1	3.8	2.7	3.8	2.4	—	4.8	—	5.0	3.9	1.3	5.7
入学前について	実際の講義・研究に高校生が触れる機会の増加	47.1	46.1	49.5	49.3	39.5	44.0	51.7	54.3	50.2	42.9	43.9	42.3	47.2	48.2	45.2	49.2	46.3	45.0	44.2	48.7	46.7
	わかりやすい学部・学科名称	42.8	41.0	47.0	43.9	52.6	38.5	42.0	51.7	36.5	43.5	49.2	40.0	39.6	42.2	43.5	46.0	47.8	60.0	40.3	39.7	38.1
	入学前教育の実施	30.1	29.2	32.3	31.6	31.6	25.3	30.4	19.8	36.5	29.8	34.1	27.3	30.2	26.5	33.9	31.0	28.4	35.0	31.2	21.8	35.2
	高校までの学習歴に関する情報を引き継ぐ仕組みづくり	6.1	5.9	6.6	6.4	5.3	6.6	6.6	7.8	5.9	5.7	4.5	6.4	7.5	3.6	4.8	7.1	4.5	—	6.5	3.8	10.5
	飛び級制度の実施	4.5	3.2	7.6	5.1	2.6	3.3	6.0	9.5	3.9	3.1	3.8	2.7	5.7	—	6.5	5.6	—	5.0	9.1	2.6	5.7
入学後について	就職実績の公開	44.6	46.1	40.9	43.9	55.3	48.4	43.3	39.7	45.3	45.7	47.0	45.0	35.8	47.0	41.9	50.8	46.3	45.0	45.5	32.1	48.6
	卒業時に身につく能力の明確化	37.4	35.9	40.9	39.6	31.6	34.1	40.8	50.0	35.5	34.4	36.4	33.2	22.6	37.3	41.9	34.9	38.8	45.0	35.1	44.9	39.0
	寮や奨学金、授業料減免の充実	35.6	36.6	33.3	35.9	28.9	38.5	34.8	37.1	33.5	36.4	34.8	37.3	39.6	47.0	33.9	24.6	35.8	35.0	44.2	28.2	38.1
	中退者（率）情報の公開	32.6	32.6	32.8	32.7	39.5	31.9	28.8	28.4	29.1	36.1	40.2	33.6	37.7	25.3	22.6	30.2	38.8	25.0	45.5	32.1	33.3
	国家試験等の合格率公開	31.1	30.0	33.8	33.3	36.8	23.1	31.7	31.0	32.0	30.7	37.9	26.4	26.4	27.7	30.6	42.1	26.9	40.0	26.0	24.4	33.3
	国際的な取組（留学・外国語の授業の充実）	14.6	12.5	19.7	18.1	2.6	2.2	23.8	34.5	17.7	6.3	11.4	3.2	9.4	7.2	19.4	22.2	17.9	15.0	16.9	6.4	13.3
経営について	大学・短大の情報公開の強化	37.7	37.0	39.4	40.2	34.2	31.9	42.6	44.0	41.9	33.2	34.1	32.7	34.0	39.8	41.9	35.7	31.3	35.0	39.0	35.9	42.9
	「第三者評価」のわかりやすい表現での公開	25.6	25.4	26.3	26.3	21.1	22.0	22.9	27.6	20.2	28.1	32.6	25.5	28.3	24.1	22.6	29.4	26.9	25.0	22.1	24.4	25.7
	経営・財務状況の開示	20.1	20.3	19.7	20.9	26.3	16.5	22.9	21.6	23.6	17.6	22.0	15.0	17.0	18.1	22.6	19.0	22.4	25.0	24.7	20.5	17.1
その他	1.9	1.9	2.0	2.1	2.6	1.1	2.5	3.4	2.0	1.4	1.5	1.4	—	1.2	1.6	4.8	3.0	—	—	2.6	1.0	
無回答	1.9	1.7	2.5	—	—	1.1	1.6	—	2.5	2.3	2.3	2.3	3.8	—	—	1.6	3.0	5.0	2.6	2.6	1.9	

※カテゴリごとに降順ソート ※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/0.0-5pt以上低い

<フリーアンサー> 大学・短期大学との接続・連携、情報提供・公開についての意見や課題

■ 入試方法や必要書類の明確化

● 大短進学率70%以上

- ・総合型選抜や学校推薦型選抜において、専願か併願の区別をはっきりと示してほしい。あいまいな表現の大学に問い合わせをすると、大学によって扱いが異なる。・学校推薦型選抜の出願要項などが学部ごとに異なる大学があるが、大学で統一してほしい。[東京/私立/普通科]
- ・入試要項や出願書類様式の統一化[兵庫/県立/普通科]
- ・急速に進む少子化の影響で、従来の入試内容のままでは受験生の選抜性が低下し、高校側、受験生側に入試への不満が出てくる可能性がある。[宮城/県立/普通科]
- ・総合型選抜や学校推薦型選抜の要項の書かれ方が多様過ぎて、教員が生徒一人ひとりの受験方式を把握する事が非常に困難。[愛知/私立/普通科]

● 大短進学率70%未満

- ・指定校推薦について、各大学の要項書式や書類提出の方法がバラバラで、生徒指導の面で非常に苦慮している。共通のフォーマット等があれば大変助かると思う。[東京/県立/普通科]
- ・入試に関する情報提供の様式等の統一をおこなってほしい。[愛知/県立/総合学科]

■ 接続・連携に対する要望

● 大短進学率70%以上

- ・学習過程において、大学側の高大接続に対する意識が薄い。また、新学習指導要領に反映している大学入試に対応しているとは言い難く、特に私立大学は知識の確認に偏重した入試になっている。[広島/私立/普通科]
- ・当初企画されていた高大連携と、現在行われている高大連携では、多くの場合で意味合いが違っていると思う。現在行われているのは、大学側が入学者定員を満たすために青田買いに近く、本当の意味の連携を行っているところは少ないのではないだろうか。[埼玉/私立/普通科]
- ・「中高大接続・連携」について、中学生を視野にいたれたプログラムを開発・提示していただきたい。[東京/私立/普通科]
- ・高大連携プログラムに参加した生徒の評価[大分/県立/普通科]

● 大短進学率70%未満

- ・高大連携において、入試実施後も生徒と大学との繋がりを作ってもらいたい[静岡/県立/普通科と他学科併設]

■ IR情報の公開

● 大短進学率70%以上

- ・IRの方法やプロセスなどを公開することによって、大学及び高校のなかで現状の把握と今後の方向性の可視化につながると考えるため、IRの普及が必要だと考える[熊本/県立/普通科]

● 大学進学率70%未満

- ・財務面での情報開示[鹿児島/市立/専門学科]

■ その他

● 大短進学率70%以上

- ・若年層の学力保障[埼玉/県立/普通科]
- ・あまりに大学の先生を忙しくするのはどうか。[佐賀/県立/普通科]

● 大短進学率70%未満

- ・全国の下ランクの大学は必要ない[福島/県立/普通科と他学科併設]
- ・大学・短大が必要以上に多すぎる[埼玉/県立/無回答]

2. 専門学校に期待すること

- 専門学校に期待することは「就職実績の公開」が53%でトップ、次いで「大学・専門職大学との違いの明確化」が45%、「資格取得情報の公開」が40%で続く。
- 2022年と比較すると、上位項目に変化はないものの順位が変動しており、「資格取得情報の公開」が3位、「卒業時に身につく能力の明確化」が4位とそれぞれ順位を上げ、「AO入試の実施時期の見直し」は6ポイント減少し3位から5位と下降した。

■ 専門学校に期待すること（全体／複数回答）

以下の中で、貴校が専門学校に期待するのは、どのようなことですか。

(%)

		2024年 全体 (n= 671)	2022年 全体 (n= 943)	2021年 全体 (n=1,156)	2018年 全体 (n=1,203)	2016年 全体 (n=1,105)	2014年 全体 (n=1,140)	2012年 全体 (n=1,179)	2010年 全体 (n=1,208)	2008年 全体 (n= 910)
		% 順位	% 順位	% 順位	% 順位	% 順位	% 順位	% 順位	% 順位	% 順位
出願について	AO入試の実施時期の見直し	37.6 5	43.4 3	36.7 8	34.5 4	27.4 5	30.9 3	28.1 4	26.4 4	* *
	学力測定の実施	26.5 9	26.7 11	26.5 13	26.7 9	21.9 6	18.8 7	22.8 6	19.0 6	16.5 8
	入学者受け入れ方針の明確化	19.8 14	20.3 14	33.7 10	24.3 12	12.6 9	13.1 9	11.2 9	14.2 9	19.0 7
	AO入試の実施	10.9 15	9.1 15	12.8 15	6.5 17	3.5 13	4.4 13	3.8 12	3.1 12	2.4 11
入学前について	大学・専門職大学との違いの明確化	44.7 2	45.8 2	43.6 4	34.8 3	* *	* *	* *	* *	* *
	業界の最新情報の提供	25.3 10	27.5 10	31.5 11	25.6 11	18.1 7	16.9 8	17.3 8	15.6 8	19.1 6
	実際の授業に高校生が触れる機会の増加	25.0 11	28.2 9	35.1 9	23.9 13	17.3 8	19.6 6	18.2 7	17.3 7	19.3 5
	教員向け説明会の充実	7.6 16	6.7 16	10.8 16	8.8 15	5.6 12	7.1 12	6.3 11	6.9 11	8.0 10
	高校までの学習歴に関する情報を引き継ぐ仕組みづくり	4.0 17	4.1 17	6.2 17	7.1 16	* *	* *	* *	* *	* *
入学後について	就職実績の公開	52.5 1	55.0 1	58.3 1	43.6 1	44.8 1	43.2 1	43.6 1	44.6 1	45.7 1
	資格取得情報の公開	39.9 3	42.1 4	45.8 3	31.3 7	31.2 4	23.6 5	26.9 5	25.6 5	28.6 4
	卒業時に身につく能力の明確化	39.3 4	41.6 5	52.6 2	40.8 2	33.5 3	28.2 4	30.4 2	31.5 2	36.6 2
	国家試験等の合格率公開	36.2 6	38.5 7	41.8 5	32.4 6	* *	* *	* *	* *	* *
	中退者（率）情報の公開	34.3 7	40.1 6	38.8 7	33.7 5	34.3 2	33.4 2	29.9 3	30.9 3	30.9 3
	寮や奨学金、授業料減免の充実	22.5 12	26.7 11	29.2 12	29.8 8	* *	* *	* *	* *	* *
経営について	「第三者評価」のわかりやすい表現での公開	31.7 8	35.5 8	40.7 6	26.4 10	7.8 11	9.2 11	9.4 10	8.5 10	12.9 9
	「職業実践専門課程」の認定校の質の保証	22.1 13	21.1 13	21.8 14	17.8 14	11.8 10	11.1 10	* *	* *	* *
その他		3.7	3.5	1.1	0.5	3.3	2.5	5.9	8.6	8.4
無回答		4.5	2.9	2.2	9.1	8.6	11.9	13.1	12.7	13.4

※カテゴリーごとに降順ソート

※調査年によって設問文が異なる。過去調査での設問文は以下の通り。

2018年：以下の中で、貴校が専門学校および行政に期待するのはどのようなことですか。

2008～2016年：高専接続・連携の観点から、貴校が専門学校および行政に期待するのはどのようなことですか。

※「*」は該当の項目なし

Q49

- 設置者別にみると、上位になる項目は同じだが、私立は全体と比較して低い項目が散見される。
- 高校タイプ別にみると、総合学科は「就職実績の公開」「卒業時に身につく能力の明確化」が全体と比較して特に高い。
- 大短進学率別にみると、一般的に進学率が低い高校でスコアが高い。進学率40～70%未満の高校で「AO入試の実施時期の見直し」「『第三者評価』のわかりやすい表現での公開」が全体と比較して特に高い。
- 高校所在地別にみると、地域によって期待する項目にバラツキがみられる。全体トップの「就職実績の公開」は、東北と北関東・甲信越で全体と比較して高く、逆に北海道、関西、中国・四国では低くなっており差がみられる。

■専門学校に期待すること（全体／複数回答）

(%)

以下の中で、貴校が専門学校に期待するのは、どのようなことですか。

	2024年全体 (n= 671)	設置者別			高校タイプ別			大短進学率別						高校所在地別																													
		国公立 (n= 473)	私立 (n= 198)		普通科 (n= 513)	総合学科 (n= 38)	専門学科 (n= 91)	70%以上・計 (n= 319)	95%以上 (n= 116)	70～95%未満 (n= 203)	70%未満・計 (n= 352)	40～70%未満 (n= 132)	40%未満・計 (n= 220)	北海道 (n= 53)	東北 (n= 83)	北関東・甲信越 (n= 62)	南関東 (n= 126)	東海 (n= 67)	北陸 (n= 20)	関西 (n= 20)	中国・四国 (n= 77)	九州・沖縄 (n= 78)	中国・四国 (n= 78)	九州・沖縄 (n= 105)																			
出願について																																											
	AO入試の実施時期の見直し	37.6	39.7	32.3	36.8	44.7	44.0	32.6	15.5	42.4	42.0	48.5	38.2	37.7	38.6	35.5	27.8	41.8	40.0	54.5	30.8	39.0																					
	学力測定の実施	26.5	27.9	23.2	29.4	21.1	18.7	29.8	27.6	31.0	23.6	29.5	20.0	17.0	34.9	30.6	23.8	29.9	15.0	15.6	29.5	31.4																					
	入学受け入れ方針の明確化	19.8	20.1	19.2	19.1	23.7	25.3	19.1	20.7	18.2	20.5	22.0	19.5	18.9	18.1	19.4	23.0	20.9	20.0	11.7	25.6	19.0																					
	AO入試の実施	10.9	10.4	12.1	10.3	13.2	13.2	6.0	4.3	6.9	15.3	11.4	17.7	26.4	9.6	6.5	12.7	11.9	5.0	10.4	3.8	10.5																					
入学前について																																											
	大学・専門職大学との違いの明確化	44.7	43.8	47.0	46.8	47.4	38.5	45.8	46.6	45.3	43.8	50.0	40.0	34.0	45.8	50.0	38.1	55.2	55.0	42.9	44.9	46.7																					
	業界の最新情報の提供	25.3	27.5	20.2	25.7	18.4	29.7	20.7	16.4	23.2	29.5	32.6	27.7	35.8	26.5	17.7	19.8	20.9	15.0	27.3	32.1	28.6																					
	実際の授業に高校生が触れる機会の増加	25.0	25.2	24.7	24.0	31.6	31.9	21.9	12.9	27.1	27.8	22.0	31.4	17.0	31.3	21.0	26.2	19.4	15.0	32.5	19.2	29.5																					
	教員向け説明会の充実	7.6	7.4	8.1	7.2	13.2	7.7	5.0	4.3	5.4	9.9	7.6	11.4	15.1	4.8	8.1	6.3	6.0	10.0	10.4	2.6	9.5																					
	高校までの学習歴に関する情報を引き継ぎ仕組みづくり	4.0	3.4	5.6	4.5	2.6	3.3	4.4	3.4	4.9	3.7	3.0	4.1	9.4	—	4.8	5.6	1.5	—	3.9	3.8	4.8																					
入学後について																																											
	就職実績の公開	52.5	56.4	42.9	52.2	63.2	57.1	48.3	44.8	50.2	56.3	53.8	57.7	47.2	68.7	58.1	52.4	53.7	50.0	45.5	44.9	49.5																					
	資格取得情報の公開	39.9	42.1	34.8	42.1	39.5	34.1	40.8	38.8	41.9	39.2	43.9	36.4	34.0	37.3	40.3	41.3	47.8	50.0	29.9	43.6	41.0																					
	卒業時に身につく能力の明確化	39.3	41.0	35.4	39.4	50.0	37.4	37.9	41.4	36.0	40.6	40.9	40.5	37.7	37.3	51.6	38.9	37.3	50.0	32.5	39.7	39.0																					
	国家試験等の合格率公開	36.2	39.1	29.3	37.8	42.1	33.0	35.1	33.6	36.0	37.2	40.2	35.5	37.7	38.6	40.3	36.5	41.8	40.0	27.3	35.9	33.3																					
	中退者（率）情報の公開	34.3	38.1	25.3	33.9	42.1	39.6	29.2	24.1	32.0	38.9	40.9	37.7	32.1	44.6	25.8	31.0	37.3	25.0	46.8	29.5	30.5																					
	寮や奨学金、授業料減免の充実	22.5	24.7	17.2	21.4	23.7	30.8	18.2	11.2	22.2	26.4	23.5	28.2	20.8	26.5	16.1	11.1	25.4	30.0	23.4	23.1	33.3																					
経営について																																											
	「第三者評価」のわかりやすい表現での公開	31.7	31.9	31.3	31.8	39.5	31.9	25.4	27.6	24.1	37.5	43.2	34.1	28.3	27.7	33.9	31.0	37.3	25.0	24.7	34.6	37.1																					
	「職業実践専門課程」の認定校の質の保証	22.1	23.9	17.7	22.4	13.2	25.3	22.3	22.4	22.2	21.9	22.7	21.4	22.6	24.1	21.0	23.0	31.3	20.0	22.1	15.4	19.0																					
	その他	3.7	1.7	8.6	4.9	—	—	6.9	15.5	2.0	0.9	0.8	0.9	1.9	1.2	1.6	7.1	3.0	—	5.2	5.1	2.9																					
	無回答	4.5	3.4	7.1	2.5	2.6	2.2	5.0	6.0	4.4	4.0	4.5	3.6	3.8	—	3.2	8.7	3.0	5.0	5.2	5.1	3.8																					

※カテゴリーごとに降順ソート

※全体値と比較して ■+10pt以上高い / ■+5pt以上高い / ■0.0-5pt以上低い

Q49

<フリーアンサー> 専門学校との接続・連携、情報提供・公開についての意見や課題

■ 入試の実施時期に関する課題感

● 大短進学率70%以上

- ・ エントリーと称した青田刈り[青森/県立/普通科と他学科併設]
- ・ 不必要に生徒を焦らせるような言動により、専門学校進学を促すような指導はやめるべき。相談会などで仕入れた個人情報で、生徒個々に連絡をとることはやめるべき[北海道/私立/普通科]
- ・ 夏休み等早期のエントリー（面談）を自粛してほしい[鹿児島/県立/普通科と他学科併設]

● 大短進学率70%未満

- ・ 広島県では、専門学校の出願は10月以降と協定が結ばれており、「青田刈り」はしないことになっている。他県ではそれが無いので、夏休み期間などに出願を焦る生徒もいる。[広島/県立/普通科]
- ・ 青田買いをやめてほしい。[愛媛/県立/普通科と他学科併設]
- ・ 入学者の早期確保のためか、AO入試に特典をつける学校が多く、生徒や保護者の進路決定を急がせている原因になっているのでやめてもらいたい。[山形/県立/総合学科]
- ・ AOエントリー、AO出願の期日をもっと遅くするべき。10月以降[愛知/県立/普通科]

■ 就職実績の公開

● 大短進学率70%以上

- ・ 就職実態などを正確に示してもらいたい。[岡山/県立/普通科]

● 大短進学率70%未満

- ・ 上記のほかに、ではないですが就職実績や中退者数(率)の公開についてです。とくに就職実績は「就職希望者」を分母とし100%をうたっている学校が見受けられます。パンフレットに書いてあれば生徒には魅力的に映りますが、学生数を分母にしたいと思っています。・在学にかかる費用について、入学金と学費のみパンフレットに載っていて実習費や設備費など入学しないとわからないような学校があります。また学校によって記載の方法が違うため生徒も保護者も気にしている所ですので、概算でも出してほしいです。・男女比についても情報提供が欲しいです。特に保育士や看護師といった女性の多い業種を目指す男子生徒は気にしている所です。・就職先は年度別での公開をしてほしいと思っています。・学校推薦型選抜(指定校)を多数いただいています。基準(条件)などを記載していただいている用紙が学校ごとに仕様が異なるため生徒への公開のための準備に膨大な時間を割いています。求人票のように全国的に統一された様式にしたいと思っています。[埼玉/県立/普通科]
- ・ 学科の名称に合った就職実績がきちんと出せているのかどうか、HPからはその情報にアクセスできない。例えば、声優科がある専門学校から毎年どのくらいが声優になれているのか。ほとんどなれていないのが現状であろうが、高校生は声優になれると信じて入学してしまい、ギャップに苦しむことになる。国家試験合格率に関しても同様に、入学者、受験者、合格者をきちんと明記してほしい。[福島/私立/普通科と他学科併設]

■ 資格取得実績の公開

● 大短進学率70%以上

- ・ 資格取得・国家試験合格者数にみられる誇大表示は一律避けるような施策が欲しい。[東京/県立/普通科]
- ・ 就職に役立つ「力」「資格」をどのように高めるか、具体的に情報提供していただきたい。[東京/私立/普通科]

● 大短進学率70%未満

- ・ 専門学校で取得した資格を活用できる仕事に就職できた生徒は、一つの学年の卒業生のうちどの程度の割合なのかは、ぜひ知りたいと思っている。[北海道/道立/普通科]
- ・ 入学者、卒業生、資格合格者の数字を公開。[北海道/道立/普通科]

■ その他

● 大短進学率70%以上

- ・ アポイントメントなしでの学校訪問は、困ります。[奈良/県立/普通科]

● 大短進学率70%未満

- ・ 学費高騰[佐賀/県立/総合学科]

1. 最も時間のかかる業務

- 最も時間のかかる業務のトップは「授業準備」（30%）。以下「部活指導」（19%）、「教材研究」（14%）。
- 2022年と比較して、大きな変化はない。

■最も時間がかかる業務（全体／単一回答）

（%）

生徒の指導にかかわる業務や学校運営にかかわる業務、外部対応といった業務のうち、最も時間がかかる業務は次のうちどれですか。ひと月あたりを想定してお答えください。

	2024年 全体 (n= 671)	2022年 全体 (n= 943)
授業準備	29.1	30.3
テスト作成	5.1	1.7
教材研究	14.0	14.4
部活指導	18.6	19.1
採点	2.1	1.6
宿題の確認	1.3	0.7
教室の点検・修理	—	0.1
保護者・P T A 対応	4.8	2.1
その他	20.0	28.8
無回答	5.1	1.1

Q51

- 設置者別にみると、私立で「部活指導」が全体と比較して低い。
- 高校タイプ別にみると、総合学科で「授業準備」が全体と比較して低く、また「その他」が3割を超えて高い。
- 大短進学率別にみると、進学率が高い高校ほど「授業準備」が高い。進学率が低い高校では「部活指導」のスコアが高い傾向がある。
- 高校所在地別にみると、東北で「部活指導」が全体と比較して特に高い。
- 校務分掌別にみると、管理職・計で「授業準備」、学年で「保護者・PTA対応」が全体と比較して特に高い。

■最も時間がかかる業務（全体／単一回答）

（%）

生徒の指導にかかわる業務や学校運営にかかわる業務、外部対応といった業務のうち、最も時間がかかる業務は次のうちどれですか。

ひと月あたりを想定してお答えください。

		授業準備	テスト作成	教材研究	部活指導	採点	宿題の確認	教室の点検・修理	保護者・PTA対応	その他	無回答
2024年 全体	(n= 671)	29.1	5.1	14.0	18.6	2.1	1.3	—	4.8	20.0	5.1
設置者別											
国公立	(n= 473)	27.3	4.7	13.5	20.7	1.9	1.3	—	3.2	22.0	5.5
私立	(n= 198)	33.3	6.1	15.2	13.6	2.5	1.5	—	8.6	15.2	4.0
高校タイプ別											
普通科	(n= 513)	30.6	5.5	14.8	18.3	1.8	1.4	—	5.7	19.1	2.9
総合学科	(n= 38)	21.1	7.9	10.5	15.8	—	2.6	—	—	34.2	7.9
専門学科	(n= 91)	29.7	2.2	13.2	23.1	5.5	1.1	—	3.3	20.9	1.1
大短進学率別											
70%以上・計	(n= 319)	31.7	4.7	15.4	15.4	1.9	1.9	—	5.6	18.8	4.7
95%以上	(n= 116)	33.6	5.2	21.6	10.3	2.6	1.7	—	6.9	13.8	4.3
70～95%未満	(n= 203)	30.5	4.4	11.8	18.2	1.5	2.0	—	4.9	21.7	4.9
70%未満・計	(n= 352)	26.7	5.4	12.8	21.6	2.3	0.9	—	4.0	21.0	5.4
40～70%未満	(n= 132)	27.3	3.0	15.2	22.7	0.8	—	—	4.5	22.0	4.5
40%未満・計	(n= 220)	26.4	6.8	11.4	20.9	3.2	1.4	—	3.6	20.5	5.9
高校所在地別											
北海道	(n= 53)	24.5	1.9	18.9	24.5	—	—	—	7.5	13.2	9.4
東北	(n= 83)	18.1	8.4	7.2	31.3	4.8	2.4	—	2.4	21.7	3.6
北関東・甲信越	(n= 62)	30.6	9.7	4.8	19.4	—	—	—	6.5	22.6	6.5
南関東	(n= 126)	33.3	1.6	14.3	14.3	2.4	2.4	—	4.8	20.6	6.3
東海	(n= 67)	25.4	7.5	14.9	22.4	—	—	—	3.0	22.4	4.5
北陸	(n= 20)	40.0	5.0	15.0	15.0	5.0	5.0	—	—	5.0	10.0
関西	(n= 77)	26.0	3.9	18.2	22.1	2.6	2.6	—	5.2	14.3	5.2
中国・四国	(n= 78)	28.2	6.4	15.4	6.4	1.3	1.3	—	10.3	26.9	3.8
九州・沖縄	(n= 105)	37.1	3.8	17.1	15.2	2.9	—	—	1.9	20.0	1.9
校務分掌別											
管理職・計	(n= 77)	40.3	—	15.6	19.5	2.6	—	—	1.3	19.5	1.3
進路	(n= 578)	29.4	5.9	13.7	18.9	2.1	1.6	—	5.2	20.4	2.9
学年	(n= 40)	32.5	7.5	17.5	10.0	—	—	—	15.0	17.5	—
教務	(n= 28)	28.6	—	17.9	17.9	3.6	—	—	3.6	25.0	3.6
その他	(n= 15)	26.7	6.7	6.7	13.3	—	—	—	6.7	40.0	—

※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/○0.0-5pt以上低い

※グレー文字：サンプル数20未満のため参考値

Q51

2. ICT活用により最も業務時間が削減されたと思う業務

- ICTの活用により最も業務時間が削減されたと思う業務は、「採点」が27%でトップ。次いで「授業準備」が15%で続き、他は1割未満と低い。「特になし」が24%と高い。
- 実際の業務と比較すると、最も時間がかかる「授業準備」は時間がかかる:29%に対して削減:15%で、ICT活用による業務時間削減効果は小さい。時間がかかる2位「部活指導」、3位「教材研究」については、それぞれ時間がかかるが19%、14%あるのに対して、削減は0%、6%と低く、ICT活用が寄与していないことがうかがえる。
- また時間がかかる業務としては低い「採点」（2%）については、削減が27%と高く、ICT活用が業務時間削減に大きく寄与している。

■ ICT活用により最も業務時間が削減されたと思う業務（全体／単一回答）

（%）

ICT活用により最も業務時間が削減されたと思う業務は次のうちどれですか。

	最も時間がかかる業務		ICT活用により最も削減された業務	
	2024年 全体 (n= 671)		2024年 全体 (n= 671)	
授業準備		29.1		14.5
テスト作成		5.1		6.1
教材研究		14.0		5.7
部活指導		18.6		0.3
採点		2.1		27.4
宿題の確認		1.3		8.3
教室の点検・修理		—		0.1
保護者・P T A 対応		4.8		4.5
その他		20.0		5.1
特になし		*		24.0
無回答		5.1		4.0

※*：該当の選択肢なし

Q52

- 設置者別にみると、私立で「採点」が全体と比較して低い。
- 高校タイプ別にみると、専門学科で「教材研究」が全体と比較して高い。また総合学科では「特にない」が4割を占め、ICT活用の業務への貢献度が低い。
- 大短進学率別にみると、進学率が高い高校ほど「採点」の割合が高く、進学率が低い高校と差が顕著である。また、進学率95%以上の層では「授業準備」のスコアが全体と比較して低い。
- 高校所在地別にみると、全体トップの「採点」が地域によってスコアにバラツキがみられる。
- 校務分掌別にみると、管理職・計で「テスト作成」「採点」、学年で「教材研究」「宿題の確認」が全体と比較して高い。教務では「保護者・PTA対応」が全体と比較して特に高い。

■ICT活用により最も業務時間が削減されたと思う業務（全体／単一回答）

（%）

ICT活用により最も業務時間が削減されたと思う業務は次のうちどれですか。

		授業準備	テスト作成	教材研究	部活指導	採点	宿題の確認	教室の点検・修理	保護者・PTA対応	その他	特にない
2024年 全体	(n= 671)	14.5	6.1	5.7	0.3	27.4	8.3	0.1	4.5	5.1	24.0
設置者別											
国公立	(n= 473)	13.1	5.9	6.8	0.4	30.4	6.6	—	4.2	3.4	25.8
私立	(n= 198)	17.7	6.6	3.0	—	20.2	12.6	0.5	5.1	9.1	19.7
高校タイプ別											
普通科	(n= 513)	14.8	6.8	4.7	0.2	29.2	9.7	0.2	4.5	5.1	22.4
総合学科	(n= 38)	10.5	5.3	2.6	—	26.3	5.3	—	—	10.5	39.5
専門学科	(n= 91)	15.4	3.3	13.2	—	22.0	4.4	—	7.7	4.4	29.7
大短進学率別											
70%以上・計	(n= 319)	11.9	7.2	3.4	0.6	34.2	7.8	—	5.0	4.1	21.0
95%以上	(n= 116)	7.8	6.0	2.6	1.7	39.7	6.0	—	6.9	5.2	19.8
70～95%未満	(n= 203)	14.3	7.9	3.9	—	31.0	8.9	—	3.9	3.4	21.7
70%未満・計	(n= 352)	16.8	5.1	7.7	—	21.3	8.8	0.3	4.0	6.0	26.7
40～70%未満	(n= 132)	16.7	3.0	6.8	—	22.0	11.4	0.8	3.8	6.8	25.0
40%未満・計	(n= 220)	16.8	6.4	8.2	—	20.9	7.3	—	4.1	5.5	27.7
高校所在地別											
北海道	(n= 53)	11.3	7.5	9.4	—	18.9	7.5	—	5.7	3.8	32.1
東北	(n= 83)	20.5	2.4	7.2	1.2	12.0	9.6	—	9.6	7.2	28.9
北関東・甲信越	(n= 62)	16.1	6.5	3.2	1.6	25.8	8.1	—	4.8	4.8	24.2
南関東	(n= 126)	13.5	7.9	2.4	—	31.7	9.5	—	3.2	6.3	19.8
東海	(n= 67)	13.4	3.0	7.5	—	37.3	7.5	—	1.5	3.0	22.4
北陸	(n= 20)	—	—	10.0	—	20.0	5.0	—	10.0	—	50.0
関西	(n= 77)	10.4	10.4	2.6	—	35.1	7.8	—	2.6	6.5	18.2
中国・四国	(n= 78)	14.1	3.8	9.0	—	28.2	10.3	—	1.3	3.8	25.6
九州・沖縄	(n= 105)	18.1	7.6	5.7	—	28.6	6.7	1.0	5.7	4.8	20.0
校務分掌別											
管理職・計	(n= 77)	13.0	15.6	1.3	—	36.4	2.6	—	6.5	9.1	14.3
進路	(n= 578)	15.2	5.5	6.4	0.3	27.3	9.0	0.2	3.8	4.3	25.8
学年	(n= 40)	15.0	5.0	12.5	—	15.0	17.5	—	—	—	35.0
教務	(n= 28)	10.7	3.6	7.1	—	32.1	7.1	—	17.9	7.1	14.3
その他	(n= 15)	13.3	6.7	—	—	33.3	6.7	—	—	13.3	26.7

※全体値と比較して ■+10pt以上高い/■+5pt以上高い/0.0-5pt以上低い

※グレー文字：サンプル数20未満のため参考値

Q52